

1880

步兵第七十六聯隊國境守備隊月報

自昭和十年五月一日
至昭和十年五月三十日



目次

第一章 警備ノ概況

第一節 警備行軍實施ノ概況

第二節 憲兵警察トノ連絡

第三節 警備施設

第二章 對岸ニ於ケル治安概況

第四節 琿春縣

第五節 汪清縣

第三章 對岸ニ於ケル馬匪賊並鮮匪ノ狀況

第六節 滿洲國ノ部

第七節 露領ノ部

第四章 滿洲國軍隊警察自衛團ノ狀況

第八節 滿洲國軍隊

第九節 滿洲國警察

第十節 滿洲國自衛國

第五章 交通々信ニ関スル事項

第十一節 交通

第十二節 通信

第六章 飭成裝備一覽表

歩兵第七十六聯隊國境守備隊月報

第一章 警備概況

第一節 警備行軍實施ノ概況

警備行軍實施ノ狀況附圖第一ノ如シ

第二節 憲兵警察トノ連絡

管内憲兵警察トハ警備ニ遺憾ナキヲ期スル為

特ニ連絡ヲ密ニシ管内情勢ニ注意シアルモ特

記スヘキ事項ナシ

第三節 警備施設

特ニ記載スヘキ件ナシ

第二章 對岸ニ於ケル治安概況

第四節 琿春縣

一般ノ狀況

共匪ノ塔子溝及二道河子集團部落ノ襲撃柳樹

河子自衛団三道溝集團部落ノ襲撃企圖駐泰平
溝滿軍ニ對スル宣傳策動等武力ノ拡大ヲ企圖
ニ彼等ノ行動ヲ豫測スル時ハ長期大討伐及奥
地軍隊ノ配置等拔塞源の処置ヲ必要トス

第五節 汪清縣

一般ノ狀況

日滿軍警ノ間断ナキ討伐ト各機關ノ宣撫工作
ノ結果ハ著シク賊勢ヲ衰退セシメタリト雖モ
未タ殘匪多クシテ容易ニ震滅ニ得サルノ狀況
ニアリ格段ノ努力ヲ要スルモノアリ
第三章 對岸ニ於ケル馬匪賊並ニ鮮匪ノ

狀況

二 琿春縣
人 兵馬匪ノ狀況

琿春縣内兵馬匪ハ其ノ影ヲ潛メ大ナル活動

ヲ見サルモ東寧縣境附近ニ根拠ニ通行者
ハ附近部落ニ出沒ニアリテ其ノ賊數次ノ如
シ

(イ) 德義軍

(ロ)

兵力約ニ口名ニシテ五八脖子與地附近ニ根
拠ニアリテ各自長銃ヲ所持ニ拳銃數挺ヲ有
ス現在明山隊ト深干関係ヲ有スルモノ、如
ク明山隊ヨリ監督指導者數名ヲ派遣ニアリ
新起軍
兵力一三名各自長銃ヲ所持ニアル外拳銃若
干ヲ有ス
同隊ハ前項德義軍ト合流ニアリシカ先般意
見合ハス分離セリ
根拠地一定セサルモ東寧街道附近ヲ游雲ニ

(ハ) ッ、アリ
占中山隊

兵力一九名ニシテ頭目曲蒸ナリ、兵眷ハモ一
ゼル一廻轉式一、ブローニニグー、小銃三八式
三、機関槍四、連珠槍一ニ、彈藥各自三、ワ乃至五
口、發ラ所持ニ瑋春縣境ニ根拠ニアルモノ、
如シ

(ニ) 自稱義勇軍安振有ノ動靜

自稱「義勇軍第十四混成旅第三團長安振有」
人ハ從來東寧縣老馬山方面ニ根拠ニアリテ
附近ニ出沒ニアリシカ最近共匪ト連絡部下
百余名ヲ率ヒ瑋春縣下ニ侵入各地ニ出張暴
威ヲ擅ニシアリ
2. 共匪ノ狀況

(4) 兵力編成

瑋春縣内ニ出沒スル共匪ハ東北抗日救國軍
 第二軍第二獨立師第二團ニテ汪清縣燒鋪
 或ハ杜荒子奧地金蒼附近ニ根據ミアルモノ
 ニシテ從來同團長ハ滿人何德潤タリシカ最
 近滿人候國忠當四十二年ト交代シタルモノ
 ナリ

而シテ第二團ノ武裝共匪ハ目下六ヶ連百八
 十名ヲ算スルニ至リ各連兵力左ノ如シ

第一連長 金恭俊以下三口名「投降滿軍六名ヲ含ム」

第二連長 金載根以下二九名「ハ名ヲ含ム」

第三連長 連長欠員ニ付候同中
兵トシテ直接指揮ナリ 三二名「六名ヲ含ム」

第四連長 欠號連ナリ

第五連長 羅龍洙以下二七名「六名ヲ含ム」

第六連

世降滿軍兵ヲ以テ
編成ニテ連長不詳

三〇名

第七連

三〇名

(四) 企 図

共匪等ハ大荒溝駐屯滿軍次テ仁興坪採金場
 ヲ襲撃滿軍兵八十余名ヲ合流セシメ加フル
 ニ多数ノ武器彈藥ヲ得タルニ勢ヲ得各地集
 団部落ヲ襲シ小銃計二十九挺彈藥千二百發
 及其他ヲ掠奪セリ
 惟フニ彼等ハ武器ノ奪取及隊員ノ増加ヲ目
 途セル如ク素質不良警備薄弱ナル滿軍警自
 衛団ハ之カ目標トナリアリテ屢々滿軍ニ對
 スル宣傳文及^{散佈}集團部落ハ一個モ建設セシメ
 ストノ豪語ノ如キ其ノ企圖ノ一端ナリ

ニ注 清 縣

1. 東滿特委責任トシテ王廣有就任セリ

東滿特委責任ハ李相默脱走後久員中ナリシ

カ東滿特委幹部滿人王廣有留三十年位責任

トシテ就任セル趣ナルカ該特委根據地ハ從

來延吉縣地方ナリシモ四月上旬汪清縣腰營

溝ニ移動セルモノ、如シ

2. 吳義成一派ノ行動

最近東寧縣一帶ニ蟠居セル吳義成一派ハ羅

子溝襲撃ヲ企圖シ同地滿軍ハ目下極力警戒

中ナルカ叛將吳義成ハ東寧穆稜縣境附近ニ

在シ孔憲永ヲ總指揮トシテ部下三百名ヲ統

率シ南下ノ機ヲ窺ヒツ、アリ

3. 吳忠恒、鮑甲及三俠ノ動靜

孔憲永ノ配下タル別動隊第十四旅長吳忠恒、鮑

馨甲及三俠八部下二百カヲ率ヒ東寧縣走馬
 山羅子沟東方十四邦里永清溝羅子沟東方四
 里大平溝羅子沟西方二里四道溝羅子溝西方
 三里一帯ニ蟠踞シ吳義成ノ南下ヲ待テ羅子
 溝駐屯滿軍ヲ一挙ニ壊滅シタル後長驅回寧
 沿線ニ進出小都市襲撃ヲ敢行セント豪語シ
 アルカ渠等ハ現在迫惠砲三重撃機各四ノ外
 手榴彈多數ヲ有ニアリト

4. 東北人民革命政府ヲ抗日(反日)救國民衆政府

ト改稱セリ

汪清縣大江清奧地ニ革命政府ヲ有シ延吉縣
 三道崴ニ第一獨立師ヲ延吉縣荒岑ニ第二獨
 立師ヲ配置セル東北人民革命軍ハ這般革命
 政府ノ改稱ニ伴ヒ中國共產黨滿洲省委ノ指

令ニ基キ東北抗日(反日)救國軍ト改稱シタリ
改稱理由

人民革命政府ヲ解体ニテ抗日救國政府ヲ建
設セルヲ以テ其隸屬軍隊モ亦變更スルヲ當
然トス

(ロ) 東北人民革命軍ハ朝鮮人共產主義者大多數
ヲ占メ軍ノ霸權ヲ握リアルモ中國反日群衆
ヲ廣汎ニ吸收セニカ爲ニハ救國軍ナル名稱
ヲ附スルヲ得策トス

(ハ) 東北人民革命軍ハ共產黨紅軍ナルヲ一般ニ
認識スルニヨリ階級革命軍武裝組織ニ局限
セラレ民族的反日統一戦線ヲ確保ニ得

(ニ) 東北救國軍ノ任務
階級意識ノ有無ヲ問ハス民族的反日救國ニ

重典ヲ置クコト

(ロ) 中國反日兵士ヲ廣汎ニ吸收セニカ為メ堅實

ナル滿人將校ヲ多數採用スルコト

(イ) 日帝ト走狗ノ賊産ヲ沒收スルコト

(ニ) 日滿要人及走狗ヲ暗殺スルコト

(ホ) 日滿軍警及自衛団ノ武装ヲ解除ス

其 他

春明郷西大坡及十里坪張家店大荒溝方面一

帶ニハ東北人民革命軍第二軍第二獨立師第

一団第二連長趙滿天及滿義勇軍司令柴世榮

部隊ノ一ヶ連劉某及東北人民革命軍第二軍

第二獨立師第一団獨立連長靠勝崔竟彬許某

中九勝占東洋等七百余名ノ賊団蟠踞ニアリ

何レモ日滿軍ノ虚ニ乘セニト畫策ナリ

0844

三 瓊春汪清縣下匪賊分布圖附圖第三ノ如シ

第七節 露領ノ部

一 煙秋ニ化学戦隊増加配属サル
 四月六日蒲潮方面ヨリホセツトニ入港セル軍
 艦ニテ化学戦隊員約八十名上陸直チニ煙秋ニ
 至リ同地ニテ一ニ事務室ニ宿営セリ
 右ハ今回新ニ煙秋赤軍ニ増加^取層セラレテ
 目下事務室並ニ倉庫等ノ改造中ナルカ化学戦
 隊用貨物ハ陸揚ニ際シ地方民ヲ使用セス隊員
 ノミヲ以テ之ヲ行ヒホセツトニ煙秋間ハ自動貨
 車ニ頓積七台ヲ使用シ三回ニ亘リ運搬シタル
 為内容等全然判明スルニ至ラス尙ニ化学戦隊ハ
 何シヨリ來レルモノナリヤ判明セズ
 ニスバスカト飛行聯隊附黄級操員黄ヒヨニ鮮
 人ヨリ煙秋中学長金昌洙宛ノ私信情報

右情報ニ依レハ三月上旬モスコ！国防委員會ヨリ「スパスカヤ」艦行聯隊宛送附ニ來レル艦行機一台ハ最新式ノモノニシテ司下同隊秘密格納庫ニ格納ニアリ

該艦行機ハ無爆音ニシテ機体構造次ノ如シ

1. 金屬製

口翼長三五米 單葉

ハ發動機八筒 六筒ハ翼ニ二筒ハ翼下ニ

ニ時速ニ六〇料

ホ翼内ハ音聴取室急電室寫真室寢室等アリ

三、コリスクウスリスキ！駐屯軍

但歩兵聯隊「聯隊」 一八〇名

騎兵聯隊「聯隊」 一四〇名

砲兵聯隊「聯隊」 一〇〇名

野砲	騎兵	狙撃	ラズドリノー	馬匹	自動車	戦車	化学	戦車	工兵
隊	隊	隊	駐屯軍	砲	トラック	装甲自動車	兵隊	隊	大隊
一	一	四		二	乗用	五	一	二	一
一	四	五		三	乗	五	五	三	四
〇	〇	〇		〇	トラック	五	五	〇	〇
〇	〇	〇		〇	ク	五	〇	〇	〇
名	名	名		門	用	五	名	名	名
				頭	ク	一			
				台	九	五			
				台	五	五			
				台	一	五			
				台	五	五			
				台	一	五			

第十師團長	部隊長	五、バラバシ駐屯蘇軍	馬匹	自動車	戦車	戦車隊配属	兵力合計	装甲自動車隊	化学兵大隊	戦車隊	工兵大隊
アニナムリ	氏名左記	蘇軍ノ總數ハ約五千五百ニシテ		乗用	トトラック	九〇〇〇名		一隊	二大隊	二大隊	一大隊
四三年				一八〇〇頭	一五台	二七台		三〇〇名	一〇〇〇名	三〇〇名	四〇〇名

第十六 聯隊長 グリニコーフ 三七年

第二十四 聯隊長 アパナシ 三九年

第二十七 聯隊長 イリモニ 四〇年

大隊長 ガリホーフ 三五年

ホルイヨ

右表中第十六 聯隊長グリニコーフ 及大隊長

ガリホーフノ 兩名ハ 前報ノ 如ク 國境線 監視中

爆薬ノ 誤發ニ 因リ 死亡シタル 前 聯隊長クリモ

大隊長「ヤツコブアード」ノ 後任ナリ

六、煙秋「ゲベ」隊ニテ 毒瓦斯 普及教育 實施

煙秋「ゲベ」隊ニ 於テハ 管下「ゲベ」分隊ヨリ 班

長「下士官」各一ヲ 召集 三五月五日ヨリ 二十五日

迄 二十日間ニ 亘リ 毒瓦斯 性質 不明ノ 使用法 並

防護ニ 関スル 普及教育ヲ 實施中ニシテ 之カ 指

導、為浦潮赤軍ヨリ砲兵大佐「バーズニスキ」
外大尉一ヲ該地ニ湊遣セリト

七、軍隊ノ歐露返還

從來尼古里斯克地方駐屯蘇軍ノ總數一万八千

五百余名「滿蘇國境線各要ニ駐屯セル約四千五

百名ヲ含む」所四月七日頃中央政府軍務總長

ガ「リニン」ヨリノ内命ニ依リ約八千五百名ハ同

月十一日ヨリ同十三日迄三日間ニ亘西部國境

「アツキシツリ」(獨蘇國境)地方ニ移動シ現在殘數

一万余名ナリ

而シテ内四千五百名ハ左ノ如ク蘇滿國境ノ各

要地ニ分駐シ尼市ニハ約五千五百名駐屯シア

リ

ポルトガ

約二〇〇〇名

騎兵	步兵	種別人質別及軍馬砲等左ノ如シ	ツ旧兵舎ニ棟三階ニ棟ニ收容中ナルカ之カ兵	リ増員セラシ現在約五〇名ニ達シ同地シワ	赤セツトノ駐屯赤軍ハ四月三十日浦汐方面ヨ	ハニソト駐屯部隊ノ増員	仁ニ各地共從來ヨリ減員ナリ	セツペテキ	松田関	五峯山	ポクロフカ	ユリサユフカ	プテロフカ
一〇名	二五〇名								約三〇〇名	約七〇〇名	約三〇〇名	約四〇〇名	約四〇〇名

砲兵 一〇〇名
 其他 三〇名
 計 五〇〇名
 軍馬 約二五〇頭
 砲 八門
 注「本情報ハ概シテ信用シ得ヘシト思惟セラレ
 而シテ其原因目的カ奈辺ニアルヤ不明ナル
 モホセツトニ駐屯セシハ煙杖ニ收容シ得サ
 ルカ為ナラン然ラハ之カ一時的ノモノニシ
 テ將來之ヲ國境地帯ニ配兵スルヤ或ハ煙杖
 部隊ノ増員トシテ相當長期駐屯スルヤハ
 監視ヲ要スルト共ニ後方國附近ニ障地構築
 及其他ノ件ト共ニ注意スヘキ現象ナリ
 九國境警備隊ノ狀況

1. 地伸河國境警備隊

地伸河西淡洞國境警備隊ハ隊長以下全員約二十名ニシテ砲⁷IAナルカ如シ一門機関銃⁷重機⁷輕機⁷四五挺ヲ有シ毎日五六名ノ警備班ヲ編成シ國境警備ニ任ス

2. 松田洞國境警備隊

松田洞國境警備隊ハ隊長一等大尉⁷エリムルナバ⁷パ⁷ケ⁷當三十四年以下全員二十五名ニシテ機関銃五砲一門ニ有シ昼夜國境警備ニ任

ス⁷ラ⁷ブ⁷ト⁷ニ⁷カ⁷赤軍ノ原所屬並部隊號ノ狀況

ス⁷ラ⁷ブ⁷ヤ⁷ニ⁷カ⁷ニ⁷ハ⁷大將級一名少將級ニ駐在シ

アリ又師團司令部並旅團司令部ノ有無ニ関シ

テハ確報ヲ得サルニ步騎砲ノ三ヶ隊ハ駐屯

ニアリ

1. 歩兵聯隊

歩兵聯隊ハ客年「イルクツクヨリ」移動ニ來シ
ル歩兵第二十八聯隊ニシテ兵力約四百五十
名聯隊長歩兵大佐「ラックコロフ」當年三十二
年ニシテ莫斯科將校学校出身ナリ

2. 騎兵聯隊

客年十月中旬「ハバロフスク」ヨリ移動ニ來シ
ル騎兵第三十三聯隊ニシテ兵力約二百名「ワ
ニ」百頭聯隊長ハ「ナサレビチユ」當三十八九
年ニシテ初等学校ヲ卒業セルノミナルモ華
命時拔群ノ功績ニ依リ其ノ後累進セルモノ
ナリ

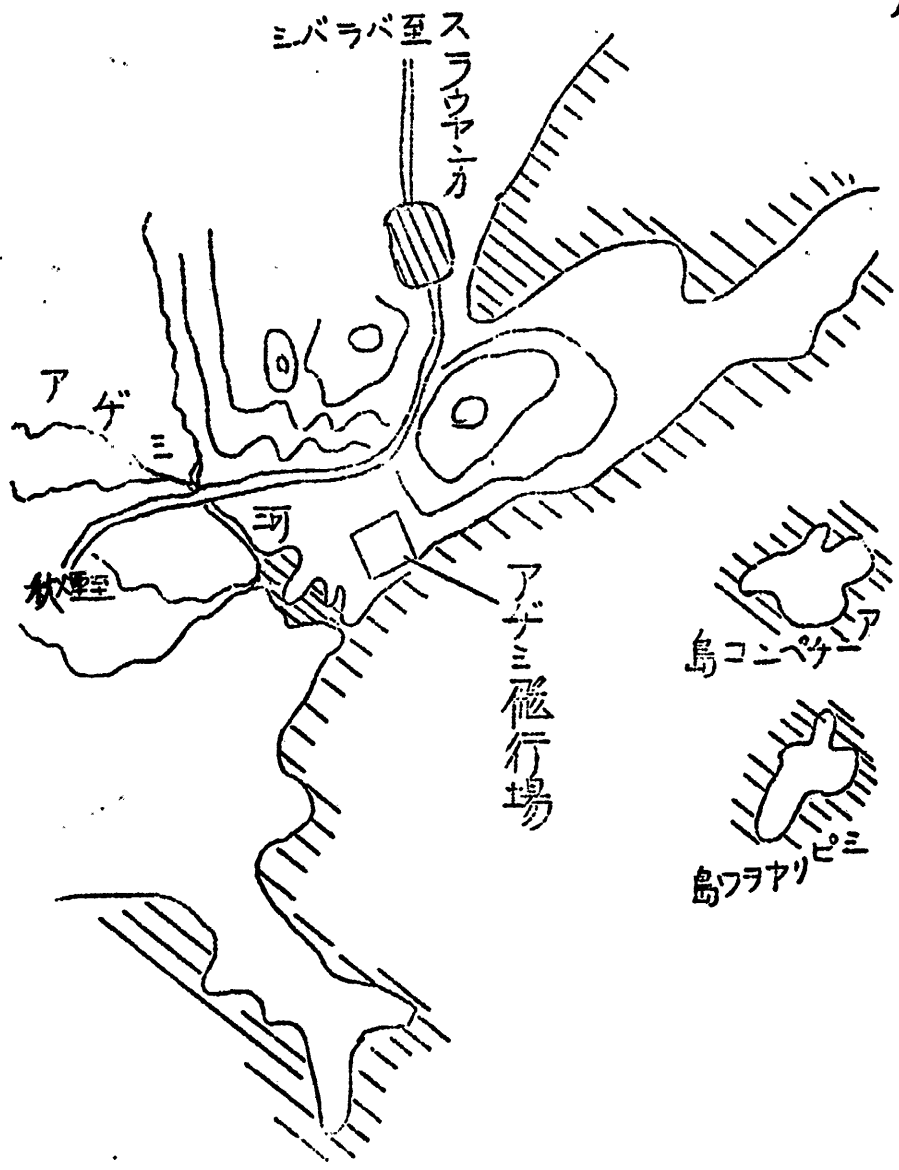
3. 砲兵聯隊

五

客年ババロフスコヨリ移動ニ來レル砲兵第
 十二聯隊兵力約百名聯隊長ハペニクトコ當
 三十八年位ニシテ莫斯科將校學校出身ナリ
 以上赤軍中ニハ鮮人兵士六名服務ニアリ
 尚工兵化学兵等駐屯ニ居レルモ歩兵聯隊ニ
 配屬ニアルモノ、如シ
 二、
 アゲニ飛行機場ノ狀況
 アゲニ飛行機場ノ位置ハ從來「アゲ」三河口南方「ネ
 ル」パ山北方ニアル如クナリニカ驛圖第二ノ如
 ク「アゲ」三河口東北方約千五百米ノ地真ナルコ
 ト確實ナリ
 同飛行場ニハ從來復葉偵察機ニ機在リシカ四
 月中旬「スパスカ」ヨリ偵察機一機飛來シ時々
 スラフヤニカ「煙」秋方面ヲ飛翔シ居シリ

同磁行場ハスラフヤニガ
 戒ニアリ
 要図第一
 依リ最豆ニ終リ

アゲニ磁行場



ニ、ニコリスク駐屯軍「ウファ」ニ区域ニ分散春耕

ニ從事ス

本年五月上旬ヨリニコリスク駐屯赤軍ノ一部
ハ「ウファ」ニ区域各地ニ種蒔農耕ニ從事シツ
、アリ其ノ數各「ホルホ」ス毎ニ三〇乃至五〇
名ニシテコレカ理由ニ就キ探聞スル処ニ依リ
ハ全区域農民ノ多クカ脱出或ハ春耕ニ支障ヲ
來スニ至ル結果コレヲ補フ為メニシテ「トラク
タ」ノ運轉播種等一般農民ト協同労働ニ服
アリ

一、ダブホニ赤軍駐屯ス

ハ「ダブホ」ニハ以前「ダブ」ノ數名カ駐在ニアリタ
カ去ル四月下旬ヨリ「ニコリスク」ニ引揚ケ浦
朝ヨリ四月二十五日赤軍一〇〇名カ來駐「ダ

第四章 滿洲國軍隊警察自衛団ノ狀況

第八節 滿洲國軍隊

一 滿洲國軍隊

瑋春派遣熱河支隊ハ前報ノ如ク其ノ素質依然トシテ良好ナラスミテ軍事教官並ニ日系軍官等ハ銳意之カ改善ニ努メアリト雖モ未タ其ノ弊ヲ脱シ得サルノ狀況ニアリ之カ教育訓練ニ就テハ尚格段ノ努力ヲ要ス

第九節 滿洲國警察

特ニ記載スヘキ事項ナシ

第十節 滿洲國自衛団

人有給自衛団ヲ解除ス

瑋春縣敬信保小盤峯自衛団ハ有給団員十名ヲ部落警備ニ任シ來ルルカ現下自安狀況ハ

之カ必要ナキニ至リタル一面地方民ノ經費
輕減ノ為瑋春縣警務局ニ於テハ四月四日之
ヲ解散セシメ貸與兵器ハ返納セシメタリ
而シテ警務局ニ於テハ解散團員三名ヲ試験
ノ上警士ニ採用シ他ノ就職ニ関シテハ斡旋

中ナリ

2. 壯丁團ヲ設立

瑋春縣敬信保飯化甲ニ於テハ有給自衛團ノ
解散ニ伴ヒ保甲法ニ依ル壯丁團ヲ設立スヘ
ク準備中ノ處三月下旬ヨリ四月上旬ニ亘リ

次ノ如ク設立ヲ見タリ

(1) 興康甲團員 一〇七名

(2) 翰誠甲團員 七三名

第五章 交通々信ニ関スル事項

第十節 交通

一、琿春—東興鎮間道路ノ狀況

琿春東興鎮間ハ目下鉄路總局琿春營業所自動

車ハ連日概ネ所定通り時間ニテ運行ニアリ又

太平川ハ水量少ナク自動車ノ渡河ニ支障ナシ

第三節 通信

特記事項ナシ

第六章 編成裝備一覽表

當守備隊編成裝備一覽表附表第一ノ如シ

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

3年 12月 18日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫

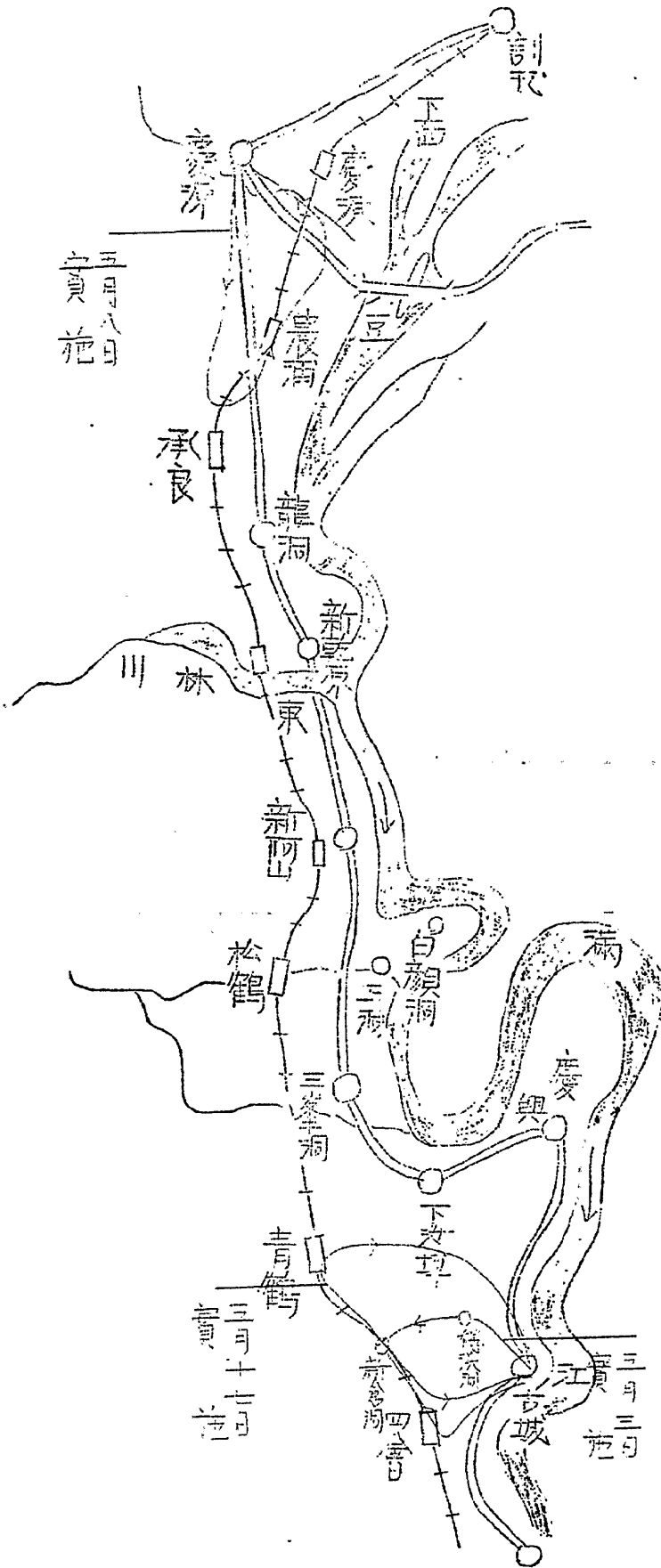


歩兵第六聯隊國境守備隊編成状況一覽表（昭和二十二年）

備考	計	古城小隊		第三中隊		徳城小隊		第三中隊		新阿山小隊		本中隊		部隊		職別	備考
		出	内	出	内	出	内	出	内	出	内	出	内	兵	佐		
一 出立自動人員ヲ「内」ハ鮮内ニアルモノヲ「上」ハ特種空機ヲ示ス 二 編成定員ニ對スル不足人員大尉一 二三等兵一〇 三 編成定員ニ對スル不足人員大尉一 二三等兵一〇	1													兵	計		
	4			1		1		1						兵	計		
	5	1		1	1	1		1						兵	計		
	7			2		2		2		1				兵	計		
	7	1		1	1		1		1					兵	計		
	23	2		6	2	6	2	2	4	1	1			兵	計		
	50	2		15		17		16						兵	計		
	311	31	3	76	32	71	33	1	18					兵	計		
	408	37	3	102	36	99	37	3	23	1	4			兵	計		
	1													兵	計		
	1													兵	計		
	3			1										兵	計		
	2			1										兵	計		
	4	1		1	1	1	1	1	2					兵	計		
1													兵	計			
1													兵	計			
4	18	2	1	3	2	1	1	2	2				兵	計			
11	426	39	4	105	38	1	100	39	5	23	1	12	兵	計			
2													兵	計			
2													兵	計			
2	12	1	2	1	1	1	1	1	2				兵	計			
12		1	12	1	12	1	12	1	12				兵	計			
		少尉見城寺平		大尉山崎三男		少尉岩井三		大尉山崎三男		大尉永日敏男			中尉長谷川敏男				
		歩三六番六		歩二二番四		歩二二番四		歩二二番四		歩二二番四			歩二二番四				

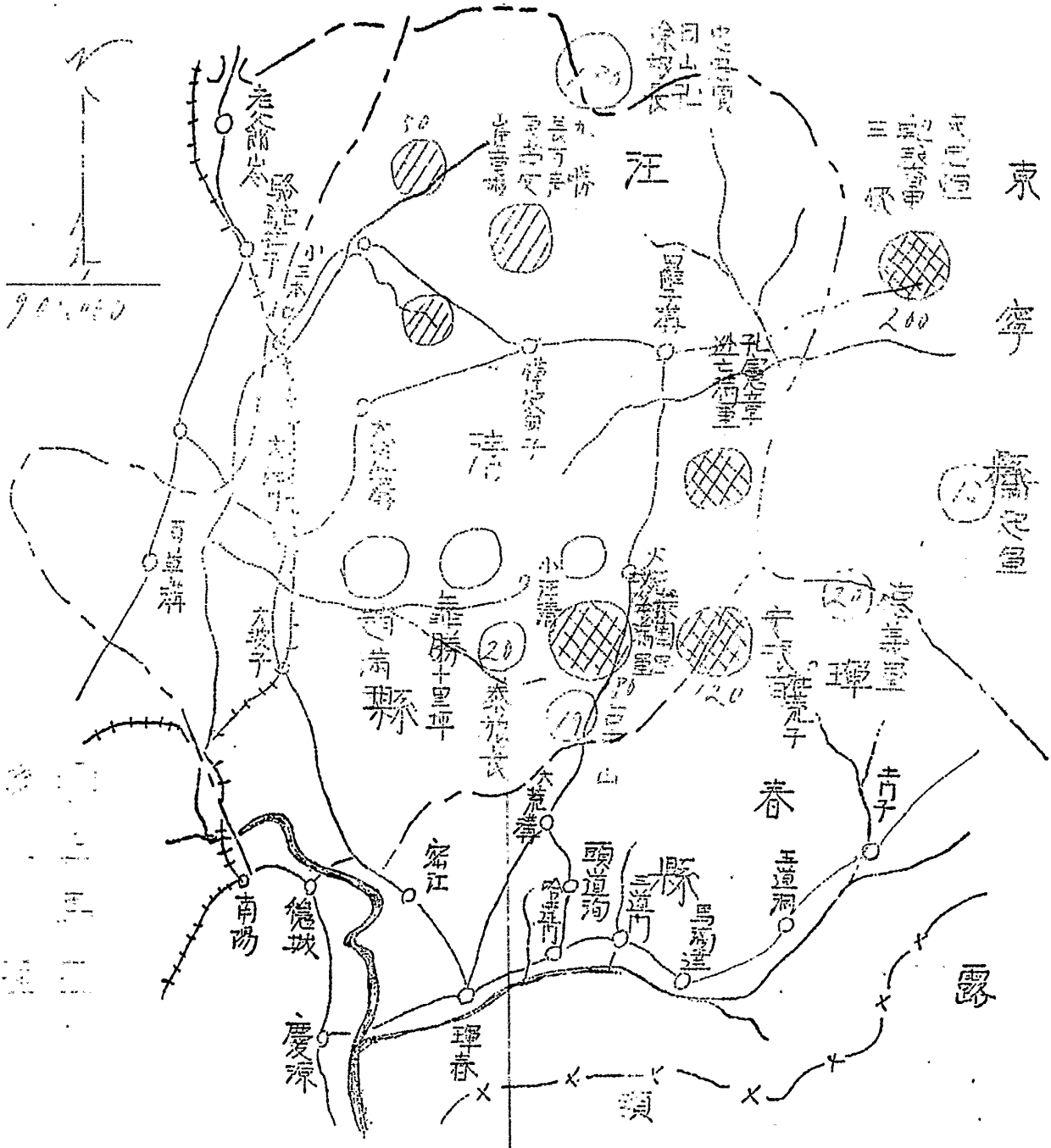
附圖第一

五月中訖言備行軍實施狀況要圖



璋春汪清縣下兵馬匪分布要圖

附圖第二



秘

歩兵第六十三聯隊國境守備隊月報
自五月三十一日
至五月三十一日

目次

第一 鮮内警備討伐ノ概況

第二 對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況

ノ、治安概況

ニ、政情一般

ノ、政事工作ニ関スル事項

ノ、馬匪賊及鮮匪團ノ情況

ノ、日軍ノ狀況

ノ、滿軍警察署自衛團ノ配置移動及放育ニ關スル事項

第三 交通 通信 補給 經理 衛生 関スル 事項

ノ 對

内

ノ 對

岸

第四 歩兵 第七十三 聯隊 國境 守備 隊 編成 一覽表

第一、舞内警備討伐ノ概況

一) 五月二十七日午後九時頃舞内匪珍偵(舞内東方約二里)

ニ現レ金品ヲ強奪シ入質ヲ拉致シタルタメ舞内警察ハ殆ント全カヲ擧ゲテ之カ討伐ノ爲出勤セ

リ然ルニ匪賊ハ同地北方山地内ニ逃走シ所在不明

且警察隊ノ討伐意ノ如クナラス

二十九日午後ニ至ルヤ再ヒ珍偵ニ向ヒ十數名ノ

匪賊前進中ナル情報アリシ爲住民甚タシク不安

ニ陥リ且ニ番上リ列車(午後四時五十分舞内發)其ノ

出發ヲ躊躇スルニ到レリ

狀泥右ノ如クナリシ爲守備隊長ハ地方治安維持
及鐵道保護ノタメ先ツ守備地應急警備ノ配置ヲ
採ルノ必要ヲ認概テ防衛計畫ノ示ス所ニ基キ次
ノ如ク處置セリ

一 警備隊ノ派遣

一 珍貨警備隊

高橋特務曹長以下十三名トシ珍貨——西豊

山ノ間ノ鐵道保護及附近ノ治安維持

一 新站警備隊

日野ノ特務曹長以下十二名トシ新站——車嶺間

ノ鉄道保護及治安維持ニ任セシム
 2、列車警乗ノ派遣

二十九日ニ番列車ヨリ列車警乗矣ヲ乗組マ
 シメ鉄道ノ運行ヲ整齋ナラシム
 3、西湖警察隊ノ派遣

三十日午前ニ至リ匪賊ノ主力行動範圍ハ梁
 永洞—西嶺嶺—五竜洞—樟洞ヲ連ネル線以
 北ノ地区ニ縮少ナレ現在撫ネ西湖洞(長山北
 五里江岸)南方地区山地ニ徘徊中ニシテ私カ
 ニ同地附近ヨリ脱出ノ機ヲ窺ヒツツアルモ
 ノ如ク判断セラレタルヲ以テ同午十一時

三、

小林少尉以下十三名「ト」トクニ依リ同地ニ急
 派シ同方面ノ治安維持及討伐ニ任セシメタ
 リ

(二) 守備地内應急警備ノ配置

茨山市内ハ警察ノ殆ント全カト憲兵ノ大部ハ出
 動シアル為民心稍不安トナリタルヲ以テ二十名
 自夜守備地内應急警備ノ配置ヲ採リタリ

イ警備小隊ノ派遣

警備小隊ヲ市内中央ニ置キ概ネ防衛計畫ニ示
 所ニ依リ歩哨ヲ配置ス
 之カ爲民心沈静ヲ期スルヲ得タリ

る、警備衛兵ノ増加

守備隊直接警戒ヲ嚴ナラシム

憲兵業務ノ援助

突一〇名ヲ憲兵分隊長ノ指揮ニ属シ憲兵業務

ヲ援助セシム

右ノ如クハ二十九日又三十日夜ノミ之ヲ配置

ス

(三) 應急警備ヲ採リタル後ハ状態

應急警備ノ配置ヲ採ルマ地方民心沈静ニ歸シ珍

賃附近ノ如キハ離隔セル住民ハ警備隊ノ許ニ集

ルモノ約一〇〇名ニ達シ且警察隊ノ対伐モ漸次

(三) 警察官ノ出勤状況

進歩シ匪賊ハ遂ニ舞内ニ止マルヲ得ハ三十日未
 明脱出(三十日午後五時半判明ス)セリ、
 右被拉致者二名中康楚根ハ銃殺セシメラレタル
 モ金昌鉉ハ無事歸還セリ
 右情況ニ接シタルモノ來本計重ハ五三〇紀念日
 ニ方リ鉄道破壊都市襲撃舞内ノ治安ノ攪乱ト及
 乱矣喪ノ煽動ヲ目的トセル共匪ノ計画的行動ナ
 リシヲ以テ三十夜迄之ヲ斷續シ尔後逐次兵力ヲ
 集結シツツ情狀ノ偵知ニ努メツツアリ
 受山警察署ニ於テハ二十七日午後十時三十分頃

非常召集ノ上署長以下二十名ヲ三隊ニ分子自動
 車ニテ現場ニ出勤直チニ捜索ニ任シタルモ賊ノ
 逃走セリト覺ヘシ山又ハノ雜木疎密在シアリ
 テ捜索容易ナラス遂ニ賊ヲ見ス
 二十八日午後六時頃直洞(珍偵洞北方約八軒)附近ニ
 於テ茂山署梅津警部補ノ部隊ハ十数名ノ賊ト遭
 遇之ト交戦約三十分ニシテ賊ハ二派ニ分レ其一
 部六七名ハ龍川方ニ一部七八名ハ珍偵洞方面ニ
 向レモ山傳ヒニ逃走セリ
 茂山警察署坂田部長ノ率ユル一隊ハ二十九日午
 後零時十五分ハ羅支峯ニ於テ匪賊約十名ト遭遇

五、

之ト交戦約三十分ノ後賊ハ龍川方面ニ逃走セル
カ此ノ際^被致者康楚根(平壤日午後九時
珍寶洞居住氏)ヲ射殺セリ
右戦半ニ於テ我ノ鹵獲品左ノ如シ

左記

- (一)三八式歩兵銃 一
- (二)銃 劍 一
- (三)小銃彈藥 五發
- (四)手榴彈 四發
- (五)背負袋 六
- (六)軍情 二
- (七)中折帽 一

(3) 赤旗 (三尺四方)

(4) 白旗

(5) 革命旗

(6) 其他食糧 (片パン)

通間分

革命旗圖

全世界無産階級
東北人民革命軍
第一師
第一連

旗の寸法

同日午後四時頃新津部長部隊ハ前記匪賊ノ一派ト覺シキモノ三名直洞ヨリ西方約一里半ノ地矣
逃走中ナルヲ現認之ヲ追撃セシカ遂ニ賊影ヲ見失ヒタリ

二十九日午後四時頃梨洞(嶺嶺西方)ニ十三名ノ匪賊現レ珍貨洞方面ニ向テ進行シアリトノ部落民ノ急報ニ依リ深永方向ニ出動中ノ今関署長一

六

行ハ自動車ニテ同日午後五時頃珍貨洞ニ到着直
 子ニ梨洞ニ向ケ出動シタルカ該匪ハ既ニ何レカ
 ニ逃走行衛不明ナリ
 之カ爲メ討伐隊ハ二十九日夜ハ梨洞ニ宿營三十
 日未明ヲ待テ附近一帯ニ捜査ヲ爲セリ
 當時ニ於ケル討伐隊ノ概要附圖第一ノ如シ
 四、憲兵分隊ノ行動
 二十七日以來警察官 討伐隊ノ主力方面ニ下士
 官以下四名ヲ派遣シ軍部ノ執ルヘキ決心ノ資料
 ヲ得垂ニ討伐隊ノ爲メ鳩ヲ携行茂山トノ連絡ニ
 任レツツアリ

尚鉄道警備隊西江討伐隊ノ連絡並ニ情報ノ蒐

集ニ社シ入必ノ定ニ努メタリ

五 共匪ノ入相及服裝

賊ハ何レモ三十ヤ前後ノ舞入ニシテ約半數

ハ長銃ヲ攜帶他ハ拳銃何レモ茶褐色ノ衣袴

ヲ用ヒ軍帽及中折帽烏打帽等ヲ使用セリ

尚一名襟章ノ赤キヲ布スルモノアリ

六 越境出動ニ関スル件

直對岸安圖縣内各地ニ小匪賊ノ出沒横行ヲ見

漸次尖銳化シ舞亦襲撃ヲ企圖シツアリシカ與

地大部隊匪賊ノ五口江流域進出ニ依リ賊情俄

然激化シ江岸線數里ノ地矣ニ出沒舞内地攻撃

ヲ揚言スルト共金品強奪ヲ敢行シツツアリタ

ルカ匪賊五名ニ長農事洞對岸永坪附近(農事

洞ヨリ約四里ニ潛伏農事洞葉撃ヲ企図シ居レル
 ヲ以テ農事洞警察署ヨリ蟻川警部補以下十
 六名ノ討伐隊ヲ編成シ五月十七日午後六時
 越境丑動セシメタリト
 賊ハ討伐隊ノ狀況ヲ感知シ既ニ大馬鹿溝方
 面ニ逃後ナリシヲ以テ討伐隊ハ根據地ヲ破
 壊シ遊動警戒ヲ爲シツツ彼等ニ相當脅威ヲ
 與ヘ五月十八日午後五時三十分返還セリト
 入
 討伐隊ノ行動
 五月十七日午後六時全員農事洞ニ集結直チ
 ニ被這者白雲興ヲ道案トシ農事洞紅岩洞ヨ
 リ越境水坪ニ向ヒ前進申午後八時頃紅岩村
 對岸ニ於テ尚被拉致者黃兩若ニ出會本人ハ
 五月十六日午後四時頃間水坪ニ於テ匪賊五

名ニ遭遇シ持金品ヲ奪取置セラレ十七日
 午後三時頃釈放サレ邸宅途中ナルコト判明
 該匪賊ノ全地潜伏ハ愈々確實トナリ折板ノ
 両ヲ衝キ夜ヲ徹シ目的地ニ翌十八日午前
 三時馮伏地タル間水坪ニ到着シタルモ夜陰賊
 撃不可能ナル爲拂曉ヲ俟ツテ攻撃スヘク道
 案内ヲシテ連行セル白雲興ノ被害ノ現場未
 ノ地美迄近接包圍隊形ヲ取り夜明ヲ待ツ
 午前四時三十分ニ至リ自衛團員ヲシテ土窟
 ノ内査ヲナサシメタルニ人声スルヲ以テ土
 窟外ヨリ大声ニテ呼出ラナシタル処答ハス
 救發ノ威赫射撃ヲシテ家屋ヲ搜索セハ拉致
 セラレシニ名ノ解人ニシテ檢問シタルニ賊
 ハ既ニ計伐隊ノ情況ヲ察知シ十七日午後六

時頃大馬鹿溝方面ニ向ヒタルニト判明セリ
之カ多匪賊家タルヲ破壊シ五月十八日午後

五時半段還セリ

(イ) 根據地

農事西方約四里(十分分)掘初水附近)

(ロ) 人員並銃器數

男四、女一計五名

連發銃 五、洋砲 三、拳銃 一

支那刀 一

第一

對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況

安和縣内ニ蟻居スル共匪ハ月滿率ノ第二期

治安ニ作後主要地ニ分散配置セラレ行動區

域縮少サレタル夕メ之カ對策トシテ月滿厚

ノ後亦攪乱ヲ策シ漸次豆滿江岸ニ出沒鮮内

襲撃ノ機ヲ窮ヒ居ル等樂觀ヲ許ササル狀況

ニアリ

本期間安和縣内ニ於ケル出沒一七回延人員

二一四名ニシテ此ノ被害拉致四名其ノ他全

品一九ニ圓ニ及ヘリ

乙 政情一般

和意縣公署ニ於テハ民政部大臣ヨリ滿洲

國皇室御蔭章取締ニ関スル訓令ニ基キ各管

ル

下警察署長ニ指令ヲ發セリ

和意縣公署ニ於テハ縣内窮民救濟義損金ヲ

左ノ訓令ニヨリ徴收ス

簡仕官 月收(本俸) 一〇〇分ノ三

薦仕官 一〇〇分ノ二

委任官 一〇〇分ノ一

雇員 一〇〇分ノ一

政治工作ニ關スル事項

和意縣第二期工作班ハ五月七日ヨリニ十

日迄徳化社及勇作社内ニ於テ治安工作ヲ

實施ス

4. 馬匪賊及鮮匪團ノ情況

和龍縣

縣西部安和縣界地方ハ東ハ好金振山等約百

五十名蟄居シ居ルモ日滿軍ノ分散配置ニヨリ

行動縮少セラレシカ對策ニ腹心シツツアルモ

大ナル移動ナシ

安圖縣

縣内ニ蟄居スル匪賊ハ錢永林ニ江好田禧山等

三派ニハ十名ニシテ日滿軍ノ共同對策ニヨリ

根據地ヲ覆滅セラレタルモ討伐隊ヲ揚後再ヒ

根據地ニ歸來防衛工事ニ腹心シツツアリ

一部ハ豆滿岸ニ出沒住民ヲ脅迫シ鮮内侵入ヲ

企圖シツツアリ

共匪ノ狀況

一

五三	和竜郷泉水洞	取籠湖準備隊 石原大尉以下 九名	三〇名
月日	討伐場所	討伐部隊人員	賦教

安和縣討伐概況

(和竜郷)

三月下旬四月上旬ノ二回ニ亘リ安圖縣大甸子ヲ襲撃セル共匪革命軍ハ同滿軍ノ討伐及警備ニヨリ根據地ヲ移動スルノ止ムナキニ至リシカ對策トシテ曰滿軍警ノ後方ニ出沒糧ノ奪取入貨ノ拉致等ヲ敢行治安ノ攪乱ヲ企圖シツツアリ
其ノ行動ハ相當注意ヲ要スルモノト認ム
對岸ニ於ケル討伐概況次ノ如シ

匪賊出沒狀況表

五、二	安圖縣七人班	吉城分駐所 五名 石人溝首領 一〇名 計一五名	一〇名
四、一	安圖縣頭道溝	安圖縣城駐地軍及 滿洲警察隊聯合 二〇名	三〇名
五、七	明新社 夾皮溝	共匪 四名	午後十時頃同地自衛團ヲ襲ヒ用 員一名ヲ拉致何レカニ引揚ケタリ
五、二	策喜社 砂金溝	共匪 一名	午後四時頃同地ニ武装共匪侵入金品 掠奪後(被害不明)何レカニ引揚ケタリ

共匪種類
員

概況

<p>五、一六</p>	<p>五、二〇</p>	<p>五、一九</p>
<p>陰哥洞 炭善社</p>	<p>勇化社 大洞</p>	<p>勇化社 東良村</p>
<p>共匪 一名</p>	<p>共匪 五名</p>	<p>共匪 四名</p>
<p>午後八時頃同地分駐所西方約一里ノ地 共匪二武裝共匪出現移動不明ナルモ青金 (三)道溝西南約二里(方面)向ヒタリ</p> <p>午前二時頃同地ニ自衛團類以ノ服装ヲナ シ各自長銃 携帶ノ共匪現レ同地全文化 方面ニ於テ喫食 宣傳文ヲ散布ノ上午前 四時頃何レカニ立去レリ</p> <p>在信十時頃同地匪賊 舞人全共段ノ本我作業所 ニ復入シ麦粉一袋支那煙草一箱 時價下月ニ強奪 満入槍頭張承森外二名拉致引揚タリ</p>		

匪賊出没状況		安國縣	
日	場所	匪賊種類	概況
四、二、二	安國縣 荒溝	突匪 六名	安國縣城居住籍入雀ニ方外四名ハ古城堂ニ於テ種價約五十円ヲ購入歸途途上記賊ト遭遇該品全部ヲ強奪サレタリ
四、二、三	〃 〃	不詳 一名	同地溝入孫海電方ニ侵入一右翌三時午前六時頃砂金溝森林中ニ突ラ晦シタリ
四、二、四	〃 〃	突匪 五名	安國縣居住ノ病入隨廣允ハ物品購入、爲乘哥由ニ來ル途中上記賊ニ遭遇歐打カレタル上所持金十円ヲ掠奪サレタリ何レカ空ヲ晦シタリ

四二八	四二七	〃	四二五
〃	安國縣 老嶺	安國縣 七人班	安國縣 七人班
〃	共 五 匪	共 五 匪	共 六 匪
<p>縣城前人劉昌順外一名入所用タメ土城ニ 來ル途中該匪賊ニ襲ソ衣類上下(約二月) ヲ掠奪セラレタリ</p>	<p>安國縣水溝溝居住滿人張某外二名入物ヲ購入爲 三衣類ニ途中匪賊ニ遭遇持金七下日程奪セラレタリ</p>	<p>襄野居住滿人張鍾鑿入縣城ニ赴ク途中該匪 賊ニ遭遇金三日衣類數點(時下五月位)計 八月ヲ程奪セラレタリ</p>	<p>縣城居住滿人李京庄ハ物品購入取途上記地 ニ於テ匪賊ニ遭遇所持金現金一月三日麥粉 衣類ニ計(約七月)計八月三日錢ヲ掠奪セラレタリ</p>

<p>五二</p>	<p>五九</p>	<p>五二</p>	<p>五二</p>
<p>安圖縣 除哥洞</p>	<p>安圖縣 小馬鹿溝</p>	<p>右同</p>	<p>安圖縣 七人班</p>
<p>匪賊 一名</p>	<p>匪賊 一名</p>	<p>ク 五名</p>	<p>文匪 一名</p>
<p>上議人対伐隊を動かすに於て、 外走途中、除哥洞に於て満蒙上道遇交戦 北方森林中に敗走セリ</p>	<p>上記九日夕該地ニ移動中ナリシカ 対伐隊移動ヲ察知シ七人班方面ニ移動セリ</p>	<p>縣城居住滿人字振堂ハ物品購入ノ爲ニ 長ニ志ル途巾上記匪賊ニ襲ハル現金ハ 月三キヲ掠奪マシタリ</p>	<p>一日午後三時頃該上議人匪來リ同地ニ到 翌朝、朝食ヲ爲シ何レカニ姿ヲ消シタリ</p>

五二四

閉門

共 匪

二

午後土時頃革命軍ハ同地木枝作業所
 二侵入麥粉一袋巻脚祥三箇地下
 足袋十五足ヲ掠奪不穩文書散布
 之上 人夫三名(商人)ヲ拉致シ何レニカ
 引揚タリ

日軍ノ状況

對岸ニ於ケル日軍ノ状況不明ナリ

6. 満軍警察署自衛團ノ配置移動及教育関スル事

項

(1) 満軍ニ関シ不明

(2) 警察隊(署)

和竜縣片復洞及石人溝ニ集團部落設置セル
夕メ自衛團ノ指導及警備上警上以下五名ノ
出張所ヲ新設ス

(四) 自衛團

和竜縣片復洞及石人溝ニ集團部落設置サル
ルヤ之カ警備夕夕メ片復洞ニ一石人溝ニ
ニ名ノ自衛團ヲ配置ス

第三 交通通信補給經理衛生ニ関スル事項

特記事項ナシ

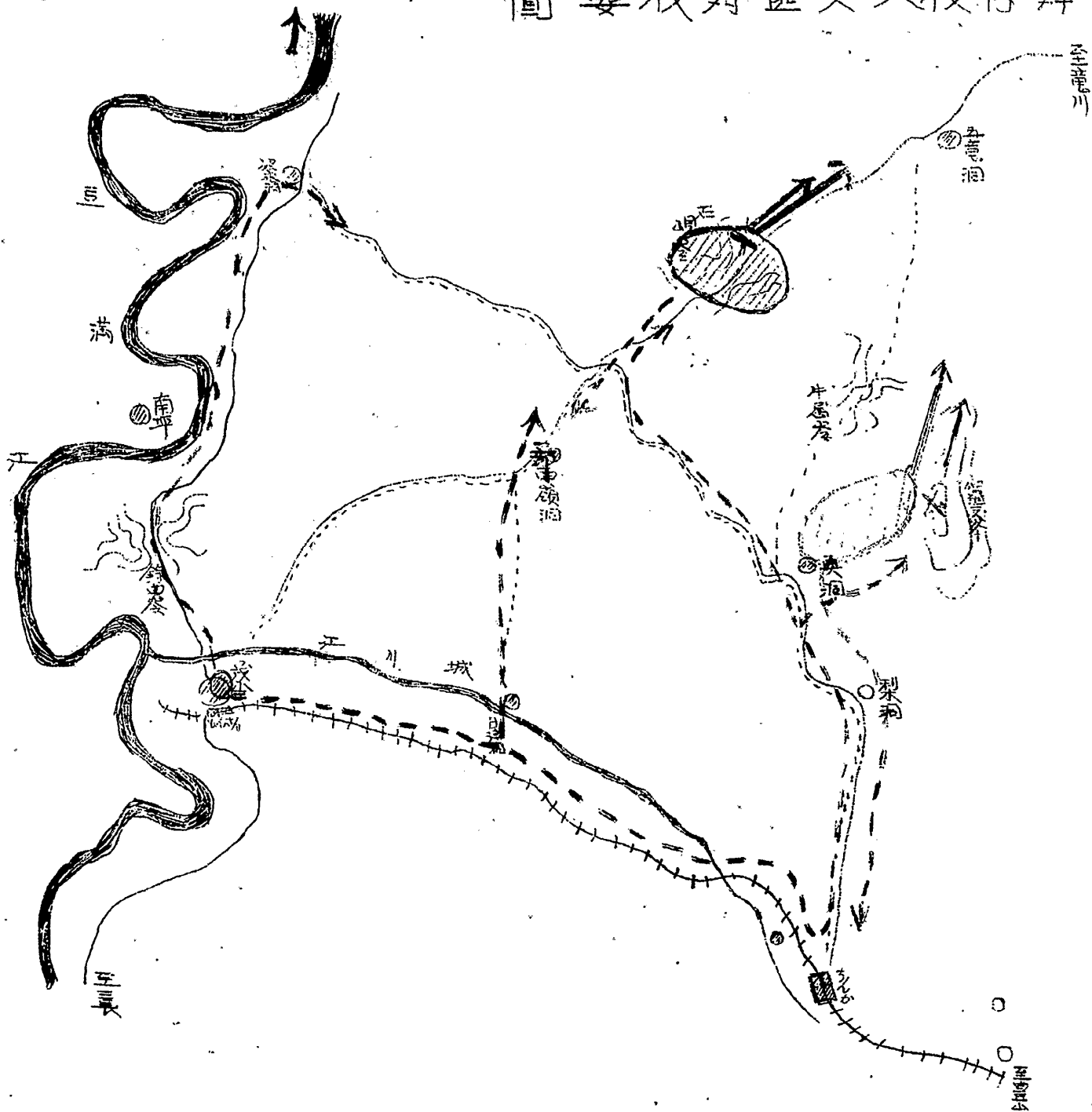
14

步兵第七上陣隊國境守備隊編成一覽表

昭和十年六月一日調

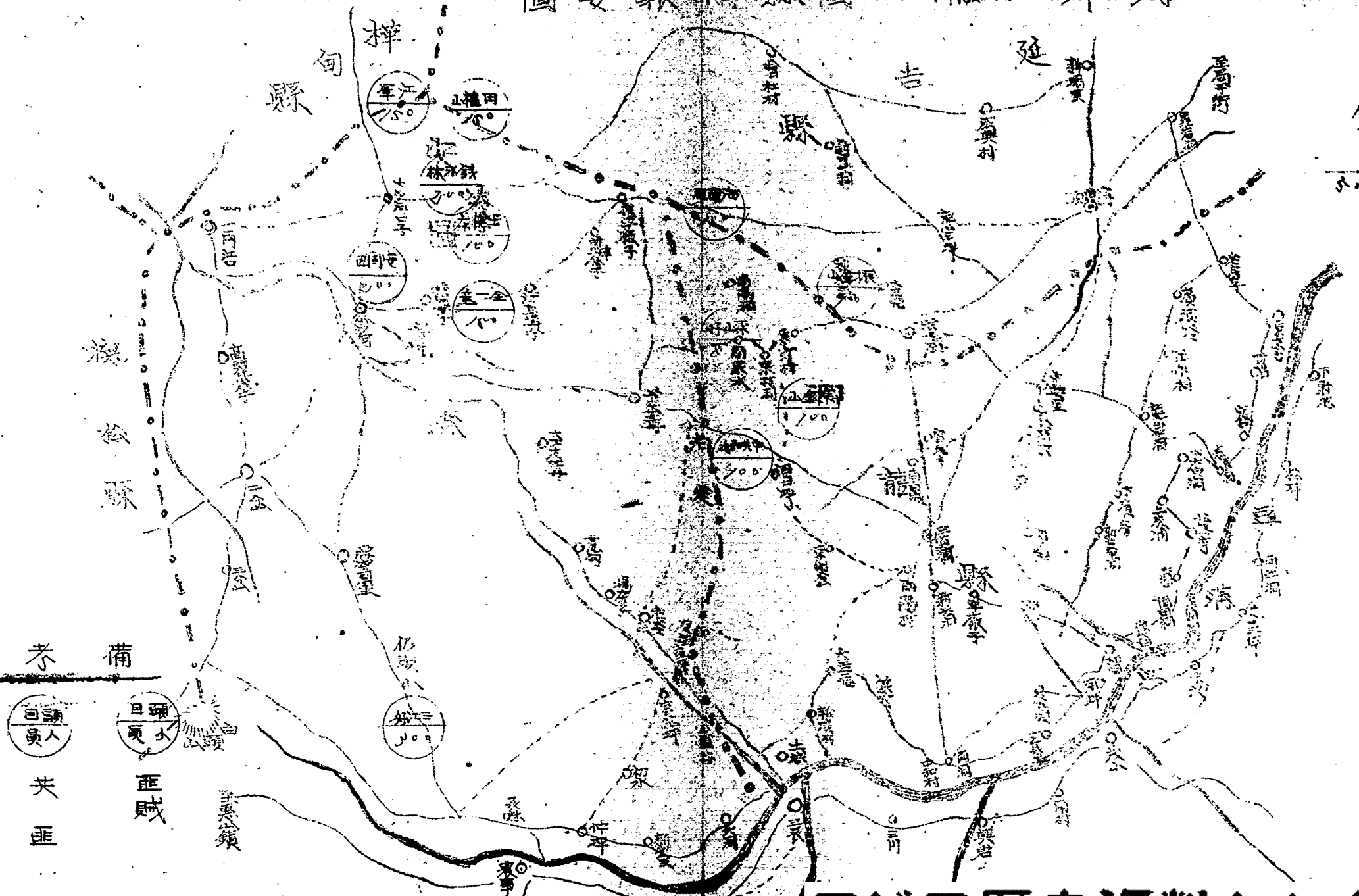
備考	計	三長小隊	中隊	隊本部	區別		編成人員	馬匹	裝備	職員	備考
					佐少	尉大					
一 () ノ附シアルハ無許電信交ヲ示ス 二 軍醫ハ及小分隊ヨリ第勤服務ツアリ	1			1	佐少	尉大					
	3			1							
	2	1		1							
	3			2							
	3 (1)	1		1	2 (1)						
	10	3		6	2						
	21 (1)	7		14 (1)							
	149 (1)	29		110 (1)							
	191 (2)	40		126 (2)	5 (1)						
	3	1			1						
	1				1						
	2	1			1						
	6	2		4							
	1				1						
	1				1						
304 (1)	54		140 (2)	10 (1)							
1				1							
1				1							
4	1		2								
4	1		2								
1			1								
1			1								
2			3								
		步兵中尉 森田一壽	步兵大尉 渡田八郎	步兵少佐 松澤正雄							
											無許電信所長 塚香五郎 二 分遣中 三 軍醫一名 學校 泳道中

鮮内侵入共匪討伐要圖



考	備
<p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p>	<p>●</p> <p>---></p> <p>↓</p> <p>↓</p>
<p>追撃方向ヲ示ス</p> <p>討伐隊ノ経路ヲ示</p> <p>討伐隊ノ通過地ヲ示ス</p>	<p>匪賊ノ潜伏地域ヲ示ス</p> <p>暴行経路ヲ示ス</p> <p>匪賊ノ退却方向ヲ示ス</p>

對岸龍安縣精報要圖



考 備

回頭 匪賊
頭人 共匪

子惠公鎮

秘

歩七四國守備第三號

昭和十年 六月一日
歩兵第七四聯隊國境守備隊



歩兵第七四聯隊國境守備隊月報

自十年五月一日
至十年五月三十一日

目次

第一 警備(討伐)ノ概況

鮮内警備

第二 對岸ニ於ケル政情及治安ノ概況

一 治安概況

二 政情一般

三 宣傳政治工作ニ関スル事項

四 馬匪賊及鮮匪團ノ概況

五 日軍ノ概況

六 滿軍警察署自衛團ノ配置移動及教育訓練ニ関スル事項

第三 交通通信補給經理衛生其他ノ事項

一 鮮内

二 對岸

第四 歩兵第七旅隊國境守備隊編成裝備一覽表

第一警備(討伐)ノ概況
 鮮内警備

一 守備隊管内行軍ノ概況

繁茂期ヲ控エ近時對岸各所ニ匪賊頻繁ニ
 出沒スル情況ニ鑑ミ五月一日以降惠山鎮
 中隊及新笠坡鎮小隊ハ尤記ノ如ク行軍ヲ
 實施シ情報ノ蒐集茲ニ賊情ノ偵知ヲ爲ス
 等地方警備ニ努メタリ

惠山鎮中隊

五月十八日大井少尉以下九十名ハ惠山鎮
 雲籠——五是川——中里——惠山鎮
 ニ十四軒ノ行軍ヲ實施シ皇軍ノ威容ニ接
 セシメ情報ノ蒐集等ニ努メ警備ノ目的ヲ
 達セリ

二 新笠波鎮小隊

近時對岸匪賊ノ活動漸次活潑トナリ且ツ
 本月十三日十三道溝市街襲撃ノ報シタル
 ニ付十四日隊長以下三十名行軍ヲ實施シ
 情報ノ蒐集賊情ノ偵知等ニ努メタリ
 第二對岸ニ於ケル政情並治安概況

一 治安概況

長自縣

長自縣ニハ永住的賊團ノ根據地ノナキト
 日滿軍警ノ嚴戒トニ依リ縣下一般ノ情勢
 ハ概ネ治安保持セシレアリト雖モ隣接撫
 松臨江兩縣ヨリ警備官憲ノ間隙ニ乘シ巧
 ニ侵入シ縣境ハ依然トシテ馬匪賊跋扈シ
 縣内又各所ニ三五五鼠賊相呼應シ出沒

ヲ巧ニシ警戒力ノ及ハサル奥地ニ其威ヲ
 擅ニシ住民ヲ惱シツツアリ
 爾今繁茂期ヲ控エ其活動漸次活潑トナル
 ヘク思推セラル長自縣當局ニ於テハ之カ
 對策トシテ種々自衛的団体ヲ組織駐屯セ
 シムル等縣下各警備機關ハ嚴重警ニ任シ
 アリ

ニ 政情一般

ノ石油專賣制實施ニ伴フ取締
 滿洲國石油專賣制實施ハ去ル四月十日ヨ
 リノ下達ニ基キ長自分卡ニ於テハ四月ニ
 十四日諸準備完了ト同時ニ左記ノ如ク縣
 下一般ニ布告シ之レカ取締ノ萬全ヲ期シ
 ツツアリ

左記

石油揮發油ハ輸入ヲ絶對ニ禁止ス
重油類(所謂機械油類)ノ輸入ハ豫メ許可ヲ
要ス

此場合時價ノ一割五分ヲ徵稅ス

長自金融會事務開始

長自縣下移住辭人ノ金融機關トシテ金融
會設置計畫ニ関シテハ前月報既報ノ處其
後關係當局ノ認可ヲ得資金ニ萬圓ヲ以テ
左記役員ヲ選定シ四月二十九日ヨリ之レ
カ事務ヲ開始セリ

會長一名 理事一名

監査役二名 評議員七名

警備會議開催

十三道溝警察署長丁禹章ハ繁茂期ニ於ケル市街地警備ノ萬全ヲ期スヘク五月十四日同溝有力者商民約三十名ヲ同署ニ招致シ厄記事項ヲ協議決定セリ
 一市街地西北方ニ鉄條網ヲ張ルコト
 一市民一般ノ負担若シクハ賊徒トス
 一 夜警ヲ實施スルコト
 市内農商民百六十戸ヨリ毎夜二十名宛交代ニ出勤シ前後半夜毎ニ分テ夜警ヲ實施スルコト
 尚之シカ指導ハ警察署ヨリ毎夜二名ノ警士ヲ派シ爲スモノトス
 ×商務會長選舉
 十三道溝商務會長孫彬辭任後一時同會ノ

幹事之レヲ代行シアリシカ五月十四日選舉權者三十四名集合選舉ノ結果尤ノ如ク當選セリ

商務會長

徐 水 田

副會長

劉 鼎 三

三、宣傳政治工作ニ關スル事項

該當事項ナシ

四、馬匪賊及鮮匪團ノ狀況

長白縣内ニハ永住的賊團ノ根據ナク隨テ縣内ニ出沒スル賊團ハ殆ント隣接撫松臨江兩縣下ヨリ警備官憲ノ間隙ニ乘テ侵入畫策スルモノニシテ之等匪首ノ主ナルモノヲ舉ケレハ紅軍李紅光一派及馬興山双江、左、東洋、學、喜局等アリ

鮮匪團、状況ニ就キナハ目下特記スヘキ
事項ナシ

五 日軍ノ状況

本月間ニ於テ長白縣ニ皇軍ノ活動ナシ

六 満軍警察隊自衛團、配置移動及教育訓練

ニ関スル事項

一 保甲自衛團、臨時編制配置

長白縣當局ニ於テハ草木繁茂期ニ於ケル
治安情勢ニ鑑ミ緊急治安維持會ヲ開催シ
縣主要村落九ヶ所ニ臨時自衛團ヲ組織駐
屯セシメ農商務會長、連帯保證ニテ各團
ニ對シ長銃及同實包ヲ支給シ治安ノ完壁
ヲ期スルコト、セリ
其ノ編制裝備等尤、如シ

村別	長氏名	人	員	表備
長白府塔甸村	王玉海	團長以下	一〇	
梨樹溝梨樹村	朱興山	同	一〇	各人毎
半載溝金華村	黃樹芬	同	一〇	長鏡一
十四道溝中興村	王聖經	同	一〇	譚榮二〇發
十三道溝成雨村	孫彬	同	一五	
十二道溝三聖村	崔成順	同	一〇	
八道溝八道溝村	羅福元	同	二三	
八道溝新房子村	辛際忠	同	一〇	
三道溝石人村	姜任禮	同	一〇	
合計		同	一〇八	

山林警備團員増員並之配置豫定計畫
 長白縣探木公司分局ニ於テハ現下森林地
 帯ニ於ケル情勢ニ鑑ミ現在、警備團員七
 十名ト不足ナルヲ以テ配置上遺憾ナク

駐屯地名	現在配置人員	新要配置人員	不足人員
十三道溝南崗	一八	二〇	二
十五道溝双金頭	二八	二八	〇
十九道溝双金頭	一〇	一八	八
二十道溝第三終点		一〇	一〇
二十道溝第四号堰		二〇	二〇
十一道溝	一	一	〇
山林警備団本部	四〇	四〇	〇

十名ニテハ不足ニシテ配置上遺憾、点アリト爲シ此旨申請中、度今同安東警務所ノ諒解ヲ得タル旨安東總局ヨリ電報アリタルヲ以テ長自分局ニ於テハ警務局ト打合せ、結果凡、如ク之カ配置豫定計画ヲ立案セリ

計

七〇

一一〇

〇

第三交通通信補給經理衛生其他ニ關スル事項

一 鮮内

交通

朝鮮總督府命令航路新義洲——新坡間鴨
綠江輪船公司ゴロペラ船ノ運行ハ五月一
日中江鎮發同日新坡着ヲ本年度初航トシ
目下順調ニ繼續シヤリ

補給

特記スヘキ事項ナシ

經理

特記スヘキ事項ナシ

衛生

前月引續キ部内各地及衛戍地ニ於ケル傳

染病ハ退勢ヲ見ルコトナク依然憂慮サル
 ヘキ状態ニアリ 地方各機関ハ之カ防止
 ニ努メツツアリ
 隊内ニ於テハ地方ノ現状ニ鑑ミ自衛自戒
 良ク防疫ニ努メ極悪ノ還境ニ有リテ之カ
 侵入ヲ防止シ得タリ
 氣候不順ニ加ヘ傳染病發生ヲ顧慮シ防疫
 ニ萬全ヲ期シツツアリ
 月間ニ於ケル衛生成績尤ノ如シ
 入院 四名
 新患総数 七名

慢性蟲様突起炎 一 急性胃腸炎 三
 外 傷 三 急性咽喉炎 一

前月ニ引續良好ナル状態ヲ持續シアリ

二 對岸

交通・通信・補給・經理 共ニ特記スヘキ事項ナシ
衛生

特記スヘキモノナキモ長白府ニハ依然瘧
瘡患者數名アリ

第四 附表

步兵第七旅隊國境守備隊編制裝備一覽表附表第一如シ

其他附表 附圖

一 長白、臨江、撫松縣内馬匪賊出沒狀況附第二
、如シ

二 長白、臨江、撫松縣内馬匪賊出沒狀況要圖附
圖第一、如シ

步兵第十七聯隊國境守備隊編成裝備一覽表

昭和十年五月三十日調

備考	計	小隊	新設坡鎮	中國境守備隊	本國境守備隊	守備區		編成人員	合計	馬匹裝備			職員表	摘要
						少尉	佐尉			馬	乘馬	計		
一、本表中(1)ヲ附セルハ無線電信所員ヲホス 二、摘要欄中ニホス人員ハ本表人員中ニ含ミアリ	1				1	佐尉	少尉							
	2			1	1	尉	中尉							
	2		1			尉	少尉							
	2				2		曹	特曹						
	3				3		曹	伍軍						
	4		1		2	1	長	曹						
	(1) 11		2		7	(1) 2	曹	上等兵						
	(1) 23		7		(1) 17		兵	等(一)						
	(2) 178		39		(2) 137		兵	計						
	(3) 224		50		(3) 168	(1) 6	計							
	1					1	長	工銃						
	1					1	計	主計						
	2		1			1	手	計軍						
	1					1	醫	看護						
	2		1			1	長	工靴						
1					1	長	工經							
1					1	兵	看護							
17		4		6	7	計								
(4) 241		54		(3) 188	(1) 13	計								
					1	馬	乘馬							
					1	計								
4		1		3		機	重機							
4		1		3		筒	彈擲							
3		1		2		砲	擊迫							
1				1		砲	擊狙							
1				1										
			吉田龍一	步兵中尉	田中雅範	步兵少佐	職員表							
欠入				欠入	欠入	欠入	摘要							
院				院	院	院								
一七				一六	一六	一六								

附表第二

長白縣、臨江縣、撫松縣内馬匪賊出沒狀況調(昭和十年五月中)

月日	場所	頭目賊数	行
四二六	十三道溝	上 山 好 三 口	老爺府附近ニ潛居シアリシカニ二十六日 未明奥地四頭房子方向ニ向テ移動セリ 同日居住人崔方ニ移動シ來リ集家法 ニ對スル反對宣傳ヲナシ一泊ノ上老爺府 方向ニ引揚ケタリ
五三	十三道溝 暖泉里	上 山 好 五 口	同日王景五ノ木柵作業所ニ潛伏中ナルモ ノノ如ク其一味数名ハ本朝同溝独洞里 ニ金方ニ現ハレ金品ノ提供ヲ迫リ棍棒ヲ以 テ毆打負傷セシメ奥地ニ引揚ケタリ
五五	十五道溝	文明軍	同日溝ノ王道基本柵作業所ニ潛居スル モノ、如ク昨夕文明軍ノ名義ニテ日滿採木公

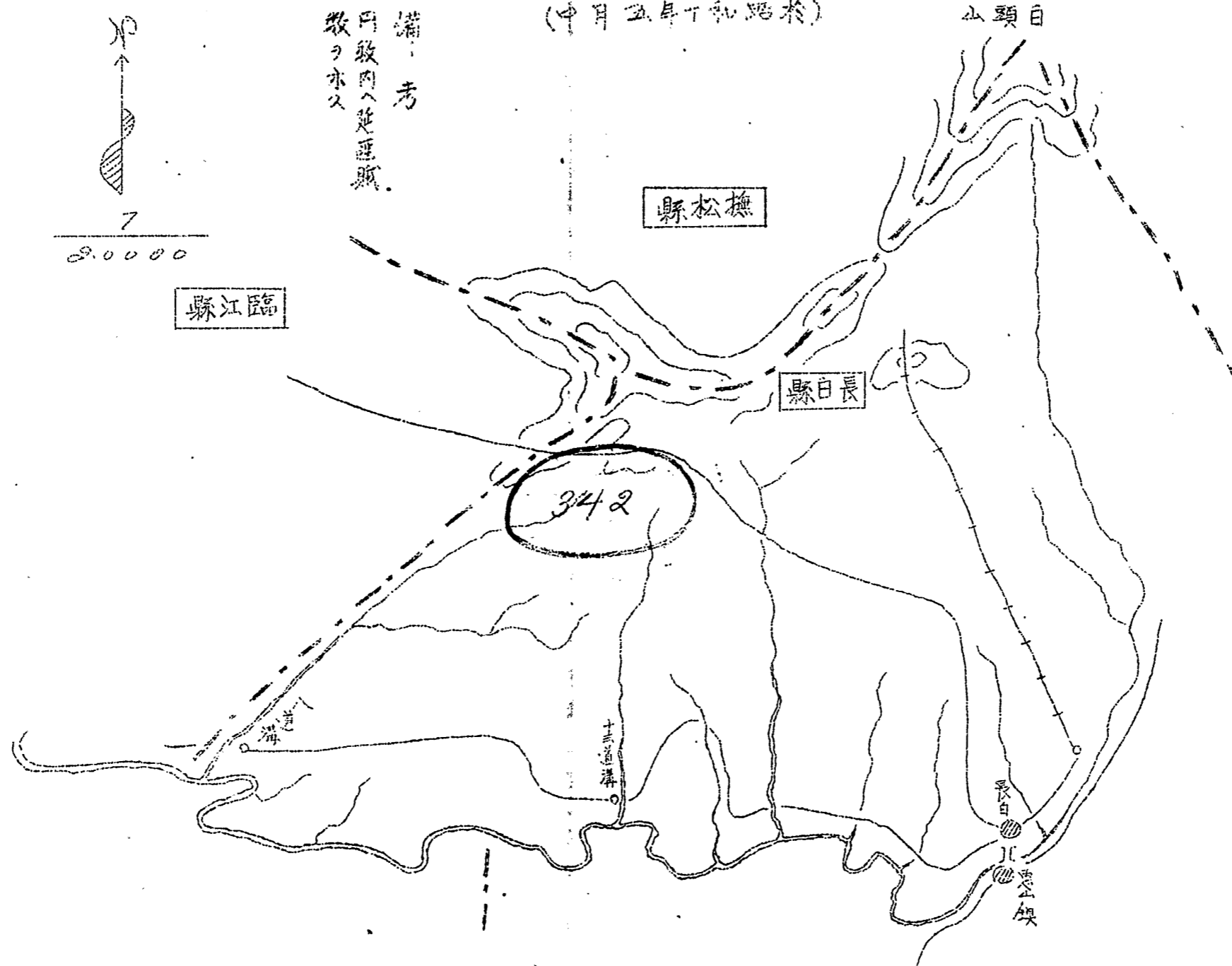
<p>五、 六</p>	<p>、</p>	<p>五、 五</p>	<p></p>
<p>鈴馬川 十三道溝</p>	<p>横山 二四道溝</p>	<p>西筒城 十三道溝</p>	<p>大橋子</p>
<p>五 五</p>	<p>五 五</p>	<p>双江 二</p>	<p>三 〇</p>
<p>司事業請負人馬順ニ對シ現金五百円夏 版三〇懐中密燈五〇提供才脅迫ヲ送付シ赤ト 五百家長方ニ現ハレ十三道溝及新笠嶺 ノ警備状況ヲ調査シタル後家宅搜索ヲ ナシ現金八円餘ヲ強奪シ引揚ケタリ 本夏長白縣下ニ於テ殆働工作ヲナスヘク画 策ヤナルモ、如ク内地木柵作業所ヲ襲撃 スヘク憲ノ警備警戒状況ヲ嚴探シワアリト 内地ヲ襲撃シ商豪ヲ人質トシテ拉去セン トアリタルモ之ヲ觀取シタル住民ハ大分他ニ 避難シタルタメ其目的ヲ達シ得ス附近住 民等ヨリ約ニ〇〇圓ノ金品ヲ強奪等シ 去去レリト</p>			

<p>五 一五</p>	<p>五 一六</p>	<p>五 一七</p>	<p>五 一八</p>	<p>五 一八</p>
<p>十六道溝 七兄弟</p>	<p>十三道溝 東前城</p>	<p>十三道溝 市街地</p>	<p>十九道溝 甲山徳</p>	<p>十三道溝 桃泉里</p>
<p>双江 一〇</p>	<p>係統不明 一〇</p>	<p>顛目不明 一三</p>	<p>系統不明 一〇</p>	<p>在東洋 三十一</p>
<p>数日前ヨリ移来シ者在中一ニシテ警備力薄弱ナル内矢了及十四道溝ヲ襲撃スハシト揚言シアリ</p>	<p>内地居住鮮人家屋ニ侵入食料及金品ヲ掠奪シ十四道溝奥地ニ引揚タリ</p>	<p>各人長銃ヲ携行シ市街ニ侵入掠奪ヲ擅ニシ満々八名ヲ脱去シ發包シワッ西前城方向ニ逃走セリ</p>	<p>内地ニ帰来者在中ナリト</p>	<p>内地居住鮮人家屋七戸ニ侵入シ長銃ヲ擲シ威嚇シ衣類及食料品食器等ヲ掠奪ノ上奥地ニ引揚ケタリ</p>

<p>五、二</p>	<p>十三道溝 大湖上</p>	<p>系統不明 五〇</p>	<p>同日午後十時大湖上採木公司作業所 ヲ襲ヒ物品見積價格約六〇〇圓ヲ奪 取シタル後同所書記及監督各一ヲ拉 致シ從業人夫四十一名ヲシテ掠奪品ヲ運 搬セシメワ下流長臨縣境方面ニ向ケ 引揚ケタリ</p>
------------	---------------------	--------------------	---

長白縣內馬匪出沒狀況要圖

(於昭和五年五月)



9160

秘

第七守常報第四號

第七聯隊國境守備隊月報

自昭和十年四月二十日
至昭和十年五月二十日

昭和十年五月二十七日
第七聯隊國境守備隊



目次

- 一 警備(討伐)ノ概況
- 二 對岸ニ於ケル政情茲名安ノ概況
- 三 交通通信補給經理衛生ノ概況
- 四 編成裝備一覽表

發送光

軍師旅聯隸下各部隊、建武三年、昭示、安顧

越境部隊

一、警備（討伐）ノ概況

ノ討伐ノ為出動

ハ動機

四月二十一日匪首紅林九勝ノ合流匪約ニ

〇〇名第四區小梨子沟ニ於テ下航中ノ高瀬船

ヲ襲撃シ金品ヲ掠奪人質ヲ拉致セリ

ハ日時人員 四月二十三日午前七時帽見山出

發同日午後四時歸還ス高瀬中尉以下三十七名

ハ憲兵ニテ合ハシ

ハ行動ノ概要 別紙要圖ノ如シ

ハ彼我ノ損害 十三

ハ成果 賊ハ既ニ逃走後ニシテ之ヲ討伐スルヲ得

サリシモ附近ヲ掃蕩シ動搖シテリ民心ヲ安

定ナラシメタリ

九通溝小隊

警備行軍

一 動機

最近通溝西方地区に於て小匪の出沒頻繁

二 行ハレ 民心不安ニ取ラレアリ

三 日時人員 五月十日午前六時通溝出發同日午後

九時歸還又他藤中尉以下三十五名

四 行動ノ概要 別紙要圖ノ如シ

五 成果 本警備行軍ハ民心掌握示威ノ為メ相當ノ

効果ヲ收メタリ

二 鮮内部隊

特記事項ナシ

二 政情 茲 名 安 ノ 概 況

一 政 情
臨 江 縣

(一)

四月二十日安東省公署土木科長黒田技師一行
來臨鴨綠江防永築提工事線頭道溝裡臨通門ヨ
リ二道溝裡臨撫門間鴨綠江岸ヲ測量工費約二
十回万円ヲ以テ二ヶ年繼續トシテ五月下旬若

ハ六月上旬ヨリ起工スルコトニ決定セリ

(二)

四月二十一日安東省公署警務廳吉川警正來臨
縣内治安狀況茲警備道路ノ視察及警務行事ノ
刷新指導等ノ諸任務ヲ終了四月二十五日暇任
セリ

(三)

東邊道籍民事業對策茲各種行政機構ノ改革案
ニ對スル安東省下各縣參事官會議列席ノ為メ
古川參事官ハ四月二十二日午前九時臨江發下

(四) 航
滿洲國石油專賣制度ニ依リ臨江縣外卸小賣指
定店六名ヲ指定シ四月二十三日ヨリ所定專賣
署ニ於テ監督スルコトナリ之カ販賣ヲ開始

(五) 四月二十四日新京實業部森林調査班技師敷島
宗臨外三名來臨約一月ノ豫定ヲ以テ臨江撫
松長白各縣ノ森林地帯ヲ調査中ナリ

(六) 救濟金配給ノ為メ劉參事官三浦指導官ハ警察
騎馬隊六〇名ヲ從ヘ四月二十五日午前九時縣
城出發第一區三隊ニ赴キ同三十日返臨ス

(七) 四月二十七日縣公署ニ於テ縣治安維持會ヲ開
催シ規定ノ改正及委員選定ヲ為シ夕リ帽兜山
守備隊長同憲兵長ハ縣當局ノ依頼ヲ除去スル
為メ表面顧問及委員外トナリ實質上ノ委員キ

以) 雅定セラル
五月一日縣公署ニ第一回定例治安維持會ヲ開
催ル
記

記

1. 紅土崖ニ荷軍ニケ連駐出方ノ件(委員長提出)決議
第三旅望月軍事教官及王參謀長ニ一任スルコト
2. 縣警察隊ヲニケ中隊増員ノ件(委員長提出)決議
増員方上申

3. 匪賊無條伴歸順觀告ノ件(委員長提出)決議
地區治安維持會長ニ上申ニ認可ヲ俟ケテ署名
スルコト

4. 紅軍匪ノ宣傳ニ對スル對策ノ件(委員長提出)決議
紅軍匪ノ宣傳ニ對スル逆宣傳文ヲ作製シ出張
討伐時等散布スル外住民ヲ集合セシメ宣傳云
作ヲ實施シ王道精神普及ニ努ム

八山林警備團員増員ノ件(或永森指導官提出)決議

縣長ノ指揮下ニ入テシムルコトヲ條件トシテ

原案通可決

(九)

五月六日縣公署ニ縣政策維持會臨時會議ヲ開

催シ縣内鴉片栽培禁止ニ関シ之力住民ニ對ス

ル徹底迄取締方ノ件其他復興委員會規定作製

(十)

委員ノ選定復興計畫實施要綱等ニ付協議ス

四月二十九日泚安東省下各縣考事官異動ニ依

リ臨江新任考事官山代千代藏及缺員中ノ臨江

主任指導官補充トシテ新任松田鹿島ハ五月八

日何レモ上航プロペラ船ニテ着任セリ

(十一)

五月十一日劉考事官ハ護衛兵七十八名ヲ從ハ

貧民救濟金分配ノ為メ縣城出發開拔子沟ニ向

テリ

由鴨綠江堤防工事所要器具ノ借領並彈藥受領ノ

又、輯安縣

為メ縣警務局三浦指導官ハ五月十一日下航
口ペラ船ニ依リ出安セリ

(一) 四月二十一日植樹節ニ當リ縣公署主催ノ下ニ
縣會議堂前廣場ニ於テ官民學校生徒等約八百
名參集シ植樹愛護ノ宣傳口演ヲ行ヒ引續キ域
後ノ高地ニ記念植樹ヲ實施シ愛林思想普及ニ
努メタリ

(二) 四月二十二日黃總務科長ニ輪屬官ハ安東省公
署ニ於テ開催ノ康徳ニ年度豫算會議ニ出席ノ
為メ出安セルカ輯安縣ニ於テ編算セル總豫算
ハ二七五〇八四円ニシテ前年度ニ比シ三五五
八七円ヲ増額セリ

(三) 四月二十五日縣長屬官等ノ更迭其他ニ依リ縣
治安維持會規定ヲ改正セリ但シ實質ニ於テ改

(四)

(三)

四月二十五日東邊道地方復興計重要綱ニ基キ
 匪禍天災又ハ計伐ニ伴フ兵禍等ニ因リ疲弊困
 德セル縣民ヲ救出シ民カヲ涵養シ農民大衆ノ
 更生ヲ計リ王道ヲ全地ニ普遍シ特別工作ノ効
 果ヲ更ニ擴大鞏化シ恒久的治安確保ノ目的ヲ
 以テ輯安縣復興委員會ヲ組織セリ
 四月二十八日安東朝鮮人民會輯安縣支部長韓
 祐政ハ囑託獸醫鄧仁信ト共ニ安東領事ノ命ニ
 依リ牛疫豫防接種並貧民救濟ノ為メ萊縣河西
 村内鮮農所有牛二八口頭ニ對シ牛疫豫防接種
 ノ上貧民八三一一名ニ對シ左記ノ如ク無利子貸
 付ヲ以テ救濟ノ上五月二日返還セリ

左記

第一區

麻線溝

四五六月

同 河西村 一九三五〇
 同 小青溝 五八五〇
 同 大荒溝 三一五〇
 第四區 黃狗甸子 二二三五〇

計 但一人一日五錢ト三ヶ月分一四五〇錢ヲ
 限度トス

(六) 四月二十七日并輯安縣屬官ハ在記ノ通異動アリ
 天轉出三輪屬官ハ五月一日出發赴任ノ途ニ
 就キ依藤屬官ハ五月二十一日着任ノ筈

任 輯安縣屬官 三輪健次
 任 桓仁縣參事官 依藤久吉
 任 莊河縣屬官

(七) 五月六日午後四時三十分鐵路總局東邊道礦物

調査班及川勇吉以内日本人調査員八名警備員
白系露人二十七名滿人通譯其他九名計四十四
名ハ寛甸桓仁ヲ經テ來縣商務會ニ調査本部ヲ
置キ約一ヶ月ノ豫定ヲ以テ縣内礦區調査ヲ實
施中ナリ

五月十四日午後六時安東省視學官伊藤併八以
下六名ハ文教部ノ命ヲ受テ古蹟ノ國寶指定資
料蒐集ノ為メ來縣東崗ニ於ケル古墳並好大王
碑ヲ調査シ上五月二十日飯安セリ

五月十五日午前十一時ヨリ縣會議堂前廣場ニ
於テ滿洲國皇帝陛下御訪日還幸國民慶祝大會
ヲ開催セルカ参列日滿官民約一五〇名學校生
徒七〇〇名計八百五十名ノ盛況ヲ呈シ大會後
旗行列ヲ催シ城内ヲ一巡正午散會セリ
五月十八日安東省總務廳長別宮秀夫ハ初度巡

視ノ為メ屬官ニ名ヲ帶同水上警察局警務課長
ト共ニ警備船ニテ奉縣通溝附近ノ貧民生活狀
況並ニ東崗ニ於ケル史蹟ヲ視察ノ上翌十九日
臨江ニ向ケ上航セリ

3 撫松縣

安東省公署ニ於テ開催サルヘキ省下各縣參事
官會議ニ列席ノ為メ松崎參事官ハ二十六日下
航プロペラ船ニ依リ臨江出發出安セリ
尚同縣警務指導官吉田定光ハ四月一日附安東
縣公署附ヲ被命松崎參事官ト同伴赴任セリ

名安

臨江縣

東邊道特別工作ハ王道樂土ノ新政ニ親シム
ノ進シテ諸工作實施ニ援助シ或ハ警備道路

ノ改修或ハ聚家ノ達成等着々其ノ進歩ヲ計リ
 ツツアルモ旧軍閥思想抱持者ハ之等ノ新政ヲ
 快トセス却ツテ匪團ノ不逞行為ニ加袒シ或ハ
 官憲ノ討伐ヲ避クル為メナリト稱シ山東方面

(二)

本期間ニ於ケル匪賊ノ動靜ヲ觀ルニ稽居匪ハ
 漸次江岸進出ノ氣運ヲ埃リ太小匪團ハ合流或
 ハ氣脈ヲ通シ解氷期ト共ニ頓ニ其ノ行動活潑
 トナリ絶エス目標ヲ江岸地帯ニ向ケツツアル
 ヤノ感アリ

(三)

最近警察隊員ニシテ匪賊ニ豹変スルモノ漸増
 シ曩ニ紅土崖被埃致警察署長以下ニ十七名ハ
 其後所在皆トシテ判明セズ之等ハ案スルニ匪
 賊ニ豹変セルモノト思料セラレ今又臨江縣警
 察署員四名カ匪賊ニ豹変ニテ城内商店ヨリ金

乙、韓安縣

(四)

品ヲ却掠逃走ニ日ナラズニテ脅迫文ヲ送付ニ
 来ル等警察ニ職ヲ奉スルモノニテ匪賊ト通
 シ治安ヲ攪乱セントスルモノアル等之等警備
 機關ノ刷新ニ留意ヲ要スル狀況ニアリ
 本月中匪賊出沒件數ノ最多ハ臨江縣(五六件)ニ
 シテ韓安撫松濛江之ニ次ク之ヲ前月ニ比シ出
 沒件數ニ於テハ臨江縣三件ヲ増シ大差ナキモ
 彼等匪賊間ニ於ケル密接ナル連繫通謀等ヨリ
 觀察スルニ今後ニ於ケル賊ノ行動ニ就テハ相
 當注意ヲ要スルモノアリテ樂觀ヲ許サズ

(一) 東部臨江縣境ニ九州魏字ノ谷流匪約百五十名

アリテ屢々分散離合ニ鴨綠江岸地帯ニ進出シ
 人質埃去ハ勿論緝私局員ヲ襲撃シ或ハ縣内ヲ
 疾走中ノ自動車ニ發砲スル等不逞行動ヲ敢行

了通
化縣

三韓通桓縣境ニハ鮮匪ノ混入セル匪團占赫西
 來好抗日軍九江好愛國軍長海等ノ合流匪約三
 百名潜伏シ屢々縣内ニ侵入セルカ五月十五日
 遂ニ覆王朝ヲ襲撃シ放火四十余間ヲ全燒セシ
 公西南地區ニハ依然トシテ二十余名ノ鮮匪潛
 居シ凉水泉子爬宝山等ノ集團部落ニ放火シ五
 月十一日情報蒐集ノ為メ越境セル鮮内警察官
 梨山ヲ狙撃シ銃器ヲ掠奪セル等匪團ハ各地ニ
 蠢動シ人質拉去ヲ業トスル小匪ノ激増ト共ニ
 益々治氣ヲ呈シ繁茂期ヲ目睫ニ控ヘ治安ハ偷
 安ヲ諱サ、ル狀況ニアリ

東南地區ニ王鳳閣系ノ匪團約三百アリ西部地
 區ニ青山占赫長山等ノ反滿抗日匪約四百蠢動
 シ北部地區ヲ根據トスル紅軍匪ノ宣傳ニ乗セ

三、匪賊ノ概況

別紙要圖ノ如シ

四、警備機關

八關車軍

ラレ漸次思想匪化シ、第八區ノ如キハ住民赤化
 シ密力ニ反日會ヲ組織シ一組十名内外ノ細胞
 ヲ設ケ魔午ノ擴充ニ奔走中ナリニカ四月下旬
 日滿軍憲協同討伐宣撫兩工作ニ努メタル結果
 紅軍匪ハ漸次西南興京桓仁方面ニ移動セリ然
 レ共巧妙ナル宣傳ニ乘セラレタル大ニ匪團ハ
 勿論一般住民ノ思想的淨化ハ一朝ニシテ期待
 シ得サルモノナリ治安ハ益々複雑化シ樂觀ヲ
 許サ、ル狀況ニナリ

2. 滿軍

(一) 通化守備隊ニ於テハ在通日滿軍警協力ノ下ニ
 協和會情報主任朴昌海等ヲ利用シ紅軍匪ノ徹
 底的討伐ニ併行シ宣撫工作ヲ實施中ナルカ四
 月二十五日通化縣第八區及柳化縣境附近ヲ掃
 蕩シ紅軍ノ使用セル穴藏ニテ密カニ組織セル及
 却シ又ハ第八區住民ヲ以テ密カニ組織セル及
 日會ヲ淨化スル等思想匪ヲ目標トシテ討伐セ

(二) 独立守備歩兵第五大隊ニ於テハ討伐ノ重點ヲ
 東部東邊道ニ指向シ春陽來復ト共ニ蠢動シツ
 ツアル殘匪特ニ紅軍匪政治匪鮮匪ヲ索メテ之
 ヲ撃滅スヘク概テ五月二十二日開始六月末日
 迄ノ豫定ヲ以テ夏季討伐ヲ實施スヘク目下準
 備中ニアリ

3. 警察

(一) 臨江縣

(一) 紅軍匪揚靖宇一隊計伐ノ為メ通化勦匪司令ノ
 命ニ依リ混成第五旅三旅ハ各四ヶ連ヲ編成シ
 四月三十日ヨリ臨江縣西部地区ノ計伐ヲ開始
 セリ
 (二) 在通化第二旅ニ於テハ閩東軍ノ計伐ニ協力シ
 積極的ニ紅軍匪ヲ索メテ計伐中ニシテ下元顧
 問ノ指揮スル第二旅主力ハ五月上旬ヨリ桓仁
 縣外ニ逃避セル紅軍匪ヲ追撃進出セリ
 尚閩東軍ノ夏季計伐ニハ日軍ノ區處ヲ受テ計
 伐ニ當ル等

縣内治安ノ維持ハ地方警察ノ實績如何ニ依ル
 モノナリトシ之力成績向上ニ付鋭意研究中ノ
 處今般地方警察刷新ノ第一歩トシテ先ツ葦沓

河警察署長以下四名ノ無能署長ヲ淘汰セリ
尚此ノ外縣當局ニ於テハ臨江縣警察署及八道
江警察署ニ專任指導官ヲ派シ直接指導訓練ス
ル如ク種々研究中ナリ

(二) 輯安縣

五月四日第三期警察官練習生六十四名ノ終業
式ヲ舉行シ各所屬ニ般署(隊)セシメ五月十三
日更ニ各署(隊)ヨリ五名宛ヲ召集五十五名ニ
對シ第四期練習所ヲ開所シ目下教育中ニアル
力繁茂期ニ於ケル匪賊ノ蠢動ニ鑑ミ必要ニ應
ジ臨時游撃隊ヲ編成シ隨時討伐ニ出動シ得ル
態勢ニ在リ

五月十一日第二區地溝ニ於ケル鮮内警察官ノ
遭難事件ニ對シ加害鮮匪朴東根以下約二十名
ヲ討伐ノ爲メ幸崎甲斐兩指導官ノ指揮スル黃

大隊以下二十一名同日午後四時三十分自
 動車に依り富有街に出動し附近ノ搜索討伐ニ
 任セタル力解匪ハ既ニ桓仁縣内ニ逃走セル為
 メ匪情ヲ得ス幸崎指導官ハ五月十五日甲斐指
 導官ハ渭原ニ於テ坂口巡查ノ告別式ニ参列ノ
 上五月十七日飯還セリ
 五月十五日鮮匪ノ混入セル匪團約三百八第太
 區覆王朝ヲ襲撃シ同地警備員二十八名ハ防戦
 ニ努メタルモ戦況不利ニシテ放火ノ上人質埃
 去ニ警士一戦死ニ負傷セル旨急報ニ依リ同日
 午前七時第三區大陽金附近ヲ搜索中ノ游撃第
 一中隊ノ主力ヲ急援セシメ午後一時更ニ富有
 街ニ在リテ鮮匪ヲ索メテ討伐中ノ薰ニ中隊長
 以下二十二名ヲ下蕪菜園子ニ向ハシメ同地附
 近ノ討伐警備ニ任セラル

山形縣
臨江縣
採木公司

採木公司 鐵道敷設工事第三期ハ五道溝裡趙家
 店ヨリ小西沟間十五哩ニ至ル間ヲ測定八月十
 五日迄ニ完成ノ豫定ニテ目下之カ準備ノ為メ
 敷設路ノ木林採伐ヲ實施中ニシテ之算人夫ノ
 護衛ノ為メ後五道溝駐在第二分家ハ臨時趙家
 店ヨリ小西沟ニ分散配置シアリ

一、交通
臨江縣

三、交通通信補給經理衛生ノ概況

五月六月臨縣治安維持會ヲ開催シ本年度實
施スヘキ道路改修ヲ尤ノ如ク決議ス

(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
臨江	石人	紅土	三倉	三倉	臨江	臨江	臨江	臨江
江	溝	崖	子	子	江	江	江	江
馬	錯	八	赫	八	長	輯	撫	通
蟻	草	道	子	道	白	安	松	化
河	溝	江	頭	江	白	安	松	化
間	間	間	間	間	間	間	間	間
一	一	一	一	二	八	三	三	九
八	五	一	二	四	八	〇	〇	〇
料	料	料	料	料	料	料	料	料

鴨綠江 四道溝間 一六料

(一) 鴨綠江ノ完全ナル解氷ト航業會ノ紛擾問題解
決ニ夕ルトニ依リ臨江ヲ中心ニ上下航高瀬船
ハ五月上自來本格的ニ運航ヲ始メ貨物運送或
ハ下航滿人ノ乘用ニ使用サレアリ

乙輯 安縣

(一) 輯安縣公署ニ於テハ縣内滿浦鎮トノ交通頻繁
トナリ且ツ警備上ノ見地ヨリ通溝ト下羊魚
頭間ノ道路改修中ナリシ力假道路ノ完成ヲ見

四月二十一日ヨリ縣有貨物自動車ヲ以テ一日
二回(午前一回午後一回)定期的運行ヲ開始セリ

(二) 安東省計畫ニ基ク道路網敷ノ為メ四月二十四
日ヨリ安東省土木課員中島道路指導員ヲ縣公
署内ニ駐在セシメ目下實地調査中ニアリ

了撫 茲縣

（一）東邊道復興計畫ニ依ル縣道路新設茲改修線ヲ
 尤記決定セリ
 尤記

路	線	名	區	間	距離	摘要
撫松	——	朝陽鎮線	撫松	撫松縣界間	五二科	
撫松	——	長白線	大營	五道溝間	三七科	
撫松	——	樺甸線	高崗	撫松縣界間	三三科	
撫松	——	安圖線	撫松	撫安縣界間	八〇科	

二 通信

人臨江縣

特記事項十三

之輯安縣

五月十七日輯安ニ駐在中ノ軍政部所屬無線電台
 移動班大澤武者ハ約一ヶ月ノ豫定ヲ以テ桓仁

方面ニ於テ討伐中ノ滿軍第二旅ニ配屬ヲ命セ
ラレ通化ニ向テ出發セリ

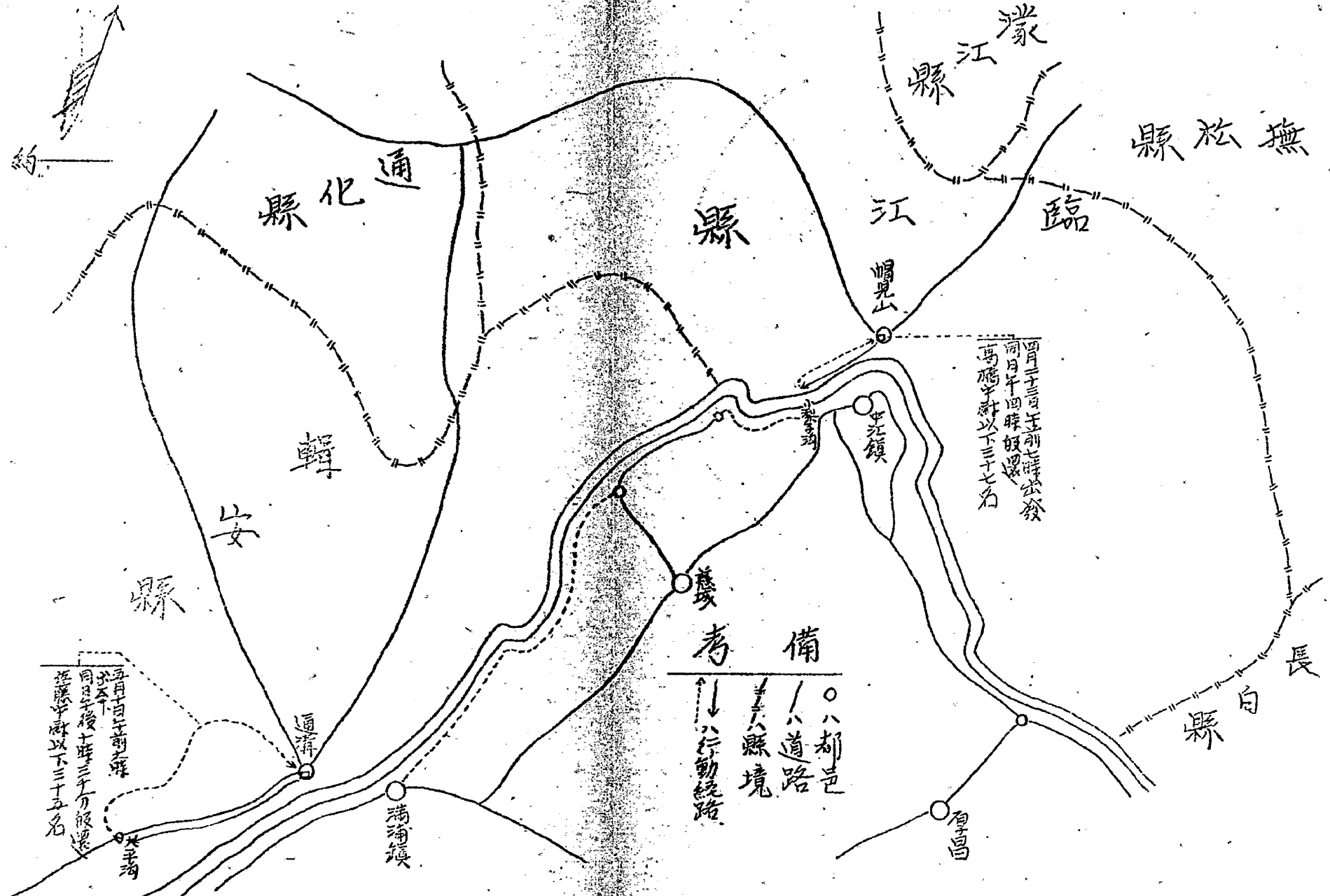
三、補給、經理、衛生

特記事項ナシ

四、編成裝備一覽表

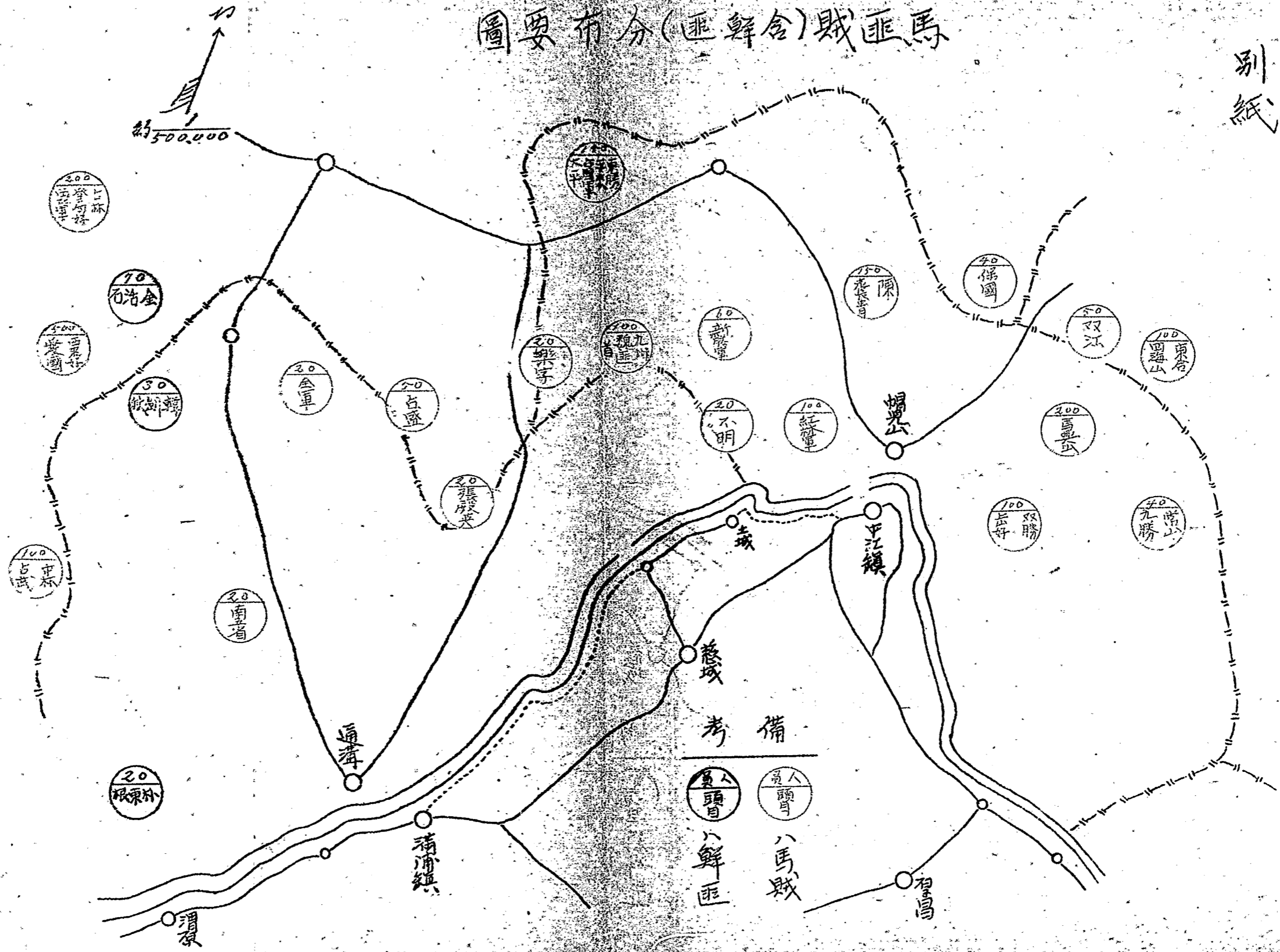
五月二十日現在ニ於テ編成裝備別表ノ如シ

討伐並警備行軍動要圖



馬匪賊(含鮮匪)分布要圖

別紙



(四)

クルナラント流言蜚語等為スモノアリテ民心
 動搖ノ徴アルニ鑑ミ外倉溝守備隊ハ五月十日
 午前七時守備隊長以下三十八名ハ之カ民心ノ
 安定ト附近一帶賊情搜索ノ目的ヲ以テ通天溝
 | 凉水泉子 | 石青溝附近ノ賊ノ檢索ニ努メタ
 ルモ發見スルニ至ラス飯途各地ニ於テ住民ヲ
 集合セシメ賊情ノ速報方指導シ荒倉ヲ經テ一
 同無事午後七時飯隊セリ
 渭原警察署管内梨山駐在所員二名ハ情報蒐集
 ノ為地溝(梨山對岸)附近ニ越境中便衣着用ノ匪
 賊四名ニ發砲セラレ内一名ハ重傷ヲ負ケ夕リ
 トノ報ニ接シ外倉溝守備隊長以下三十七名ハ
 之カ賊情内査スルト共ニ後續匪團ノ有無調査
 ノ目的ヲ以テ同日午前十一時外倉溝出發通天

る

二 小鋪石河守備隊警備行軍實施狀況

溝一凉水泉子一鷹嘴砬子一榆樹林子江口奧地
 附近二至リ賊情搜索ヲ為シ夕ル二鮮匪第二中
 隊朴東根以下二十余名ハ五月十日二道溝富有
 街北方八ノ奥地ニ移動セル外匪情トシテ認ム
 ルモノ十夕賊ハ既ニ奧地ニ逃走後ニシテ發見
 スルニ至ラス午後三時林江口ニ到着昼食ノ上
 午後四時同地出發午後七時三十分無事飯隊ス

(一) 小鋪石河守備隊ニ於テハ各警務機關ノ指導督
 勵民心ノ安定竝示威ノ目的ヲ以テ隊長以下二
 十五名四月二十二日午前八時小鋪石河出
 發小鋪石河一殷家堡子一小東沟一大庫倉沟一
 大白菜地一張家沟一白菜地一頭道溝ヲ經テ翌

三、渭原守備隊越境出動ス

(一) 二十三日午前五時無事飯隊セリ
小鋪石河守備隊ニ於テハ警備機關ノ督勵ト示

威民心ノ安定ヲ得セシムヘク隊長以下十八名

五月十六日午前七時出發西溝一小楊木杆子

小長甸子一小粟子溝一大楊木杆子ヲ經テ行程

三十二軒午後五時三十分無事飯隊セリ

(一) 動機

五月十一日午前九時四十分渭原管内梨山(渭原

邑内)西方約二里對岸ニ於テ兵力不明ノ鮮匪ト

梨山警察官ト目下交戦中ニシテ警察官一名負

傷セリト憲兵報ニ接シ出動ス

(二) 日時人員

五月十一日午前十時出發午後五時三十分返還

ス

植田中尉以下十六名(憲兵補一名隨伴)

(三) 行動ノ概要別紙要圖ノ如シ

(四) 彼我ノ損害ナシ

(五) 討伐ノ與ヘタル成果

匪賊ハ既ニ奥地ニ逃走後ナリシモ皇軍ノ急遽

出動ハ匪賊ニ對シ大ナル感動ヲ與フルト共ニ

附近住民ニ與ヘタル感動又大ナリ

政情竝治安ノ概況

輯安縣

一 政情

輯安縣公署ニ於テハ省當局ト密接ナル連繫ノ

下ニ輯安縣復興計畫要綱ナルモノヲ作製シ昨
 秋來引續キ實施中ノ半農半匪ノ弊害ヲ除去シ
 農民ト匪賊ノ離間問題ノ重要性ニ立脚セル特
 別治安工作聚家法ノ實施等ハ著々其効果ヲ擧
 ケツツアル所ナルモ之等縣治工作ノ鞏化擴大
 ラ圖ルニハ先ツ交通通信道路網ノ完成ヲ措イ
 テ他ニナレトシ去月米來各地ニ指導官ヲ派ス
 ルト共ニ省當局ヨリ專問係官ノ出張ヲ仰ク等
 各線ノ實地踏査ヲ行ヒ諸工作ノ進捗ヲ圖リツ
 ツアルカ如キハ誠ニ當ヲ得タルモノナリ
 而シテ警備道路ノ完成ト共ニ各地主要部落ノ
 防備設備ニ重點ヲ注キアルモノノ如ク外岔溝
 市街ニ於テ又現在セル市内旧道路ノ擴張工
 及過般火災ニ依リ燒失セル市街東北端等ハ徹

底の市區ノ改正ヲ断行シ路面中三十六尺ニ改
 善或ハ一部新設ヲ爲シ市街地外廊防備鐵線ハ
 之ヲ一丈六尺高サノ土壁ヲ築キ其上ニ鐵條網
 ヲ張り廻シ防備ノ完璧ヲ計ルト共ニ尚請願警
 察官制度ヲ設ケ現在警察官ノ不足ヲ充タスヘ
 ク計画中ニシテ本年中ニハ大部分ノ完成ヲ見
 ルニ至ルナラント
 二 治安ノ概況
 輯安縣内ニ於テハ系統不明ノ小匪依然出沒ヲ
 断ツニ至ラザルモ系統ヲ有スル集團匪ノ行動
 トシテハ鮮匪第二中隊員二十余名ハ第二三區
 境界附近ヲ移動潜伏シアルノ外大ナル賊團ノ
 横行ヲ認メス
 而シテ嶺後通輯縣境霸王槽(橫道川)東北方ニ料

寛甸縣

一、治安ノ概況

附近ニ於テ合流集團匪三。余名ハ通桓縣境附
 近ヨリ關東軍ノ討伐ヲ避クヘク移動シ來リ同
 地ノ襲撃ヲ敢行シタルモ之等情報ヲ探知セル
 縣内日滿警備機關ハ機ヲ逸セス之ヲ北方ニ潰
 散セシメ目下縣内ニ於テ治安上憂慮サルヘキ
 大匪團ノ行動ヲ認メス

匪賊東北軍約八十名ハ第四、五區方面ヲ橫行シ官
 憲ノ動靜ヲ窺ヒツツ物資入徴奪ニ專念シアリシ
 カ五月中旬桓寬縣境附近ニ蟠居シアリタル朱匪
 首以下二百名第五區下漏河ニ潛入シタルヲ機ニ
 縣下第四、五區方面ノ潛在匪海蛟、訪友、紅山、雙彪等

ト密カニ氣脈ヲ通シ潛行的反滿抗日運動ヲ持續
 シ虚ニ乘シ治安攪乱ヲ企圖セントスルヲ窺ハル
 尚第四五區一帯ニハ朝鮮革命軍約百二十名潛居
 シ暴威ヲ逞フシアリテ治安逆堵シ難キ情勢ニア
 リタルモ五月上旬ヨリ縣下一帯ニ巨リ各警備機
 關ハ至嚴ナル遊動警戒ヲ實施シタル夕メ本旬間
 ニ於ケル縣内治安ハ稍²平靜ヲ保テリ
 然レ共稀有ノ凶作ニ依リ一般農商民ハ生計ニ困
 窮シアル現況ニシテ甚タシキハ日ニ三度ノ食ヲ
 得ラレス草根ヲ常食トスルモノ尠カラサル現狀
 ニシテ之等賤農細民ハ賊團ニ投入スルモノ或ハ
 強盜等ノ不逞行動ヲナス者日ニ激増ノ傾向ヲ示
 シ縣下ノ治安安全ク偷安ヲ許ササルモノアリ

桓仁縣

一 治安概況

桓仁縣ニ潛居シアル大小匪團ハ討伐困難ナル桓
 寬縣境附近ニ集結シアリシカ最近繁茂期ノ好機
 = 入りタルヲ機ニ頓ニ活氣ヲ逞シ殊ニ紅軍ト氣
 脈ヲ通シアリテ時節柄憂慮サルヘキモノアリ

關東軍及滿軍警察隊ノ概況

一 從來關東軍一ケ小隊(二十余名)ノ駐屯地タリシ桓

仁縣城ニハ本月上旬ヨリ一ケ中隊駐屯スルコト

トナリテ縣内警備ニ任シアリ

二 興京縣守備隊ニ協力桓興縣境ニ蟠居スル紅軍揚

匪ヲ撃破スル目的ヲ以テ五月十日午前四時桓仁

縣内ヲ出發セル濱野中隊(滿軍一ヶ連ヲ含む)ハ同縣
 境化尖子(桓仁西北方三十料)西方地區ニ於テ同
 日午後四時頃老嶺(化尖子西北方十二料)ニ於テ
 揚匪首ノ率ユル紅軍約一。名ト遭遇交戦ニ時
 間ニシテ之ヲ北方ニ潰走セシメタリ

匪賊ノ出沒概況

一 本期間ニ於ケル匪賊ノ出沒概況左表ノ如シ

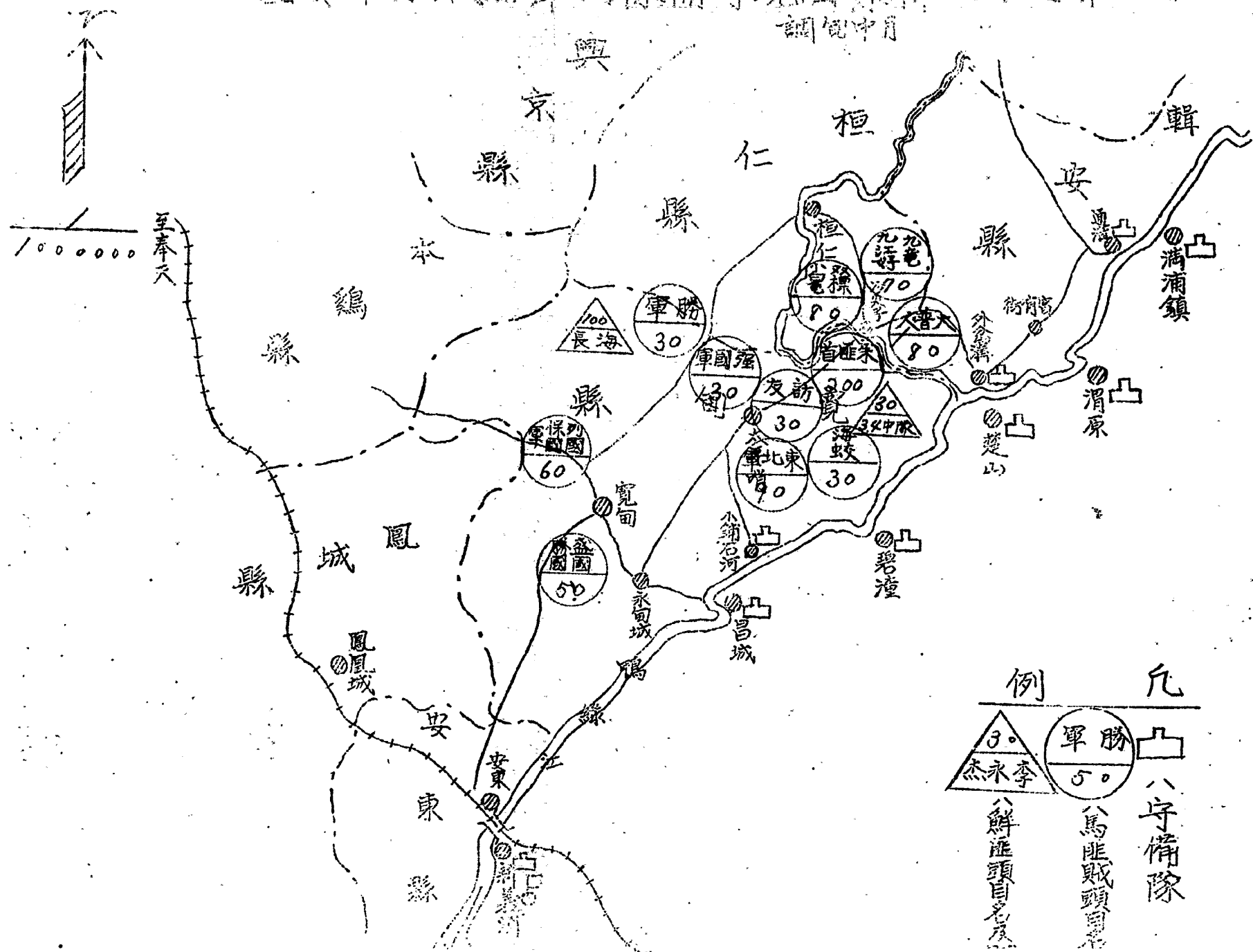
縣	旬	寬	縣別
訪友		東北軍	頭目名 賊団名
20		70	人馬数
長銃 一五 同彈 四〇		長銃 四五 同彈 一四〇 拳銃 五〇	兵器数 彈藥数
第四區		第四區 第六區	構得地 根據地
同		抗反 日滿	色彩 系統
			日滿軍警 討伐概況
五月十日第六區隱谷子村 官道沟滿人數戶二分宿翌 早朝山間地帯ニ移動ス 十四日第五區高峯地ニ現レ 同地富蒙滿人ヨリ大洋五百 円ヲ強奪ス		五月十日第六區庫倉沟村長 本籍タル南吊幌子ニ赴ク途 中該匪ノ見張人ニ逮捕セラレ ルニ昔母ミテ通レルコトアルヲ 以テ無條件ニ釋放セラル 十四日七十余名ハ白菜地村東 沟ニ於テ全團軍ト合策シ 第四五区ニ面ノ敬言備情 況ヲ内査セシムクノ數組ノ 密偵ヲ各地ニ派ス 十九日白菜地村西沟ニ該匪 十九名現レ物資ヲ掠奪シテ ス	月内ニ於ケル 行動ノ大要 對策等ノ概 要將來ニ對 スル觀察
同		飯頃ノ意志ヲ 徹底的討 代ヲ要ス	

縣		甸		寬	
長江竜		朱匪首		興國軍	
20		36		10	
同 三五	長銃 一五	同 三五	長銃 一五	同 三五	長銃 一五
區三五		區三五		區三五	
同		同		同	
<p>第五區高峯地村ニ現レ 滿人ニ戸ニ分宿翌早朝 奥地ニ移動ス</p>		<p>十四日下漏河村碾子沟 滿人六名拉去シ尚同村 家屋ニ戸ニ放火全燒セ シメ下漏河方面ニ逃走 ス</p>		<p>十二日第四區白菜地村 滿人數戸ニ侵入シ大洋 五百元ヲ強奪逃走ス</p>	
同		同		同	

縣	安	安	安	安
不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
10	10	4	50	30
長銃五 同彈三〇 拳銃四 同彈二〇	長銃四 同彈三〇 拳銃三 同彈二〇	長銃四 同彈二〇 拳銃四 同彈二〇	長銃三 同彈二〇 拳銃一 同彈七〇	長銃三 同彈二〇 拳銃三 同彈二〇
第八區	第六區	第三區	第四區	第三區 四區
同	同	同	同	同
高小司令所長以下 八名出勤交戦シ 拉去者ヲ奪還ス	久財園子署長 以下九名ト遭 遇三名ヲ射殺 撃退ス	外金溝小隊出 動搜索ス	緝私隊員八名 應戦約二十分 ニシテ該匪ヲ同 村奥地方面ニ 潰走セシム	五月十四日塩務工作 ノタメ出張中緝私隊 員ヨリ武器ヲ掠奪セ ント該匪一行三名 ハ襲撃ス
五月十二日第八區三 道歳子ニ現レ滿人二 名ヲ拉去逃走ス	五月十二日六區跑 馬川ニ侵入ス	五月十一日第三區地溝 ニ於テ情報蒐集中ノ 鮮側坂口巡查銃傷ス	五月十日第四區萌芝套 ニ現レ滿人六名ヲ拉去逃 走ス	
同	同	同	同	同

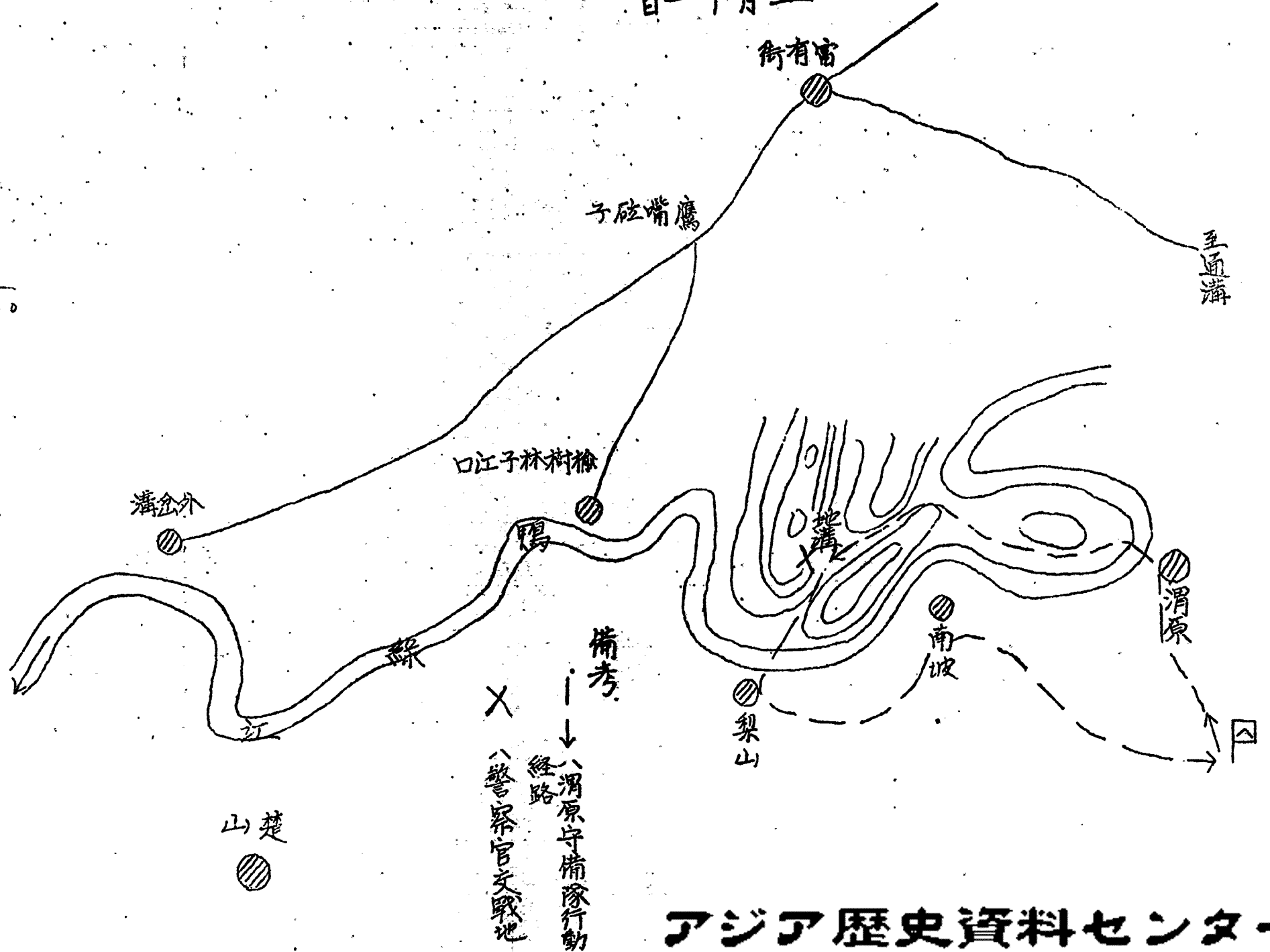
縣		安		輯	
不詳	不詳	九江九 五江好 長好 鮮雁ノ 合流	占盛 小占東 白電	長銃四〇 同彈二〇 拳銃一五 同彈八〇	長銃四〇 同彈二〇 拳銃一五 同彈八〇
ク	ク	300	60	長銃三〇 同彈一〇 拳銃五〇 同彈四〇	長銃三〇 同彈一〇 拳銃五〇 同彈四〇
長銃三 同彈二〇 拳銃二 同彈一〇	槍及棍 棒ヲ携 行入	第ニ區	第ニ區	第ニ區	第ニ區
強盜 類似	同	同	同	同	同
	外金溝署員 出勤搜索入	同地署員及 村公所員極力 應戰ス			
五月十四日第四區大 長川ニ現ハレ滿人ニ 鮮人ニヲ拉去逃走ス	五月十七日第三區通 天溝ニ現レ同地滿人至 某拉去逃走ス	五月十五日第六區 霸三措ヲ龍衣撃入	五月十二日桓仁縣内 ヨリ第五區小青溝ニ 移動シ來リ同地ニ潛 伏ス		
同	同	同	同	同	同

圖安平分縣海軍封隊備守境國歷時六十七年
調包中月



渭原守備隊行動要圖

五月十一日



編成裝備一覽表 五月二日調 步兵第七十八隊國境守備隊

備考	合計	隊部内鮮					隊部境越			分區		裝備	兵科	成	人員	馬
		城高	津碧	山楚	原渭	州義新	河石鋪小	溝念外	駐屯地							
		萩原雅雄	歩兵大尉 中川甚太郎	歩兵中尉 片山佳美	歩兵中尉 植田新兵衛	稲川直衛	歩兵中尉 永瀨重文	歩兵少尉 土岡榮太郎	歩兵特務曹長	別	分					
22	4	2	4	2	6	2	2	筒彈擲								
11	1	1	2	1	2	2	2	銃關機輕								
7	2		1		2	1	1	銃關機重								
1					1			砲兵步								
1							1	砲								
4	1		1		1	1		佐								
2		1			1			尉								
3					1	1		尉								
7	2		2		2	1		尉官								
7	1	1	1	1	2	1		長曹								
26	5	1	3	1	7	2	1	3	1	4						
2			1		1											
52	7	4	11	4	19		1	3	1	4						
344	56	14	55	14	133			3	1	40						
447	72	21	72	21	165	6	2	38	2	49						
1						1					計	主計	經理部			
4	1		1			2					手	軍	衛生部			
3	1		1			1					医	看護	工			
5		1	1	1	1	1		1	1	1	長	長				
16	2	2	2	2	8						長					
3	4					3										
32		3	4	3	8	8		1	1		計		各部			
479	76	24	76	24	173	14	2	39	2	50	計	合				
2						2					馬	乘	馬			
5	1	1	1	1		1					馬	品	物			
7	7	1	1	1		3					計					
4	1		1		1					1	校	將				
1					1					1	官	士	人			
2			1		2					1	官	士	員			
6	1		2		3	1				1	兵	計	定員			
											匹	馬	人員			
													入馬			
													對スル			
													増減			

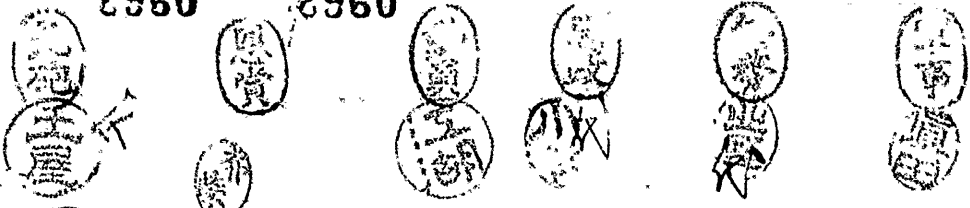
一ヶハ萬兵ヲ組ハ狙撃砲ヲ示ス
定員ニ對スル人員増減欄中未嘗減ヲ墨書ハ増ヲ示ス
未嘗人員中ニハ分派者及入院患者ヲ含マズ
砲八目下修理中ニテ使用ニ得ズ

入馬増減ノ理由及人員異動情況
同右代理
特務曹長一名
特務曹長一名
増下ノ人員
減下ノ人員
減一ハ特務一名
減一ハ特務一名

0963

0962

閱



秘

國境守備隊月報(八月)

朝鮮特報第二十號

昭和十年九月

前四一部保管ノ課

朝鮮軍參謀

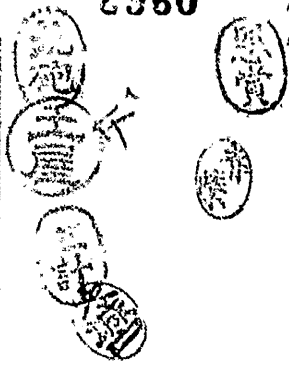


恩賞第一〇三號



8960

8960



國境守備隊月報(八月)

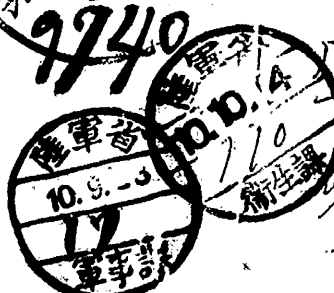


朝鮮軍參謀部

朝鮮軍參謀部 第九十八號



朝鮮軍參謀部 第十年九月



恩賞第 〇三號



目次

- 一、間島臨時派遣隊琿春支隊月報
- 一、歩兵第七十三聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十四聯隊同
- 一、歩兵第七十五聯隊同
- 一、歩兵第七十六聯隊同
- 一、歩兵第七十七聯隊同
- 一、歩兵第七十八聯隊同

5960



間島臨時派遣隊彈春支隊月報(八月)



- 第一 一般治安ノ狀況
- 第二 討伐警備ノ狀況
- 第三 滿洲國軍警及自衛團ノ狀況
- 第四 治安工作ニ關スル事項
- 第五 政情 民情
- 第六 交通 通信
- 第七 兵器
- 第八 經理
- 第九 衛生
- 第十 馬事 軍犬

第一 其他

- 附表第一 日滿軍警討伐警備行動概要
- 附表第二 步兵第八團第二營編成並配備表
- 附圖第一 縣内匪賊ノ分布並活動狀況要圖
- 附圖第二 琿春支隊配備要圖
- 附圖第三 步兵第八團第二營配備要圖
- 附圖第四 日滿各警察署配備要圖
- 附圖第五 自衛團緝私隊配備要圖
- 附圖第六 管内警備電話網要圖
- 附圖第七 管内無線電信網要圖

第二 一般治安ノ狀況

縣内一般治安ノ狀況ハ全般的ニ於テ良況ニア
 ルモ土門子方面ニ於テ阿片或ハ盜掘砂金ノ強
 奪ヲ企圖スル少数匪賊ハ横行アリ又琿春河南
 國境線附近ニ於テハ武裝共匪ノ一部侵入徘徊
 スルアリテ局部的ニ於テ匪害ヲ蒙リ依然トシ
 テ我支隊ノ積極的討伐ヲ要スルモアリ
 匪賊ノ狀況

一 土門子方面

一、蘭家陞子附近密林地帯ヲ根據トスル徐吉忠ヲ
 首領トスル共產系兵匪約二十数名ハ本月初旬
 ヨリ主トシテ東興鎮東北地區僻地ニ横行シ阿
 片ノ強奪及金品物資ノ掠奪ニ任シアリ
 二、汪清縣金蒼附近ニ根據スル共匪ノ一部約三十
 名ハ本月初旬以來土門子西方上房子大六道溝
 奥地砂金礦附近及西南岔方面砂金盜掘者ヲ目
 標トシテ徘徊シ金品ノ掠奪ニ任シツ、アリ

二、鎮安嶺方面

先月中旬以來匪賊ノ出沒ヲ見ス治安ノ狀況良好ナリ

三 琿春方面

八本月初旬以來汪清縣金蒼附近ニ根據スル東北人民革命軍第二軍第二獨立師第二團第四連ト稱スル武装共匪約三十名琿春河南滿蘇圍境線附近ニ侵入徘徊中ニシテ本月二十二日長嶺子西南國境線ニ於テ其根據地ヲ奇襲セラレ相當ノ打撃ヲ受ケタルモ蘇領安全地帯ヲ背景トシ

且同方面ゲペウノ間接的庇護下ニ巧ニ我カ警備ノ間隙ヲ求メテ徘徊シ主トシテ糧食ノ掠奪ニ任シアリ

又汪清縣南方地區ニ根據スル東北人民革命軍第三團第三連ト稱スル武裝共匪約三十名ハ本月二十四日以來琿春ノ北方馬家店大荒溝方面ニ侵入シ同地方集團部落ノ襲撃及赤化工作ヲ企圖セルモ我日滿軍警ノ至嚴ナル警戒ト積極的對策トニ依リ其ノ目的ヲ達セス森林地帯ニ

潜伏徘徊シ我討伐ヲ回避シアリ

四金蒼火燒鋪方面

七月初旬ヨリ下旬ニ及フ長期ニ亘リ關東軍測量掩護隊トシテ琿春守備隊ノ一部同方面ニ進出シ且反覆的ニ該方面一帯ヲ掃蕩ノ結果匪賊ハ殆ント~~盡~~黒山又ハ羅子溝方面ニ逃走シ殘存ノ一部ハ密林中深ク潜伏シ我皇軍ノ討伐ヲ回避シ皇軍ノ撤退ニ伴ヒ漸次歸剿ノ景況ヲ認めラル、モノアルモ武装共匪ノ主力ハ依然トシ

テ羅子溝及^丸黒山方面ニアリテ行動中ナルモ
ノ、如シ

五本月中匪賊ノ出沒及被害ノ狀況尤ノ如シ

出沒回數 四一回

出沒延人員 六二九名

被拉致者 三一名

被殺傷 二名

被害金額 七〇四圓九十錢

六本月中馬匪賊ノ出沒並ニ分布ノ狀況附圖第一
ノ如シ

第二 討伐警備ノ狀況

一 琿春守備隊方面

琿春守備隊ハ本月初旬琿春河南地區ニ侵入セ
 ル約三十名ノ匪賊ニ對シ中旬以來連續的ニ掃
 蕩中ニシテ八月二十二日中島小隊ハ長嶺子西
 南地區國境線ニ於テ其根據地ヲ奇襲シ相當ノ
 打撃ヲ與エタルモ該匪賊ハ常ニ蘇領ニ遁入シ
 且ゲペロノ間接的庇護下ニ依然トシテ國境線
 ニ潛在シアリテ未夕之ヲ捕促ニ至ラス

2. 八月二十四日以降新ニ馬家店方面ニ匪賊侵入
 スルニ及ヒ支隊長ハ鎮安嶺以西日滿軍警ヲ統
 制區處シ二十六日以降琿春北方及長嶺子方面
 國境地帯兩方面ノ討伐ヲ實施中ナリ
 3. 守備隊ハ中村少尉ノ指揮スル一小隊ヲ關東軍
 測量掩護隊トシテ八月十八日以降頭道溝ニ三
 道溝ヲ經テ杜荒子方面ニ行動セシメツ、アル
 モ天候不良ノ爲作業遲延ノ狀況ニアリ
 ニ土門子守備隊方面

東興鎮東北方及土門子西方地區ニ於ケル徘徊
 匪賊ニ對シ常ニ積極的ニ行動シ掃蕩ヲ敢行シ
 ツ、アリ

本月二十四日河野少尉以下三十餘名ヲ關東軍
 測量掩護ノ爲杜荒子ニ派遣シ目下同地ニアリ
 テ待機ノ姿勢ニアリ而シテ爾後琿春守備隊中
 村小隊ト交代シ杜荒子土門子間ノ掩護ニ任ス
 ル豫定ナリ

三鎮安嶺守備隊方面

西南岔及五道溝東方國境線附近ニ行動シ擔任
 地區内警備ニ任シタル外本月二十六日ヨリニ
 十九日ニ亘リ琿春守備隊ニ協力シ馬適達方面
 ニ進出琿春河南地區徘徊匪賊ノ捕捉ヲ企圖シ
 ツ、アリ

四 本月中討伐ノ顯著ナル戦闘尤ノ如シ
 琿春守備隊中島中尉以下二十五名八月十八日
 ヨリ行動ヲ開始シ沙土子ト火龍溝ト小八嶺ト
 盤石溝ト長嶺子附近ノ匪賊ヲ討伐中二十二日

小八嶺東北方標高三五七高地國境線附近ニ於
テ匪賊約二十数名ノ根據地ヲ發見之ヲ奇襲交
戰擊退ス

本戦闘ニ於テ敵五名ヲ斃セシモ我軍ニ於テモ
戦死ニ(兵)一員傷ニ(下士官)一兵ニヲ生セリ

五本月中ニ於ケル支隊ノ討伐警備ノ狀況附表第
一ノ如シ

第三 滿洲國軍警及自衛團ノ狀況

一 滿洲國軍隊

△分水嶺派遣排、延吉歸還

分水嶺ニ位置シ同地方國境警備ヲ擔任中ノ派
遣排一ヶ排ハ今般延吉警備司令部ニ招致シ
ト、十リ八月二十一日同地撤退二十四日琿春
ニ集結ノ上二十六日琿春出發鮮内經由延吉ニ
向ヘリ

△分水嶺ニ新ニ步兵一排ヲ配置ス

分水嶺派遣排ノ撤退ニ伴ヒ新ニ東興鎮駐屯第
四連ノ一ヶ排ヲ該地ニ派遣シ警備セシムルコ

ト、ナリ該部隊ハ八月二十三日其移駐ヲ完了
セリ

3. 各地滿軍ハ日本軍ニ協力シ警備ニ任シアリテ
本月初旬五道溝滿軍ハ上番子ニ於テ匪賊ヲ掃
蕩シ内三名ヲ射殺スルヲ得タリ

琿春滿軍ハ本月二十六日以降一小隊ヲ大陽村
(琿春北方約一二軒)ニ派遣シ同方面匪賊ニ對ス
ル警戒並ニ掃蕩ヲ實施中ナリ
二琿春國境監視隊要員募集狀況

滿洲國軍政部ニ於テ募集中ノ國境監視隊要員
 鮮人ハ八月十日之ヲ打切りタルカ琿春縣内ニ
 於ケル應募者九十四名ニ達シタルヲ以テ八月
 二十日ヨリ同二十六日ニ亘リ人物考査ヲ實施
 セシニ合格者七十六名ニシテ九月三日河南騎
 兵第十團ニ入營ノ豫定ナリ

三滿洲國警察

ハ先月相當徹底セル鞏化訓練ヲ實施セル爲其ノ
 能力漸次向上ノ跡ヲ認メ警備上良結果ヲ齎シ

シ、アリ
 本月月中ニ於ケル人員武器ノ狀況九ノ如シ

備考	輕機關銃	拳銃	小銃	士兵	幹部	區分	
						行政	警察
(一)内ハ日系ヲ示ス 人員中本表外夫役ニハヲ有ス	—	一五	四〇	三二一(三)	九二(五)	今月現在数	前月ニ比シ増減数

四 自衛團

ハ本月中特異ノ事項ヲ認メス眞面目ニ服務シアリ

乙本月末ニ於ケル人員武器ノ總數左表ノ如シ

備考	小銃	人員	團數	區分	
				有給自衛團	無給自衛團
	三 ▽ 四	三 ▽ 四	一 五	今月現在數 前月比ニ増減數	今月現在數 前月比ニ増減數
	五 二	五 二	三		

五本月末ニ於ケル滿軍第八團第二營ノ編成配備

表附表第二及附圖第三、如ク警察ノ配備並自衛團緝私隊ノ配備附圖第四第五ノ如シ

六本月中ニ於ケル滿軍及滿警自衛團ノ討伐警備ノ狀況附表第一ノ如シ

第四 治安工作ニ關スル事項

一 警備連絡訓練ニ關スル事項

本月十日ヨリ二十五日ニ亘リ既報計畫ニ基キ警備訓練ヲ實施セリ而シテ本訓練ハ支隊長統制ノ下ニ琿春地區内各種警備機關及保甲法ニ

基ク一般住民ヲ一丸的ニ訓練シ警備ニ關スル
 諸情報ノ蒐集並ニ迅速ナル連絡要領ノ練磨向
 上ヲ期スルニ在リテ訓練ノ當初ニ於テハ充分
 ナラサリシモ漸次向上ノ跡ヲ認メ末期ニ於テ
 相當ノ成果ヲ收ムルヲ得タリ尚將來此種ノ訓
 練特ニ住民工作ヲ續行シ警備ノ萬全ヲ期スル
 ヲ要ス

第五 政情 民情

一鐵路總局ノ映畫會開催

滿洲國新京鐵路總局警務處宣傳部ニ於テハ自
 動車路線愛護村民ノ慰勞及軍隊一般民衆慰安
 ノ爲映畫會ヲ尤ノ日割ヲ以テ開催セシカ一般
 ニ盛況ニ終了セリ

八月十八日

輝 春

八月十九日

馬適達

八月二十日

五道溝

八月二十一日

土門子

八月二十二日

東興鎮

二阿片收買狀況

本年度琿春縣下ニ於ケル阿片收買ハ七月二十日ヨリ十一月三十日迄ヲ買收期間トシ琿春東興鎮馬適達黑項子哈達門ノ五箇所ニ於テ收買中ナルカ八月二十日現在ノ狀況尤ノ如シ

買收量 一六三三五二兩(一兩十匁)

買收金額 二二五八八六圓六四錢

尚期限迄ニハ約二十五萬兩ヲ收買ノ豫定ナリ

第六 交通 通信

一 交通

八尾灣子―瑯春間輕便鐵道ノ狀況

先月以來假營業ヲ開始中ナルカ機關車故障ノ爲數日間不通トナリシコトアルモ其他ハ圓滑ニ通過シアリ

二 瑯春―東興鎮間道路ノ狀況

瑯春―東興鎮間ノ道路ハ八月上旬ニ於テ降雨ノ爲自動車ノ通行困難ニ陥リタルコトアリシモ其後大ナル降雨ナカリシ爲目下順調ニ運行

スルニ至レリ然フシテ該自動車ハ八月二十六
日ヨリ發着時刻ヲ尤ノ如ク變更セリ

琿 春發 午前七時 東興鎮着 午後〇時

東興鎮發 午後一時 琿 春着 午後六時

鎮安嶺―四道溝間ノ補修工事ハ未夕經費ノ關
係上着手スルニ至ラス

³琿春―大荒溝道路ノ狀況

琿春―大荒溝ノ道路ハ八月十日橋梁工事ヲ完
成シ自動車ノ運行上支障ナキニ至レリ然レト

毛路面未夕堅固ヲ欠キ降雨ニ降シテハ氾濫ヲ
生シ屢々交通杜絶スルノ狀況ニアリ

4土門子―東寧道ノ狀況

土門子―東寧道ノ工事ハ著々進捗シ目下土門
子北方四十料附近ニ到達シアリ

二通信

八管外通信

一、般ニ疏通良好ナルモ對龍山間ハ感度低下シ
二重通信困難ナリシヲ以テ片通信ヲ實施セシ

ニ疏通良好ナリ

2. 管内通信

イ夜間ノ交信ハ依然ラズオノ妨害ニ依リ連絡
困難ナルコトアリタルモ一般ニ疏通良好ナ
リ

ロ八月十八日測量掩護隊ニ無線一分隊ヲ配属
シ掩護部隊ト支隊本部及土門子守備隊間ノ
連絡ニ任シアリテ疏通良好ナリ

3. 軍用電話ノ状況

琿春―慶源間ノ軍用電話ハ七月中旬圖們江増
 水ノ爲斷線セルハ前月報ノ如クナルカ其後補
 修ヲ實施セシモ電柱倒壞等ノ爲開通スルノ遲
 二至ラス

々縣内警備電話網狀況附團第六ノ如ク無線通信
 網ノ狀況附團第七ノ如シ

第七 兵器

一裝備兵器一般ノ保存整理ハ概テ良好ナルモハ
 月中旬各守備隊ニ於ケル兵器検査ノ結果ニ依

レハ第三三類兵器ニシテ更新ヲ要シ或ハ不足
ノ爲補填ヲ要スルモノ若干アルヲ以テ目下師
團兵器部ニ對シ請求中ナリ

ニ第二中隊主管ノ輕機關銃ハ殆ント全數脚頭鏢
動搖甚シキヲ以テ逐次隊外修理ヲ實施シ之カ
整備ニ努メントス

三自動貨車ハ目下「ちよだ」自動貨車一台ヲ除キ其
他ハ屢々小破損アルモノ一般ニ機能概不良好ニ
シテ使用上大ナル支障ナシ

一九二七年クライスラー乗用自動車八目下變速齒輪(バツク)欠損シ使用ニ堪エス

四特殊彈藥庫ハ九月一日ヲ以テ完成シ兵器庫銃工場ハ目下模様替實施中ナリ尚琿春守備隊脂油庫ハ急造ノタメ不完全ナルヲ以テ將來改造ヲ必要ト認ム

第八 經理

一 金錢事項

第一次測量掩護(自六月十三日至七月十四日)ニ要セシ經費四六七四

圓七〇錢ハ支隊令達豫算ヲ繰替使用セシヲ以テ近ク増額方申請ノ豫定ナリ
 二補給々養事項

八月分糧秣ハ訓戎經由本月十九日補給セラレ分屯守備隊へノ糧秣補給ハ八月十日及十六日ニ實施セリ

八月十八日ヨリ開始ノ第二次測量掩護隊ノ糧秣ハ出發ノ際大部ヲ携行セシメ一部ヲ八月二十六日追送セリ

³八月十日ヨリ十二日ニ亘ル煙筒磊子方面ノ討
 伐十七日ヨリ二十四日ニ亘ル大公司附近ノ討
 伐及二十六日ヨリ二十九日ニ亘ル長嶺子方面
 ノ討伐間ノ所要糧秣ハ出發ニ當リ夫々携行セ
 シ×何レモ戰時給與規則ヲ適用セリ

三 被服物品事項

第一次測量掩護終了ニ付衰損被服ノ換給ヲ實
 施セリ、彈春守備隊宿舍將校集會所酒保、改修
 ニ伴ヒ備品(杓椅子等)ノ新調準備中ナリ

四營繕事項

師團經理部ニ於テ契約ニ係ル瑯春守備隊兵舎
 其他修繕ノ工事ハ七月初旬ヨリ施行中ノ處近
 ク完成ノ見込ナリ

機關銃隊兵舎及將校宿舎ノ壁ハ八月二十日風
 雨ノ爲崩壊シ危險ニシテ放置シ得サル爲應急
 的修繕ヲ實施セリ其ノ經費ハ一九五四二一錢
 ニシテ近ク申請スル豫定ナリ

土門子飛行場ノ整地作業ハ本月中旬完成見込

ノ處降雨頻繁ナリシ爲現在ニ於ケル進捗程度
八九割強ニシテ近日中ニ完成ノ見込ナリ

第九 衛生

一患者ノ狀況

本月間ノ患者ノ狀況左表ノ如シ

病名	舊患	新患	計	轉歸		後遺	摘	要
				治癒	死			
クルル性肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—
急性咽頭炎	—	三	三	二	—	—	—	—
急性胃炎	—	—	—	—	—	—	—	—
腎盂炎	—	—	—	—	—	—	—	—
痔	—	—	—	—	—	—	—	—

二防疫ノ狀況

八月三日八年後期兵三十六名ニ對シ第二回腸
 子ヲスパラAB混合豫防接種ヲ實施ス異狀及
 反應者ナシ八日十五日三十日各便所塵捨場排
 水溝ニ石油乳劑ヲ撒布ス
 三衛生材料ノ狀況

計	銃創	挫傷	濕疹
一			
一	二	一	一
二	二	一	一
五		一	
三	二		
三			一

本月間尤、如ク衛生材料ノ補給ヲ受ク

三日 慶源分院ヨリ ザロール外一點

十日 軍倉庫ヨリ 麻ニ枚糸外四點

各守備隊ニ尤、如ク補給ス

土門子守備隊 体重計外一七點

鎮安鎮守備隊 作業衣外一二點

第一〇馬事 軍犬

一馬保育並衛生一般ノ状態ハ概テ良好ナルモ老
齡ノ爲資格低下シ更新ヲ要スルモノアリ

當地方ハ獸疫流行スルニ鑑ミ領事館囑託獸醫
ニ依頼シ炭疽ノ豫防接種ヲ八月六日實施セシ
モ異狀反應馬ナシ

ニ厩舎ノ改築工事ハ目下實施中ニシテ當番室ハ
完成シ馬房其他モ近日中ニ完成ノ豫定ナリ

三月二十一日ノ討伐ニ於テ蹄鐵工兵重傷シ目
下會寧衛戍病院ニ入院加療中ノ爲不便ヲ感シ
アリ之カ補充ニ關シテハ母隊ト連絡シ近ク補
充ノ豫定ナルモ未タ到着ニ至ラス

四、軍用犬保育衛生一般ノ状態ハ概ネ良好ニシテ
 特記スヘキ事項ナシ

第十一、其他

一、機關銃隊長中瀬中尉ハ八月一日大尉ニ進級ノ
 上歩兵第七十三聯隊中隊長ニ補セラレ八月十
 日赴任セリ

二、佐藤主計ハ八月一日陸軍糧秣本廠附ニ補セラ
 レ八月十一日赴任ス

三、中瀬大尉ノ後任トシテ歩七五ヨリ宮澤中尉機

關銃隊長ヲ命セラレ八月二十一日着任ス

四佐藤主計ノ後任トシテ步七五ヨリ土屋主計ハ
 月二十一日支隊附ヲ命セラレ八月二十五日着
 任ス

五機關銃隊橋積軍曹ハ八月五日曹長ニ進級ノ上
 步七五附ヲ命セラレ八月十一日赴任ス

六本部山岸曹長ハ八月八日 步七五附ヲ命セラ
 レ八月十五日赴任ス

七山岸曹長橋積曹長ノ後任トシテ步七五ヨリ市

村曹長石川伍長支隊附ヲ命セラレ八月十日著
任ス

八月二十二日長嶺子附近ノ討伐ニ於テ機關銃
隊一等兵水野正二同小島清一ハ名與ノ戦死ヲ
遂ク尚兩一等兵ハ同日附上等兵ヲ命セラレニ
十四日守備隊ニ於テ告别式ヲ營ミ遺骨ハ午後
四時瑋春發訓我經由會寧ニ護送セリ尚同日ノ
戦鬪ニ於テ軍曹内田藤市一等兵竹内菊一ハ負
傷シ即日慶源分院經由會寧衛戍病院ニ入院ス

1005

經果良好ナリ

一九

自八月十八日 至八月二十七日	自八月十八日 至八月二十日	自八月十八日 至八月二十日	自八月十八日 至八月二十日	自八月十八日 至八月二十日	自八月十八日 至八月二十日
長嶺子北才國境線附近	胡芦別更地	黑附	項	子	近
討伐警備行動概要					
支隊ノ部					
行 動 概 要					
<p>中島中尉以下三十名八月十日午後六時長嶺子才國境線附近ノ共匪ヲ討伐スヘク瑋春ヲ出發シ長嶺子附近ノ掃蕩シ十一日千クローヤ山西北方約一里ノ國境線附近及九號界標附近ノ掃蕩ヲ實施シ十五日午後八時三十分歸隊ス</p>					
<p>中村少尉以下三十名八月十日午後六時胡芦別更地附近ノ國境線附近ヲ掃蕩スヘク瑋春ヲ出發同地附近ヲ掃蕩シ十二日午後六時歸隊ス</p>					
<p>古賀特務曹長以下十五名長嶺子附近ノ共匪ヲ討伐スヘク八月十七日午前五時瑋春ヲ出發九沙坪</p>					
同					

自八月十八日 至八月二十四日	自八月十九日 至八月二十五日	自八月十八日 至八月二十三日	
長嶺子附近	馬三家店附近	長嶺子附近	
<p>隊 備 守 春 彈</p>			
<p>八月二十二日中島小隊交戦中ナルノ報ニ接シ牛尾大尉以下二十二名午前九時五十分彈春出發長嶺子西南方中島小隊ノ戦場ニ到リ同地附近ノ討伐ヲ行ヒ二十四日午前十時彈春ニ歸還ス</p>	<p>關東軍測量隊掩護部隊トシテ中村少尉以下三名八月六日彈春出發馬家店附近ニ到リ爾後三道溝、杜荒子方面ニ亘ル測量隊ノ掩護ニ任スル外同方面ノ警備ニ任シアリ</p>	<p>中島中尉以下二十五名長嶺子附近ノ共匪討伐ノ爲十八日午前八時小嶺—盤石溝—長嶺子附近ノ共匪ヲ討伐シ二十日二十数名ノ共匪ヲ殺見之ヲ奇襲多大ノ損害ヲ與ヘ二十三日歸隊ス</p>	<p>ニ到リ黒頂子附近一帯ヲ掃蕩シ二十三日午後六時三十分彈春ニ歸還ス</p>
<p>敵ハ蘇領内ニ侵入ス</p>		<p>敵死体五 我戦死二 負傷二</p>	

日六十二自 日九十一至	日四十二至日二十二月八自	日六十二月八自 日九十月八至	日三十二月八自 日五十月八至
近臥境國標界號六		近附子嶺長	
所駐分兵憲坪沙九		隊備守春琿	
八月二十日午後六時岡原軍曹以下十一名黒頂子一嶺山 一六號界標附近ヲ掃蕩シテ午後六時歸還入	見之ヲ追撃セシ約四軒ノ地點ニ到リ約二十名ノ共匪ト 合体逃走セシヲ以テ之ヲ追撃セルモ濃霧ノ爲功ヲ奏 セス共匪六蘇領内ニ逃走セルヲ以テ午後時歸還セリ	二十日午後六時岡原軍曹以下十一名(滿警六)三嶺山 附近ヲ掃蕩シ同夜同地ニ於テ警武二十四日午前二 時同地發六號界標附近ニ於テ共匪ノ歩哨二名ヲ獲	大尉ノ指揮ニ入り二十五日午前十時歸隊ス 八月二十六日午後五時牛尾大尉以下四〇名琿春出 發二道河子ニ到リ長嶺子一盤石溝附近ノ討 伐ヲ實施シ八月二十六日午後二時三十分歸隊ス
右 同	右 同	右 同	右 同

自至八月一日	自至八月八日	自至八月四日	自至八月一日
土門子	龍岩東北附近	飛北行場	下集部
土門子守備隊			
<p>八月十三日午前七時深谷特務曹長以下二十三名土門子出發黒増子奥地附近ヲ掃蕩シ匪賊小屋ヲ發見セルモ賊影ヲ認めス午後三時歸還ス</p>	<p>近ヲ掃蕩同日上草木項子ニ露營翌九日午前十時歸還ス</p>	<p>八月四日午後一時五十分匪賊連絡者ヲシキ者飛行場北方地區ヲ徘徊中ノ報ニ接シ隊長以下四名之ヲ追跡セルモ賊影ヲ認めス午後五時歸隊ス</p>	<p>八月一日小池曹長以下十七名午後六時土門子出發下草木項子ニ到リ同地ヨリ東北方地區集部ヲ落附近ノ警備ニ任シ八月三日午前八時歸隊ス</p>
右 同	右 同	右 同	<p>敵情肅待 ルトコロナシ</p>

自至 八月十二日 至八月十三日	自至 八月十八日 至八月二十三日	自至 八月十九日 至八月二十日	自至 八月十八日 至八月二十二日
柳采 樹田 河子 洞	五道溝奧地		香房子河子 杜荒子 谷
鎮安嶺守備隊		土門子守備隊	
<p>鈴木中尉以下二十名八月十三日午前二時守備隊出發五道溝房子一香房子奧地向ヒ掃蕩前進中五道溝房子北方約四軒谷地於テ炊煙ヲ發見之ヲ奇襲鮮人共産黨員二名ヲ捕獲ス引續キ前進大西南公附近ニ露營翌十五日同地奧地附近ノ掃蕩ヲ實施シ十五日午後五時歸隊ス</p> <p>八月二十日午後三時十分佐藤軍曹以下六名守備隊出發煙筒磊子附近ノ警備行軍ヲ行フ八月二十日鈴木中尉以下十四名守備隊出發柳樹河子ニ於テ</p>		<p>八月二十三日午前二時三十分隊長以下三七名土門子出發青溝子及香房子河子谷一帶ヲ掃蕩シ二十四日午前十時歸還ス</p> <p>八月二十四日午前七時河野少尉以下三十一名土門子出發杜荒子ニ到リ測量掩護ニ任シテ</p>	
<p>賊情ニ明得 ルトコトナシ</p>		<p>賊情ニ明得ル トコトナシ</p> <p>共産黨員二名捕獲</p> <p>右 同</p>	

自八月十八日 至八月二十六日	自八月十八日 至八月二十九日
梨樹溝奥地	胡芦別大平川園境附近
鎮 安 領 守 備 隊	
佐藤分隊ヲ併セ雪帶山一菜田洞奥地附近ヲ掃蕩シ二十三日午後三時三十分歸隊ス 八月二十五日鈴木中尉以下十六名守備隊出發シ六日午後四時歸隊ス	八月二十六日午後五時三十分鈴木中尉以下十六名守備隊ヲ討伐ニ策應シ鎮安嶺出發胡芦別一煙筒砦子一 大平川園境附近ノ掃蕩ヲ行ヒ二十九日午後四時五十分歸隊ス
右 同	右 同

日月	自至 七月二十八日 至八月一日	自至 八月八日 至八月十五日	自至 八月十六日 至八月十八日
地方	上草木項子附近		
行動部	第一連		
<p>満軍ノ部</p> <p>行 動 概 要</p>	<p>七月二十六日午前六時連長以下四十八名東興鎮出發草木項子及青泥窪地帯共匪掃蕩中二十七日午後九時草木項子附近ニ於テ首長山ヲ頭目トスル匪賊約四十名ト遭遇交戦數十分ニテ匪賊八同地東北密林内遁走セリ依テ之ヲ追撃セルモ影ヲ失ヒ八月一日午後四時歸還セリ</p>		
<p>摘 要</p>	<p>死傷 一、一 一、一</p> <p>賊情ニ關シ得 トコロナシ</p>		
<p>右</p>	<p>八月十三日午後十時連長以下五十名小灣溝及黒増子一帯ヲ掃蕩翌十四日大灣溝及開拔溝方面ヲ掃蕩シツ一十五日午後五時歸隊ス</p>		
<p>同</p>	<p>八月十七日午前八時特務曹長以下三十一名王八脖子一帯ヲ掃蕩シ午後六時歸還ス</p>		

日四十月八百 日七十月八百	日七月八	日六月八	日三十二	日八月八百 日七十月八百
近附子峯長	川平大	別芦胡	近附子房廂	
連銃關機			連六第	
八月十四日午前六時連長以下三十八名守備地出發 煙筒為子一灰幕洞長峯子附近ヲ掃蕩シテ 七日午後四時歸隊ス	八月七日排長以下十五名午前五時守備地出發大 平川附近ヲ掃蕩同日午後五時歸隊ス	八月六日排長以下十六名守備地出發胡芦別 奧地國境線附近ヲ掃蕩午後五時歸隊ス	八月三日排長以下二十一名守備地出發廂房 子附近ヲ掃蕩翌二十四日午後五時歸隊ス	八月八日午前二時連長以下五十名守備地出發 九日午前十時頃廂房子奧地ヲ掃蕩中共匪約 七十名下遭遇交戦約二時間ニテ同地北方密林 地帯ニ擊退ヲ續キ十日ヨリ十五日迄六道溝 及小六道溝奧地ヲ掃蕩シ十五日午後四時歸隊ス
右	右	右	賊ニ關シ得ルト コトナシ	死傷 長銃 三一
同	同	同		

日 七 月 八	日 六 月 八	日 三 月 八	月 日	満 警、 部
近 附 子 阻 樹 萃	近 附 子 阻 樹 萃	近 附 東 河	地 方 行 動	
署 察 警 子 勝 八 王			部 隊 行 動	
八月七日午後七時頃萃樹阻子附近ニ系統不明ノ武 装共匪七名現出セリトノ報ニ接シ警士以下二十名ヲ 現場ニ急行セシメタルニ三名ノ匪賊ニ遭遇之下交 戦之ヲ撃退セリ			行 動 概 要	
八月六日萃樹阻子附近ニ武装共匪十名現出セリ トノ報ニ接シ警長以下十八名現場ニ急行掃索セ ルモ賊影ヲ認めス歸隊ス			八月三日午後六時河東附近ニ武装共匪二十余名 現出ノ報ニ接シ署長以下四名現場ニ急行掃 蕩追撃セルモ既ニ逃走セルモノ如ク歸還セリ	摘 要
			匪賊既ニ逃去 セルモノ如シ	

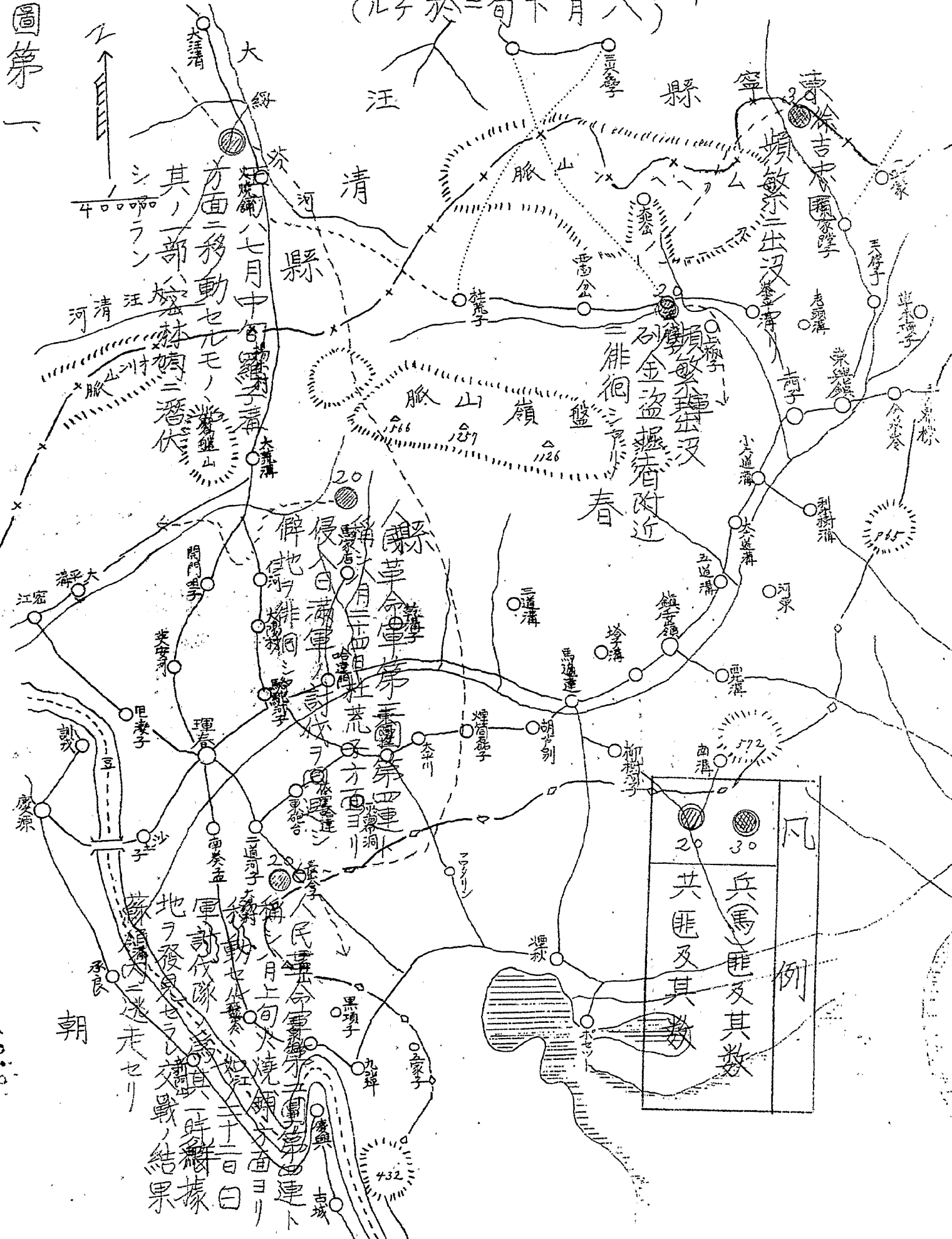
<p>日八月八</p>	<p>日九十月八</p>	<p>日七月八</p>
<p>近附溝六張</p>	<p>近附子城小</p>	<p>近附洞幕灰</p>
<p>署寮警村陽大</p>	<p>署寮警(川)平大</p>	
<p>八月八日午後五時頃張六溝附近ニ共匪八名現出セリトノ報告ニ接シ警長以下十一名内自衛隊員五名(現場ニ急行捜索セルモ賊ハ既ニ逃走後ニテ影ヲ認メス歸還セリ)</p>	<p>八月十九日午前〇時小城子附近ニ武装共匪十名現出セリトノ報ニ接シ逃官以下十二名現場ニ急行捜索セルモ賊ハ逃走セルモノ如ク賊影ヲ認メス歸還セリ</p>	
<p>右 同</p>	<p>右 同</p>	

匪賊八統ニ逃走セルモノ如シ

日三十月八	日二十月八	日九月八	日十月八
近附溝石盤	近附溝六張	近附洞本農	近附溝石盤
署 寮 警 村 陽 大			
<p>八月十三日午後七時武装共匪十名現出セリトノ報ニ接シ署長以下六名現場ニ急行掃索セルモ賊影ヲ認メス午後七時半歸還ス</p>	<p>八月十二日午後二時張六溝甲ニ武装共匪十九名現出セリトノ報ニ接シ署長以下八名現場ニ急行掃索セルモ賊影ヲ認メス歸還セリ</p>	<p>八月九日午後十二時頃農本洞附近ニ武装共匪十名現出セリトノ報シ署長以下八名同地ニ急行掃索セルモ賊ハ逃走セルモノ、如ク十日早朝歸還セリ</p>	<p>八月十日午後十二時頃盤石溝附近ニ匪賊五名出現セリトノ報ニ接シ署長以下十二名(自衛團員四名)現場ニ急行掃索セルモ賊影ヲ認メス十日早朝歸還セリ該匪ハ黄色ノ軍衣袴ヲ着用セリト</p>
右	右	右	右
同	同	同	同

圖要布分賊匪地方春理

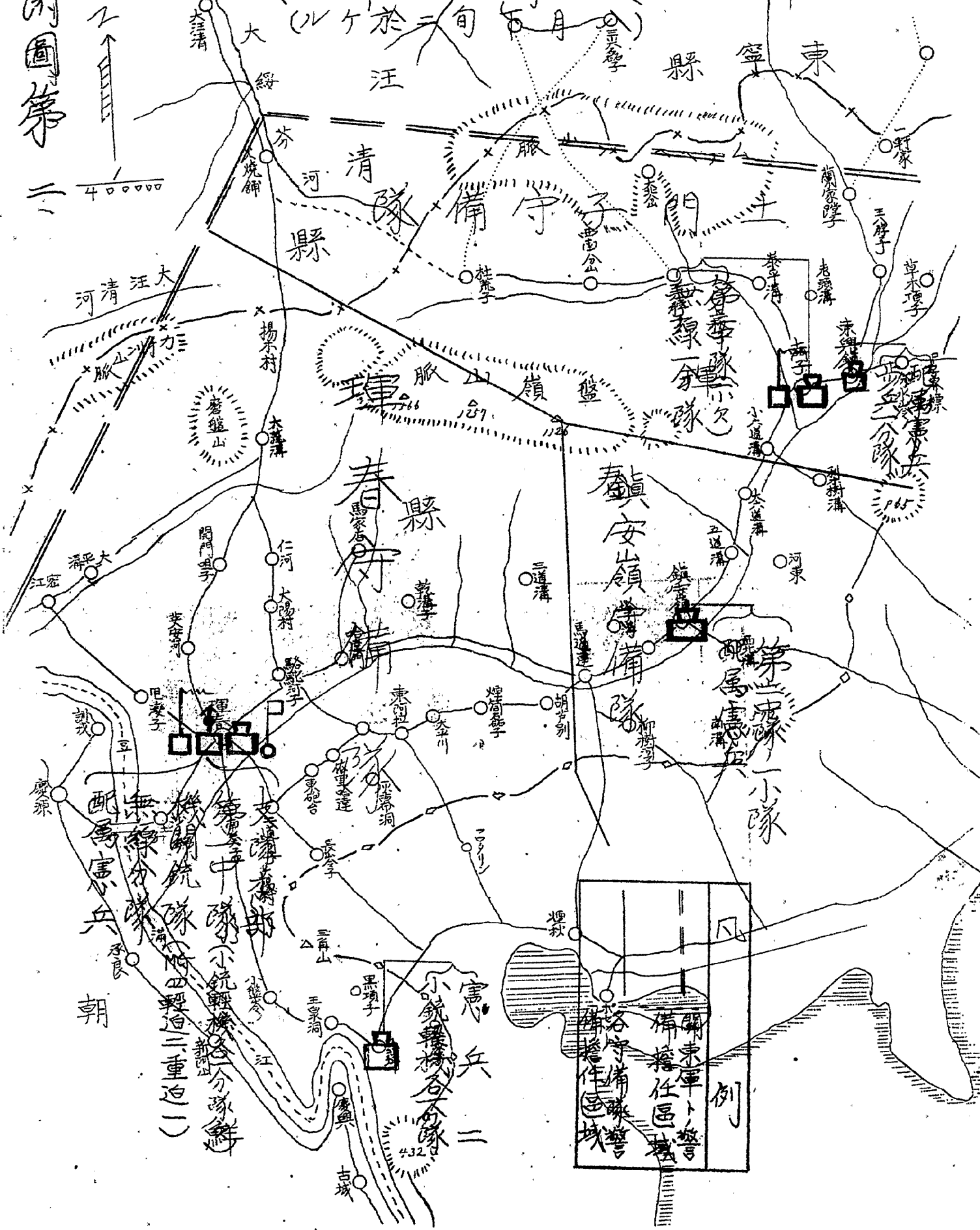
(ルチ於=旬下月八)



1013

理春支隊配備要圖

附圖第二

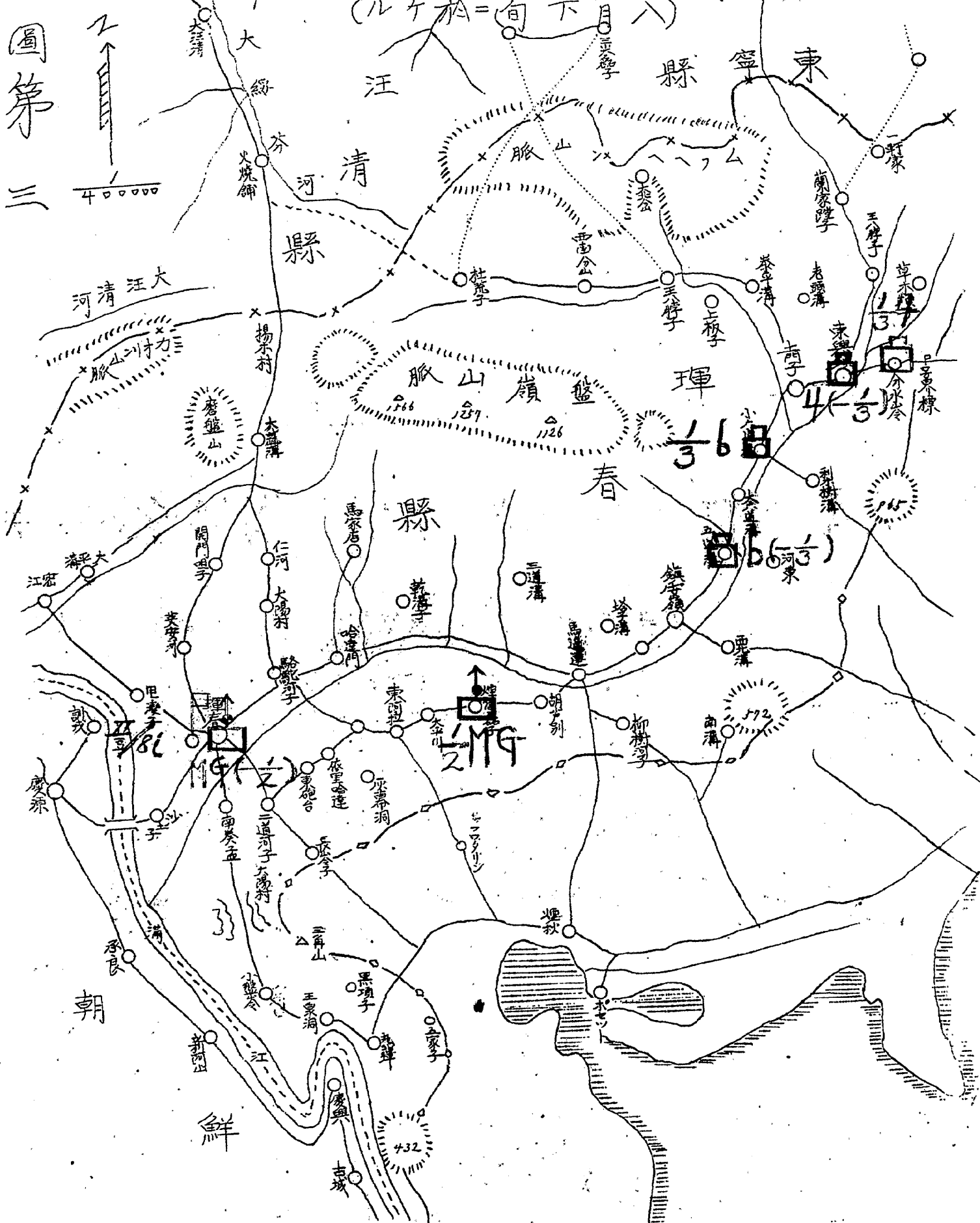


1019

附圖第三

圖要備配力兵(次連五)營二第圖八第天

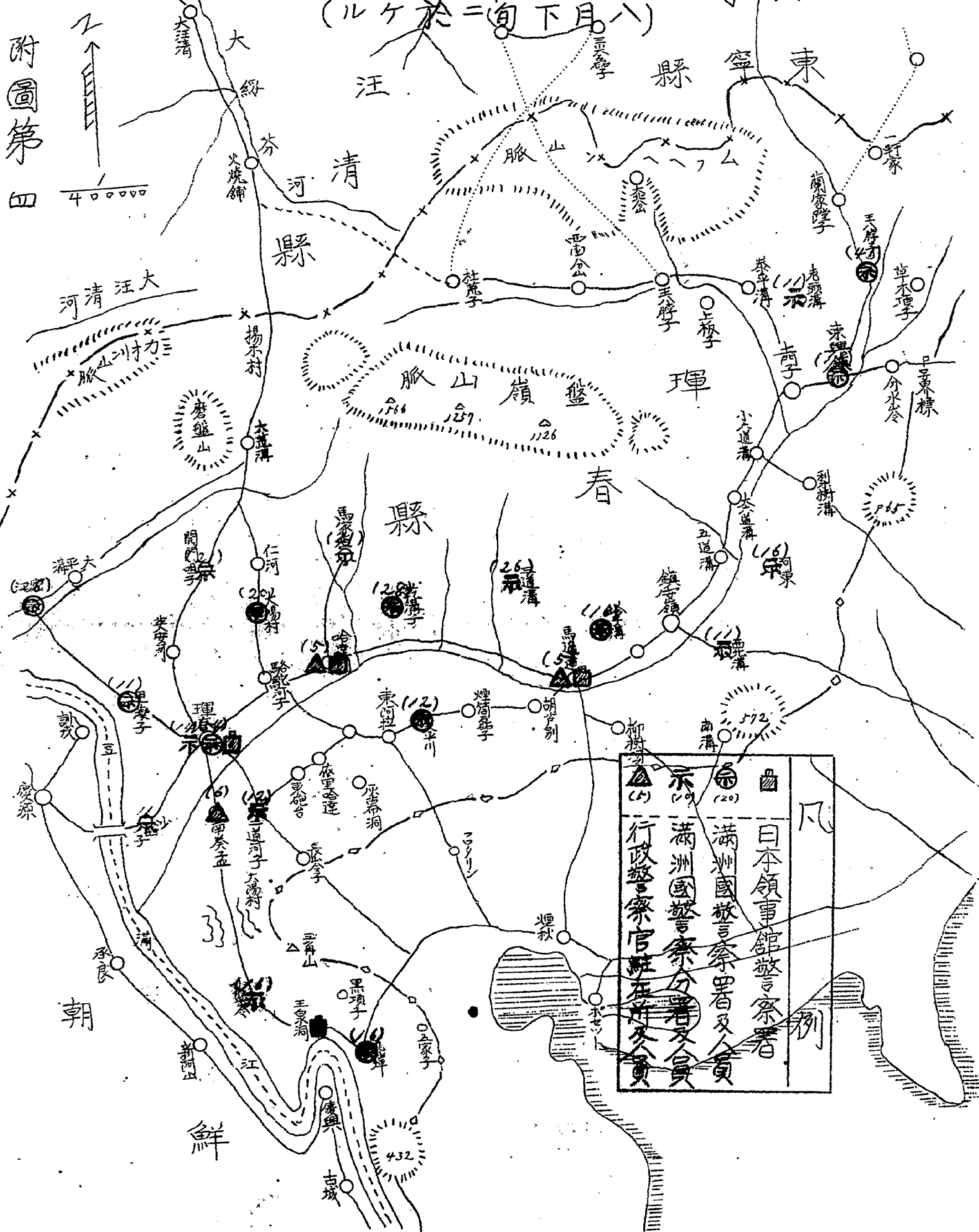
(ルヶ村=向 下 月 學)



1020

圖要備配察警國洲滿及察警館事領
(ルケ於二旬下月八)

附圖第四

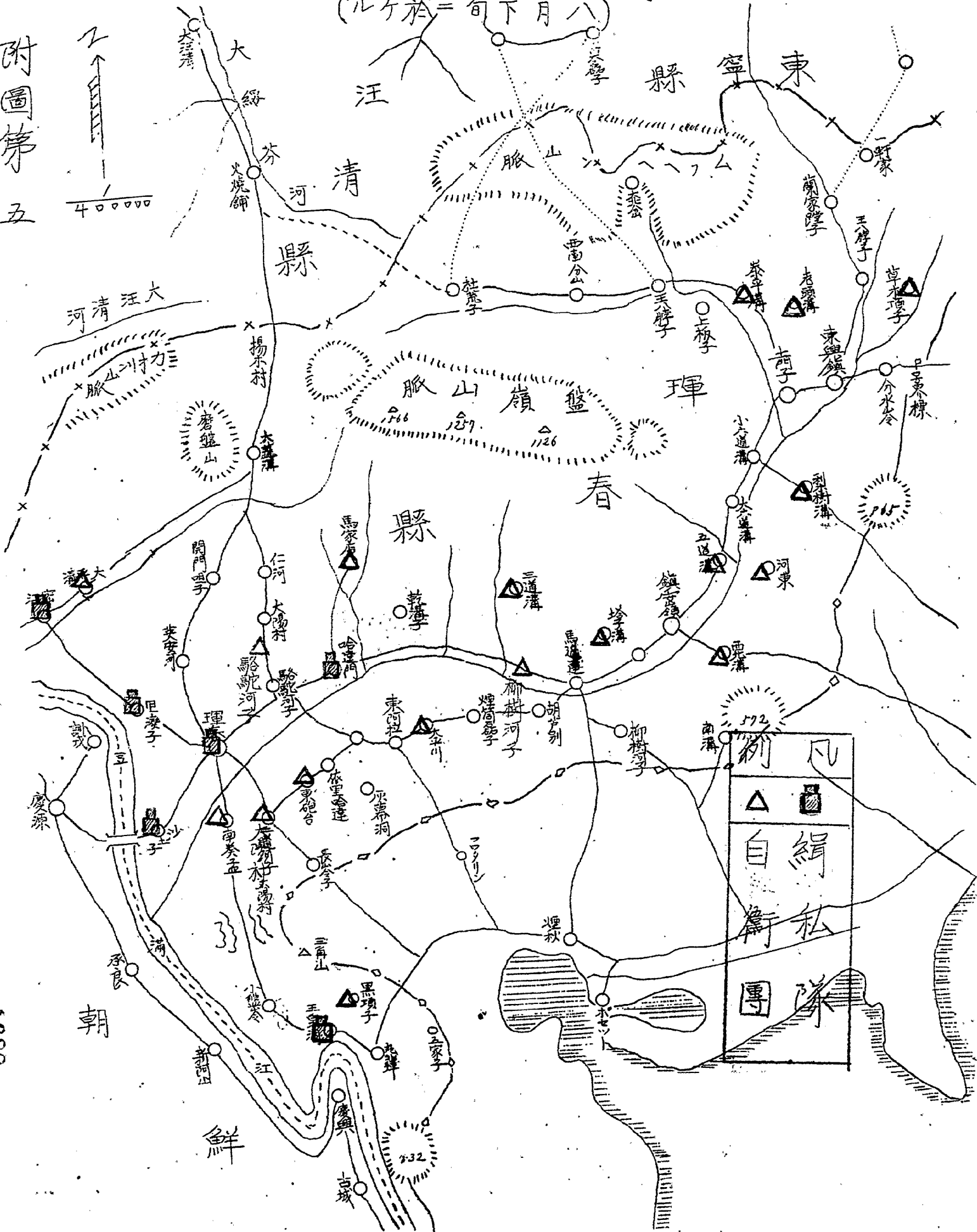


1021

白衛團私緝隊配備要圖

(八月下旬に於ける)

附圖第五



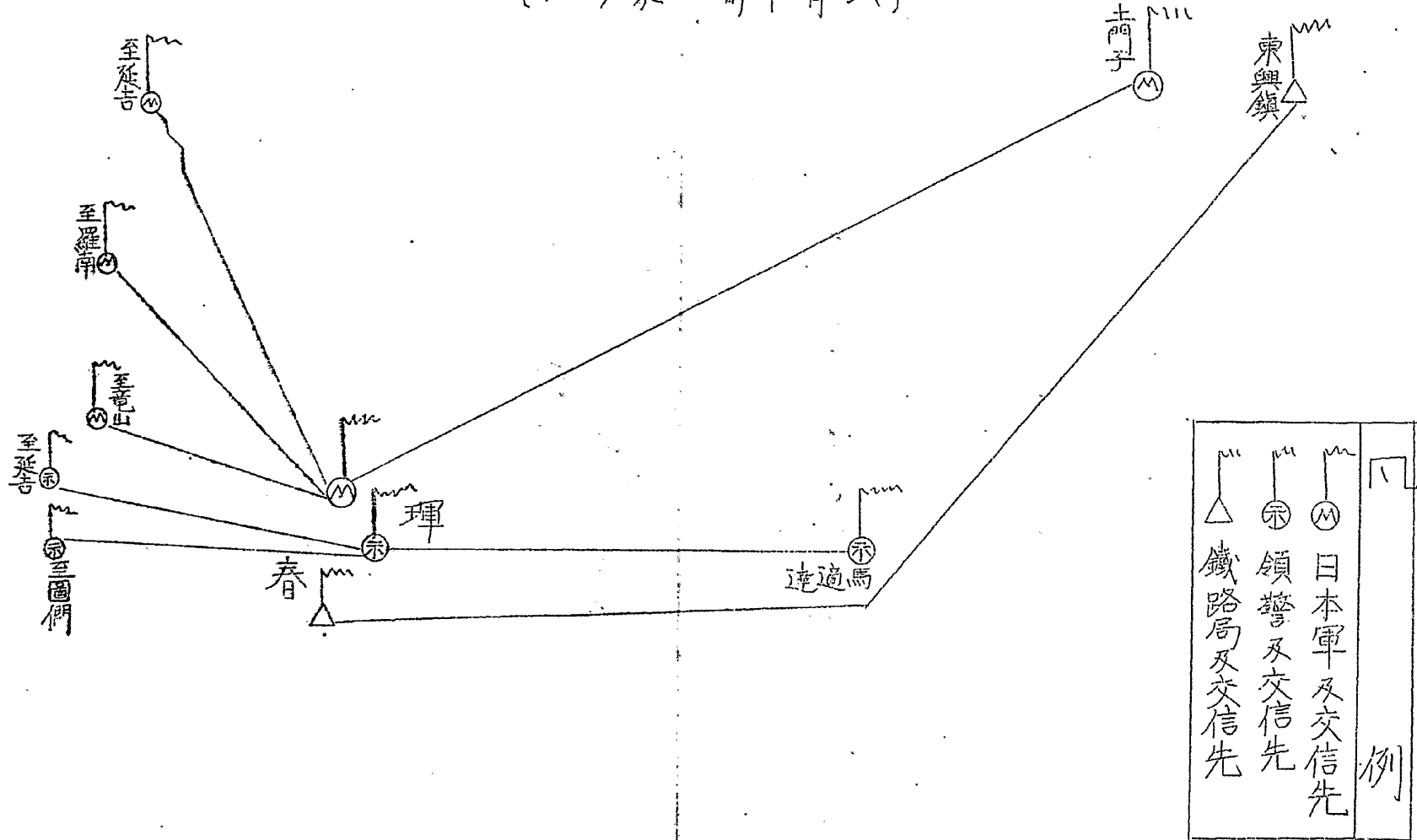
凡
 △
 自緝私衛團
 隊

1022

管内無線電信網要圖

(八月下旬於此)

附圖第七



1025

秘

步兵第七十三聯隊國境守備隊月報
自八月一日起至八月三十一日

陸軍省

第一編 附 表
成 裝 備 一 覽 表

附 圖

第一 汶 山 地 區 警 備 行 軍 實 施 要 圖
第 二 對 岸 馬 匪 賊 狀 况 要 圖

第一章 警備の概況

第一節 鮮内警備

警備管区内ハ一般ニ平穩ニシテ特記スヘキ事項
 ナキモ常ニ國境ニ沿フ地區ニ於テ演習行軍等ヲ實
 施スル外警備機關ト密接ニ連繫シ情報ノ交換尅
 集ニ努メツツアリ
 演習行軍實施要圖附圖第一ノ如シ

第二節 對岸警備

和龍縣内ノ岩安ハ警備機關ノ嚴重ナル警戒ニ依
 リ概ネ冰凍ヲ係テリ然レ共阿片ノ採取及農家ノ
 秋期取入レ前ニテ糧食ノ欠乏シアル共匪ニ於テ
 集團部落及對岸部落ニ對シ襲撃ヲ畫策シアルモ

如シ尚ホ三道溝奥地ニアル新山、東山好ノ首頭ニ於
 テハ都市襲撃ヲ行フ準備トシテ教人ヨルナル搜
 索隊ヲ發遣シアルモノ、如シ
 安圖縣
 安圖縣ニ蟠居セル匪首ハ前月以來其ノ教ヲ増加
 シアルモノ、如クニテ八月ニ旬ニ於テ縣城襲撃
 ラ教回敢行シアリシニ警備機關ノ嚴重ナル警戒
 ニ依リテ其ノ功無ク遂ニ断念シ對岸ニ在ル集團
 部落及資産家ノ金品糧食ヲ強奪シ或ハ鮮肉ヨリ
 安圖縣ニ往復スル商人等ヲ強迫シ其ノ日其ノ月
 ノ往來ヲ續ケアル狀況ニテ教名ヨリナル府候ノ
 如キモノヲ對岸方面ニ發遣シ長對岸及農事洞
 附近ノ狀況ヲ搜索シツツアリト
 尚八月二十日ヨリ三日間安圖警察隊ハ同地駐屯軍ト

協議シ韓太極並永呼溝附近ノ討伐ヲ敢行セリ

第二章對岸ニ於ケル政情並岩安ノ概況

第一節 和龍縣

滿洲國側ニ於テハ露滿國境警備隊員ヲ募集セシ
處之ニ應募セルモノ五十七名ニ及ヒタルヲ以テ
八月二十四日植野顧問來南シ試験ノ結果左記ニ
十名ヲ採用セルカ合格者八月廿日南坪ヲ出發ス
山經由テ延吉ニ向フタリ

左記

- 和龍縣明新社三道溝 鮮人 柳景魯
- 和龍縣德化社南坪 鮮人 金東極
- 同 鮮人 金昌振
- 同 鮮人 張雲波

和龍縣 崇善社 竹林村	龍岩洞	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	和龍縣 德化社 南坪
			柳洞		吉地					南坪	柳洞	

鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人	鮮人
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

朴京彬	劉龍澤	方齋善	朴商龍	石熙也	洪清淑	金昌一	姜孟山	申孟燮	金京三	崔鶴淳	李白鉉	崔河奎	崔赤松
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

第二節 安圖縣

和龍縣崇善社 玉石洞	和龍縣勇化社 下廣浦	同	同	同	和龍縣德化社 柳洞	同	同	和龍縣勇化社 大洞	同	和龍縣明新社 三道溝	和龍縣德化社 柳洞
鮮人	鮮人				鮮人			鮮人		鮮人	鮮人
李峰龍	金溶和				朴基浩			李東一		朴承烈	李鍾華
					劉英協			許鎮岩		金東明	崔昌龍
					崔東隆						

一、安圖縣制ノ改革、從來安圖縣公署内ニハ總務科、外ニ内務、財政、行政、緊縮ノ警務ノ四局ヲ置キ施政シアリタルカ、縣財政緊縮ノ為メ、今因總務、財政、行政、三局ヲ内務局ニ合併シ、同下安圖縣制ハ内務、警務ノ兩局ノミトナレリ。

二、安圖縣緝私學驗局並分卡ノ廢止、同縣緝私學驗局長陳昌ハ大同二年九月同局長ニ赴任以來不正行為ヲ繼續シ居リタル事實アリタル為、營口塩務署ヨリ八月一日附ヲ以テ同局廢止及解免命令アリ之カ、為同局管内紅旗河、東京常坪、分卡モ八月二十五日附ヲ以テ全部廢止職員全員解職セシメタリ。

三、間島省ニ於テハ、康德二年、年度生製阿片收費ヲ自七月二十日至七月三十日ニ於テ收費官署又ハ收費

入ニ依リ收賣ラナシ補償價格ヲ定メ之カ實施
 ノタメ間島專賣分署佈告ヲ管内全般ニ發セリ
 四 滿洲國ニ於テハ昭和十年度農耕資金ヲ各縣ニ
 配當セルカ和龍縣ニ對スル配當ハ三万圓ニシ
 テ既ニ各窮民ニ貸付タルカ本資金ハ本年未迄
 ニ還償スルコトナリアリ
 五 滿洲國ニ於テハ木材伐業カ通匪ノ疑アル理由ヲ
 以テ木材ノ伐採地域ヲ制限セルカ安圖縣老營
 以南ニ伐採地域トナリタルヲ以テ從業者ハ多
 大ニ影響ヲ蒙リ目下當局ニ陳情運動中ナリ
 六 安圖縣匪東村(紅旗河)ニ於テハ保甲連座法ニ依
 ル自衛團ヲ組織シ治安維持ノ確保ヲ期スル為
 第三區警察署代理署長巡官金成永指導ノ下ニ
 七月二十三日村會議ヲ開催左ノ決議ヲ遂ケハ

五

月五日自衛團入團式ヲ行ヒ目下團員ヲ訓練中
ナリ

第三章 討伐ノ概況

第一節 和龍縣

六月三十日午前二時頃行動不審鮮人一名ハ松塩
密輸入者ヲ装ヒ勇化社新興洞(下廣浦西南方ニ黒居住
鮮人金學世方ニ現レ休息方ヲ乞ヒ部屋ニ入ルマ
所持セル小型拳銃ヲ示シテ共産黨員ナル旨ヲ
告ケ食事ヲ強要喫食シタル後日本帝國官憲ニ服
従スルモノハ塵殺スヘシト言殘シタル上今日午
前四時頃何レニカ立去タル旨急報ニ接シ高峯歳
子分駐所警長以下六名ハ今日午前六時急遽出勤
シ現場及附近一帯ヲ搜索シタルモ賊影ヲ認めス
今日午後六時駐所ニ引揚ケタリト

第二節 安圖縣

前月ニ於テハ救回ノ討伐ヲ實施セシメ農繁期ニ依リ比較的散シアリテ八月下旬ヨリ漸次韓太保永守溝林陸潔淨溝子胡芦擊子集結シ各種ニ出沒糧ヲ奪取シ其ノ一部ハ大沙河ヲ占領シ之レヲ燒却シタルヲ以テ縣城警察隊及駐屯軍協同シニ十日韓大堡永守溝ヲ討伐シ漸次東南方面ニ討伐ヲ續行セシカ二十一日午前零時突如數百ノ敵ト遭遇シ二十四日夕刻迄戰鬥ヲ續ケタリシモ敵ハ増々兵力ヲ増加シスルニ至リ警察隊及駐屯軍ニ於テハ縣城ニ打電シ彈藥ヲ補充並自衛用等ノ援助ヲ得ニ十五日朝ニ至リ匪賊ハ西方車廠子方面擊退セシメタリ之ノ戰鬥ニ於テ警察隊ヨリ戦死ニ名重傷ニラ出シタリ

第四章 對岸ニ於ケル馬匪賊ノ概況

第一節 和龍縣

七月下旬和龍縣勇化社東京台居住在金春吉(三四)等
 砂防川項居住林彦奎(二七)及金尙鎔(三五)三名ハ革
 命軍四ハ為拉致セラレ安圖縣車廠子西方森林中
 ハ獨立家屋ニ監禁中ナリシカハ八月十一日金春吉
 外六名ハ監視者ノ隙ニ乘シ之ヲ歐打昏倒セシメ
 拳銃一挺其ノ他ヲ奪取ノ上脱走歸來セルカ脱走
 者ハ狀況左ノ通りトス
 一 脱走當時ノ狀況
 監禁小屋ハ革命軍根據地ヨリ約一里半離レタ
 ル獨立小屋ニシテ同所ニハ鮮滿人合セラテ十六
 名被監禁中ナリシカ其ノ間常同志等ハ脱走ヲ
 企圖セルモ好機ヲ得ス目的ヲ達スル能ハカリ

二、歸來経路

キ處偶八月十一日午前八時監視入五名中三名ハ食糧受領、為革命軍本部ニ赴キ令所ニハ男匪一名(拳銃一挺所持)ト女黨員一名監視シ居レルモ奇貨トシ被拉致者李贊ノ發察ニ基キ男共匪ヲ誘ヒ金春吉ト圍基ヲ勸メ對局中油断ノ機ヲ窮ヒ豫メ申令セタル李贊ノ台圖ニ從ヒ一齊ニ飛掛リ歐打昏倒入事不省ニ陥ラシメ所持セル拳銃一、彈藥三、背囊一ヲ奪取ノ上現場ヨリ脱走セリ

八月十一日午前十一時頃金春吉ハ雀東喜李贊兩名ト共ニ(他ノ者ハ任意行動)水源ヲ求メテ遡リ翌十二日午後五時頃安圖縣城娘々庫ニ辿リ着キ当地朝鮮人民會ニ出頭事件顛末ヲ告ケルト共ニ奪取

品全部ヲ預ケ公會ノ救護ニ依リ静養ノ上同地
満軍ノ露品運搬ヲ為明月溝ニ赴ク警備隊ニ隨
行明月溝ヲ經テ八月二十二日歸宅セリ
三其ノ他ノ状況

目下全地ニハ當管區勇化社防川項居住朴彦奎
全周鎔兩名ノ外七名(内満人一各)監禁サレアル筈ニ
テ之等ハ當時脱走ヲ勸メタルモ長期粗食ト運
動不足ノ為極度ニ衰弱シ歩行不能トナリタル
為脱走ヲ断念シ痰ヲ含シテ殘留セシ趣ナルカ
同所ハ革命軍根據地ヨリ一里半位ノ距離ヲ置
カレアル為渠頭ノ動静ハ皆不明ナリト

八月三十日勇化社防川項牌長李秉奎ノ満警成朴洞
分駐所ニ報告シタル處ニ依レハ延吉縣守信御莫
直四入班居住鮮人南龍學(當三十五)ハ昨二十九日午後

三時頃居住地ヨリ前記防川項ニ來ル途中勇化社
 梨樹洞峯(滿警小六道溝分駐所ヨリ西方三里)ニ差懸リタル際
 突然密林中ヨリ各人拳銃携帶ノ共匪三名(一名ハ三十
 年位外二名ハ二十一年位ニシテ茶褐色鮮服上下ニ同色ノ卷脚絆ヲ着用シ
 尚ホ上衣袖ニ一線ノ赤色袖章ヲ附シ地下足袋ヲ穿テ何レモ帽子ヲ冠リ
 居エ)出現シ同人ノ身体檢査ヲ為シ所持金拾圓ヲ
 強奪シタルニ附近ノ密林ニ姿ヲ悔シタリト

第二節 安圖縣

一般ノ狀況ニ就テ
 縣内蟠踞ノ主ナル馬兵匪ハ三江好約ニ五〇名
 林約ニ〇〇名金一竟約一五〇名田禧山約一五〇名海
 龍軍約一〇〇名吳義成一派約三〇〇名ニシテ何レモ
 目下糧食欠乏ト阿片採取等モ困難ナル為一部ハ

糧食補充ノタメ樺甸撫松方面ニ移動ヲ開始シタ
ルカ之カ取來ラ待子縣城襲撃ヲ企圖シアリ
尚ホ武装共匪ハ東北抗日救國軍第一師第二團ニ
屬スルカ目下同シク糧食調達阿片掠奪ノタメ馬
兵匪ト提携各地ニ分散出沒シツツアリ
一直對岸五〇江水裁作業ヨリ栢仲明孫長祥一派
ノ為拉致サレタル人夫解入趙英文當二十四年ハ
安圖縣露水河附近ニ抑留サレ居タルカ監視賊
ノ隙ヨリ窮ニ八月十二日夜脱走シ仍頭山經由ニ十
二日取來セルカ目撃セル賊情左ノ如シ當時露
水河方面ニ在リタル匪賊ハ栢仲明孫長祥一派
四十四名及柴世榮ノ指揮スル共匪百五十名蟠居
シ半數ハ解入ニシテ露人七名(一名八年五十名位五名
ハ三十名位ナリト)混入シアリタリト

本一派ハ輕機ニ挺ヲ有シ各自長銃拳銃ヲ携行
 服装ハ茶褐色ノ服及帽子ニシテ尚ホ帽子ニハ
 赤線ヲ布シアリ精銳ナル部隊ニシテ其ノ統制
 振モ極メテ解力ナリト

匪賊出没被害統計表 (八月中)

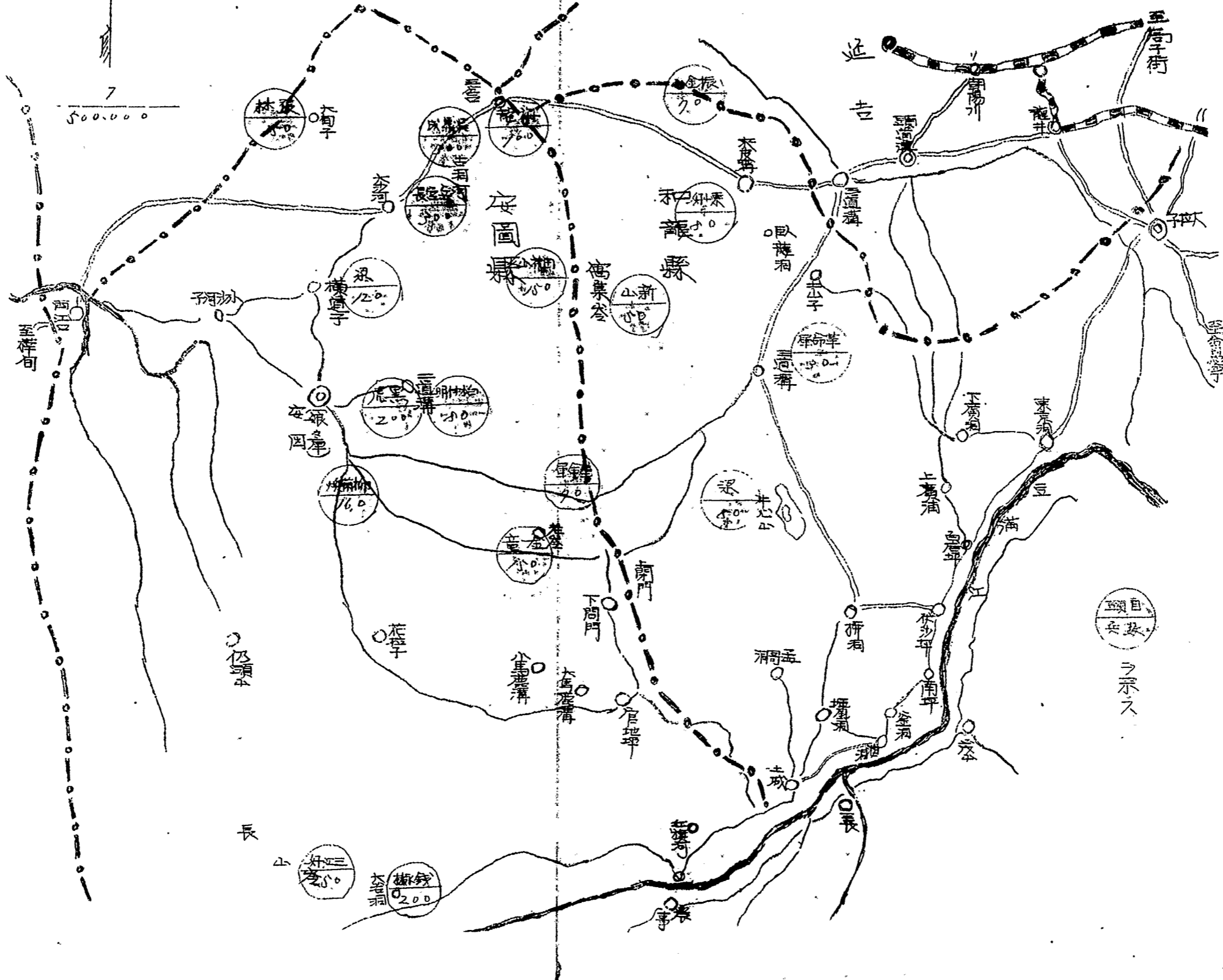
備考	計	縣別		摘要
		和龍縣	安岡縣	
中表ハ此方面ヨリ入ルタル確報ノモノノミヲ計上シタルモノナリ	一三	三	一〇	現金 五十六兩 迫撃砲一、輕機一、 食塩 麥粉衣類、數等 現金 六十六兩 迫撃砲一、輕機一、其ノ他 食塩 麥粉衣類、數等
	八〇八	二七	七七八	

歩兵第七十三聯隊國境守備隊編成一覽表

昭和十年九月一日調

備考	合計	小三 隊長	中 隊	本 部	齊 備 區 分		職 員	摘 要
					備 號	分		
一、() ヲ附シアルハ 無線電信所勤務者ヲ示ス 二、軍医入隊分院ニ兼勤服務シアリ	1			1	佐少		編 成 人 員	
	2		1	1	尉六			
	3	1	1		尉少			
	4		3		曹特			
	5 (1)	1	1	1 (1)	長曹			
	10	2	6	2	曹四單			
	21 (1)	7	14 (1)		尉上			
	150 (1)	39	111 (1)		尉一			
	192 (3)	50	139 (2)	5 (1)	計			
	2	1		1	手計			
	1			1	區軍			
	2	1		1	隊福			
	5	2	3		隊看			
	1			1	長執			
	1			1	長總			
	204 (3)	54	140 (2)	10 (1)	計總			
	1			1	馬乘	馬 匹		
	1			1	計			
4	1	3		機重	裝 備			
4	1	3		機輕				
1		1		砲野				
1		1		砲野				
4	1	3		砲野				
		小隊長 陸軍少尉森田一壽	中隊長 陸軍少尉濱田一壽	支隊長 陸軍少佐松澤正雄	職 員			
				支隊長 陸軍少佐阿部信義 支隊二隊長	摘 要			

對岸情報要圖



秘

歩七四國守(舊)第〇五號

歩兵第七四聯隊國境守備隊月報
自八月一日起至八月三十一日

目次

第一 警備(討伐)ノ概況

鮮内警備

對岸警備

第二 對岸ニ於ケル政情及治安ノ概況

一 治安概況

二 政情一般

三 宣傳政治工作ニ關スル事項

四 馬匪賊及鮮匪賊團ノ狀況

五 日軍ノ狀況

六 満軍警察隊自衛團ノ配置移動及教育訓練

ニ關スル事項

第三 交通々信補給衛生其他ニ關スル事項

附 表

第一警備(討伐)ノ概況

鮮内警備

月間惠山鎮守備隊ハ尤記ノ如ク行軍ヲ實施シ
シ名道住民ノ信賴ヲ深メ警備ノ目的ヲ達成セリ

尤記

惠山鎮——中里——五是川——下長城里——
雲龍——馬上峯——歸還

對岸警備

對岸長白縣内ニ蠢動セル馬匪賊ハ日ヲ逐フ
テ其活動活潑トナリ殊ニ阿片採乳期ニ入ル
マ烟ニ其勢強大トナリ縣内到處ニ迄シ
掠奪暴行其猛威ヲ擅ニシ其ノ被害モ亦増大
ス之レヲ加フルニ縣當局ノ警察力ハ薄弱ニ

シテ其威令行ハレス縣内ノ治安ハ全ク乱ルニ至レリ此處ニ於テ當守備隊ハ本來ノ任務達成ノ目的ヲ以テ竹川大尉五十九名ヲ以テ警備行軍ヲ實施シ老道住民ヲシテ皇軍ノ威武ニ接セシメ信頼ヲ深メ治安ノ維持ニ勉メ其目的ヲ達成セリ

行軍経路別紙要圖附圖第一ノ如シ

一 治安概況

對岸長白縣治安情勢ハ八月ニ入り更ニ紊乱シ匪賊行動執拗且暴虐ヲ極メ縣警備力ノミヲ以テ警備ノ萬全ヲ期シ難キ状態トナリ危険縣内ニ迫ラントセリ依テ當國境守備隊長ハ大尉ノ指揮スル五十九名ヲ示威警備ノ目

的ヲ以テ對岸ニ越境セシメ滿洲國警察隊ヲ
 援助シ遂ニ八月五日十四道溝暖泉子ニ於テ
 警察隊ハ馬興ニ雲中飛占ム好ノ合流部隊約
 ニ百名ト會戰大捷ヲ博シタリ
 本戰鬪ニヨリ治安ハ一時小康ヲ見タルモ阿
 片採乳期ニ適面シテ再々蟻集各地ニ令殺シ
 其被害甚大ニシテ住民又匪禍ヲ慄シテ通匪
 スル傾向アリ偷安ヲ許サ、ル現況ニアリ
 ニ政情一般
 長白縣警務局長ハ被免
 滿洲國健國初代ノ長白縣警務局長庚仁ハ安
 東省警務所長ノ電報命令ニ依リ職ヲ免セラ
 レ新任警務局長ノ着任迄主席警務指導官安
 味國之助代理ヲ命セラル

長白縣當局ニ於テハ縣内治安ノ確立ヲ期ス
 ル為日本軍ノ援助方懇請シ茲旨第十九師團
 長宛陳情スヘク計畫中ノ處七月三日迄記ノ
 如キ惠ム鎮國境守備隊ノ一部ヲ長白府ニ越
 境永駐セシメラレ度歎願書ヲ當守備隊長宛
 提言セリ

厄記

歎願書

當長白縣ハ從來匪賊ニ依ル被害少ク省内ニ
 於テモ治安ノ維持良好ナル縣トシテ自他共
 ニ認メラレタル處ナルカ當縣カ阿片指定耕
 作地タルト廣範圍ナル面積ニ及シ警察人員
 極メテ少ク而モ之カ裝備劣等ニシテ討伐力
 乏シキト他方面ニ於ケル関東軍ノ討伐等ト

ニヨリ最近多数ノ匪賊ハ隣縣ヨリ移入シ來
 リナ彼此合流シ漸次横暴ヲ極メ各警察署及
 分駐所近ク迄來襲シ或ハ住民ヲ恠致殺害シ
 或ハ金品阿片ヲ強要スル等暴虐ヲ恣ニシ殊
 ニ最近ニ於テハ各警察署及長自市街迄モ襲
 ハント画策シテ如ク之レカ為メ人心恟々
 トシテ縣内ノ治安漸ク拾収スヘカラサル状
 態ニ向ヒツツアルモノト察セララル
 之レカ為メ當長自縣城ヲ初メ各所ノ要地ニ
 ハ最近不十分ナカラモ周圍ニ防禦施設ヲ施
 サシメ民心ノ安定ヲ圖リツ、アリト雖モ之
 トナモ大匪賊團ノ來襲ニ對シテハ到底能ク
 之レヲ支へ得ル所ニアラサルハ明ナリ
 然ルニ滿洲國軍隊及関東軍等ノ駐屯地ハ遠

長白縣ヨリ離隔シ從來之レカ援助ヲ懇願
 スルモ容レラレス殊ニ火急ノ場合ニ於ケル
 援助ノ如キハ全ク期待スルヲ得ス
 之レニ及シ貴守備隊ハ我對岸ニ近ク永駐シ
 ナ警備ノ任ニ服シアリ之カ為我長白縣下治
 安ノ維持ニモ大ナル貢獻ヲ與ヘラレワマア
 リ縣民一同大イニ感謝スル所ナルモ此急迫
 セル縣下情勢ヲ推察セラレ更ニ一步ヲ進メ
 貴守備隊ヲ我長白府ニ臨時駐屯セララル様
 御配慮ヲ仰キ度然ル時ハ我長白縣下治安
 直ケニ回復セララルモノト信ス
 茲ニ縣民ヲ代表シ歎願ス

長白縣長

翟潤田印

長白縣 縣民代表 謝願書
 昭和二十一年八月二十一日
 長白縣 縣民代表 謝願書
 昭和二十一年八月二十一日

三、宣傳政治工作ニ関スル事項

月間該當事項作ナシ

四、馬匪賊及鮮匪團ノ狀況

阿片採乳期ニ直面シ馬匪賊ノ活動ハ猛烈トナリ其ノ勢ハ加速度的ニ増大シ其被害モ亦甚大ナルモノアリ

皇軍警備行軍實施後ハ當地方ノミハ稍治安ヲ恢復シ小康ヲ得タルモ其他ノ地方ハ以然馬匪賊ノ横行甚ク其暴威ヲ擅ニシアリ其主ナルモノ附表第二ノ如シ

五、日軍狀況

對岸長白縣内ハ本年二月東興襲撃事件勃發ヲ機會トシ馬匪賊ノ空没活動ハ漸進的ニ甚クシクナリタリシカ七月ニ入り賊勢頓ニ昂

リ馬匪賊之及回数二十九回ニ對シ七月五十
 七回同延人員六百ニ對シ三七三六ノ増大
 ラホシ滿洲國側官憲ノ討伐討匪工策モ効ヲ
 致サス却ツテ悔リヲ受ケルカ如キ様ニテ縣
 當局ノ威令行ハレス威信亦地ニ墮ケ治安ハ
 全ク乱ルルニ至レリ
 當守備隊ハ之カ情勢ニ鑑ミ八月四日ヨリ同
 月七日ニ至ル間大尉ノ指揮スル五十九名(内
 憲兵三名ヲ含)ヲ以テ警備行軍ヲ實施シ大イ
 ニ皇軍ノ武威ヲ宣揚シ治安ニ貢獻セリ
 六滿軍警察署自衛團ノ配置移動及教育訓練ニ
 関スル事項
 長白臨江縣下山林警備團ノ改編
 八月二十八日安東探木公司総局ヨリ長白分

局宛示達ニ依レハ從來ノ名稱ヲ山林警察隊ト改稱シ約七百名ニ増員(從來三百三十名)長白撫松臨江各縣下ニ配備シ専ラ伐採地域ノ警備ニ任スルコトナレリ

而シテ木改編配備期日ハ不明ナルモ概ネ九月中旬頃迄ニ完了スルモノノ如ク之ニ伴フ増加人員ハ目下臨江長白撫松縣下ニ於テ募集中ナリ

山林警察隊配置箇所人員

配置箇所	人員	主タル作業地(採木公司)
撫松縣東漫江	一〇〇名	東漫江五道溝與地
臨江縣 <small>三道溝</small>	一〇〇名	三道溝與六頭房子一帶
同 <small>五道溝</small>	一〇〇名	小西溝悅來棧趙家店吳家營

警備方法

- 一、縣境附近ノ匪賊ノ通路ヲ扼シ所謂咽喉部ヲ抑ヘ作業地侵入ヲ防止ス
- 一、各駐在所ニ應急ノ防所ヲ築設シ塹壕鐵條網等ノ施設ヲナス
- 一、各防所共電話ヲ架設シ連絡ス

同	五道溝軌道沿線	五〇名	軌道沿線一帯
長白縣四頭房子	一〇〇名	四頭房子五頭房子撫松道路一帯	
同	十五道溝	一〇〇名	十五道溝與十三道溝與一帯
同	十九道溝支流	五〇名	十九道溝本支流一帯
同	二十道溝	五〇名	二十道溝與一帯
同	二十四道溝	五〇名	二十四道溝與一帯
計	七〇〇名		

一 隨時游撃隊ヲ編成シ游動討伐ス
 一 作業開始前本年秋季一斉討伐ヲナシ第一
 ノ清郷ヲ期ス
 一 各作業地ノ食糧運搬通路ヲ指定ス
 一 食糧貯藏所ハ前記ノ防所トシ一日乃至二
 日分程度ノ必要ニ應シ小定シトシテ各作
 業所ニ運搬ス
 二 長白縣城警備規程施行ス
 長白縣當局ニ於テハ縣内治安情勢頓ニ紊乱
 シ民心極度ニ悞怖シアル現況ニ鑑ミ銳意治
 安ノ確立ニ專念シ殊ニ市街地ノ防衛設備ニ
 意ヲ用ヒツツアリシカ今回長白縣城警備規
 程ヲ樹立シ康徳ニ年八月十二日ヨリ施行セ
 リ城内警戒哨配置別紙附圖第二ノ如シ

三八、十三、十四各道溝警察署移轉ス

長白縣内八十三、十四各道溝警察署ニ於テハ從來警察署所在ノ位置ハ匪賊來襲ニ際シ策戦上不利ノ地点ニ位置シアル爲之レカ萬全ヲ期スヘク有利ナル地点ヲ選擇シ十三道溝ハ旧小學校ニ八道溝ハ旧村公所ニ十四道溝ハ前警察署跡ニ各々移轉ヲ了セリ
各署共鐵條網及望樓ヲ設置シ防備上遺憾ナキヲ期シテ了リ

其他該當事項ナシ

第三交通々信補給衛生其他ニ関スル事項衛生ヲ除ク外該當事項ナシ

衛生

月間ニ於ケル新患總數八九名ニシテ旧患總數

四名合計十三名ナリ

部内ニ於ケル痘瘡患者八月間新患發生四名

ヲ見タルハ此ノ如クテ舊患五名又治癒シ終熄

近キニ有リ

附表

歩七十四國境守備隊裝備一覽表附表第一ノ如

Faint table content, likely a list of equipment or personnel details for the 74th Border Guard Detachment. The text is mostly illegible due to fading.

歩兵第七十四聯隊國境守備隊編成裝備一覽表

昭和十年七月三十一日調

備考	合計	新設坂鎮小隊	老國境守備隊	惠山鎮中隊	老國境守備隊	本部	寺備區		編成人員	馬匹	裝備	職負表	摘要
							隊別	分					
一、本表中()ヲ附セルハ無線電信所員ヲホス 二、摘要欄中ニホス人員ハ本表人員中ニ合シテリ	1					1	少佐	1	1				
	2			1		1	大尉	1	1				
	2	1		1		1	中尉	1	1				
	2			1		1	少尉	1	1				
	3			3			持曹長	1	1				
	4	1		2		1	軍士	1	1				
	(1) 11	2		7		(1) 2	兵	1	1				
	(1) 23	7		(1) 16			上等兵	1	1				
	(2) 179	38		(2) 141			計	1	1				
	(4) 227	49		(3) 172		(1) 6		1	1				
	1					1	工長	1	1				
	1					1	計主	1	1				
	2	1				1	手計	1	1				
	1					1	醫官	1	1				
	3	1				1	看護長	1	1				
	1					1	工長	1	1				
	1					1	工長	1	1				
	4	1		3			看護兵	1	1				
	13	3		3		7	計	1	1				
	(4) 240	52		(3) 175		(1) 13	計	1	1				
1					1	馬	1	1					
1					1	馬	1	1					
4	1		3			計	1	1					
4	1		3			機	1	1					
3	1		2			機	1	1					
1					1	機	1	1					
1			1			機	1	1					
		吉田他一郎	歩兵中尉		竹川伊六	歩兵大尉	田中雅範	歩兵少佐					
派遣		派遣					田中雅範 主計八九師經理 部員兼務						

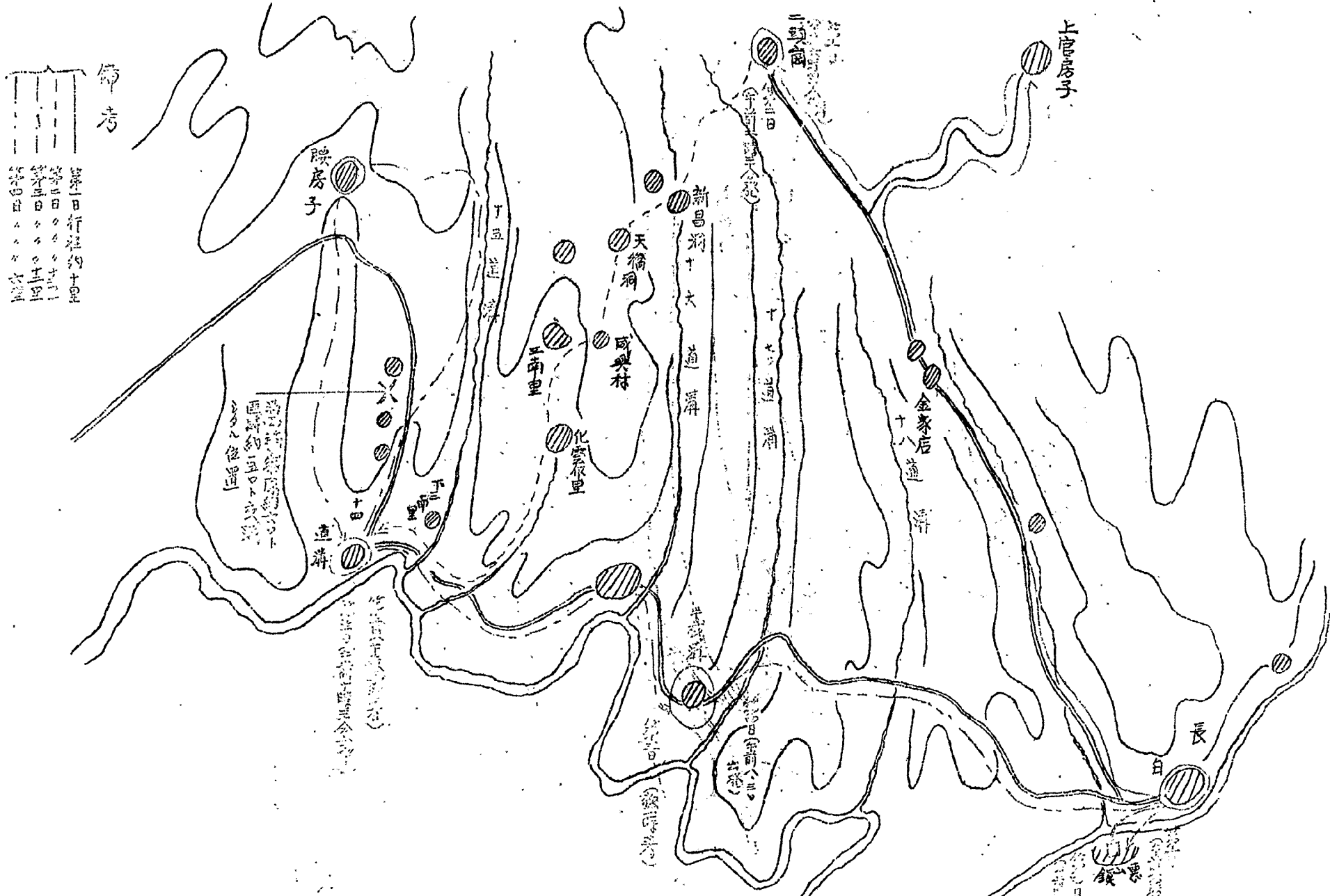
附表第二

馬匪賊令及情況調		八月中	
月日	場所	頭目及賊數	行動ノ概要
七三一	十三道溝與地 三 豊 里	系統不明 四十五名	七月三十日同地解農玄元鳩方ニ下流方面ヨリ移來シ焚火ヲナシ小惣ノ後十四道溝凉泉子方向ニ向ケ移動セリ
七、三一	八道溝兄弟洞 十二道溝 城牆磁子	老來好 一〇〇名	一味四十名ハ八道溝兄弟洞ヲ襲ヒ更ニ十二道溝水通溝ニ待機中ノ本隊六十名ト合隊シ同溝城牆磁子ヲ襲撃シ食糧品ヲ奪取與地ニ引攀ケケタリ
同 右	上道溝溝城	系統不明 七十六名	二十一日午前土時頃同地ニ現ヘレ警備電話ヲ切斷シ同地採木公司検査所ヲ襲撃シセント画策セルモ同所ニ負等ハ解内松田里ニ引揚ケ難ヲ逃レタリト

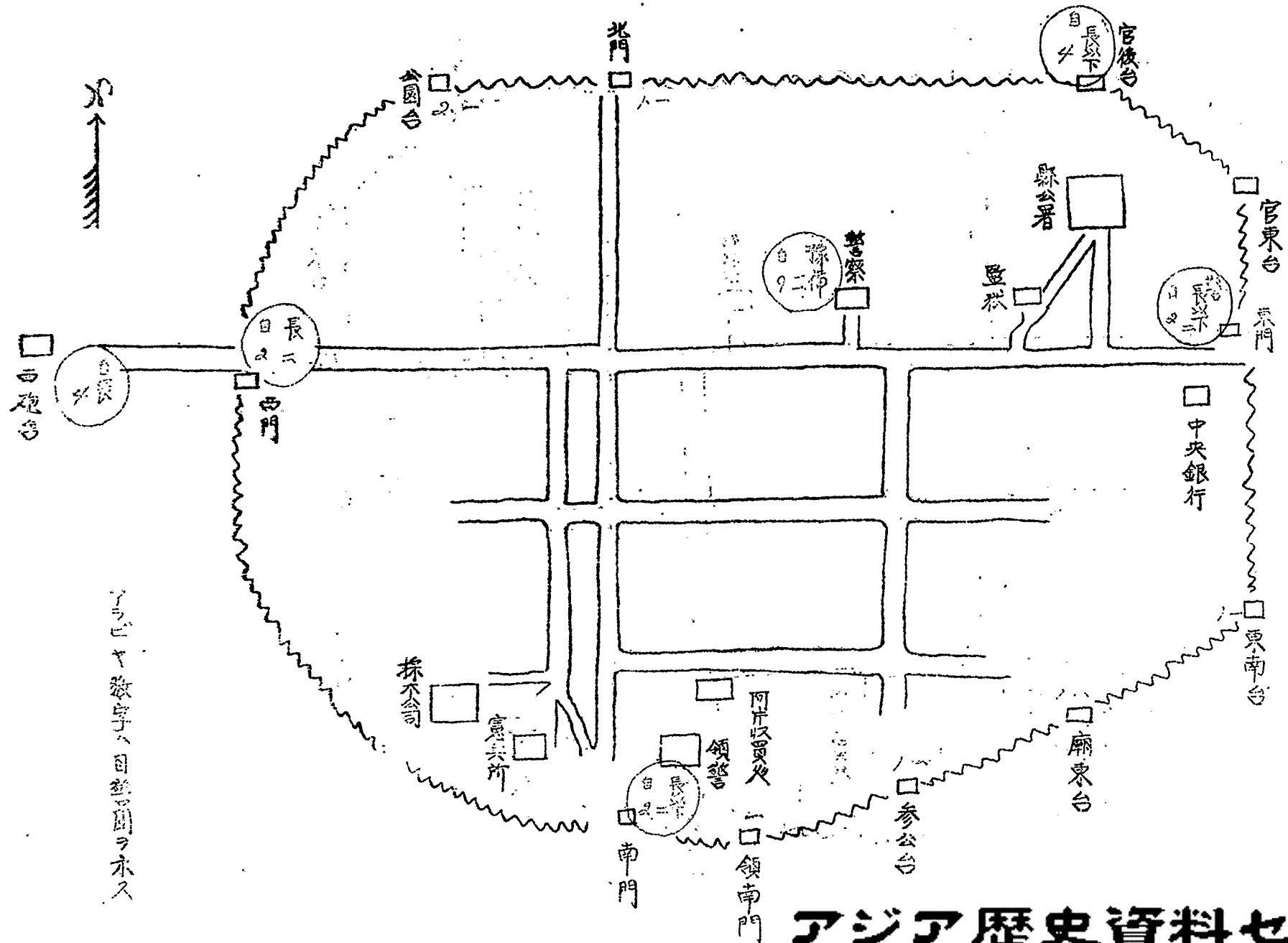
<p>七、三一</p>	<p>十二道溝 療荒地</p>	<p>雲中飛 占山好 一五〇名</p>	<p>八道溝與地方ヨリ移來シ同地清人旅人宿趙某方外ニテラ解放ノ上附近ノ滿人十數名ヲ便役シ望樓一ヲ構築セリト</p>
<p>八、二</p>	<p>十三道溝 大湖上</p>	<p>雲中飛 占山好 七〇名</p>	<p>同地採木公司下請人劉潤山作業所ヲ襲ヒ麦粉十三袋衣類等ヲ掠奪滿人王某ヲ拉致シ上高麗房子方面ニ引揚ケタリ</p>
<p>八、五</p>	<p>十四道溝 暖泉子</p>	<p>雲中飛 占山好 二〇〇名</p>	<p>長白縣警察隊春日指導官ノ指揮スル九十四名ト同地ニ於テ遭遇シ交戦戦闘ス事六時間賊側ニ多大ノ損害ヲ與ヘテ與地ニ擊退セリ</p>
<p>八、一六</p>	<p>二十道溝 第三終点</p>	<p>雲中飛 占山好 五〇名</p>	<p>縣山林警備團崔分團長以下十四名ハ同地ニ於テ該賊團ト遭遇シ交戦約三十一ニシテ之ヲ擊退セリ 該賊團ハ内地人夫宿舍ヲ目標シアリタルヲシテ退却ニ際シ放火外走セリ</p>

<p>同 石</p>	<p>八 一 六</p>
<p>水道溝 六〇名</p> <p>水道溝 六〇名</p> <p>系統不明</p>	<p>新房子 系統不明 南商、城 一五〇名</p>
<p>八月十六日朝來臨江縣七道溝方面ヨリ 同地ニ移來シ新房子市街地襲撃 ノ機勢ヲホセリ 同地警察署員三十名ハ賊情偵察ノタメ 與地ニ向ヒタル所氷湖溝ニ於テ賊十數名ト 遭遇文戦セラ撃退セリ 八道溝警察署揚巡官ノ率ユル三十 名ハ新房子急接ニ向フ途中同地附近 ニ於テ約六十名ノ賊ト衝突文戦撃 退シタルモ再襲ヲ慮リ八道溝ニ返還 セリ</p>	

警備軍部隊經路要圖



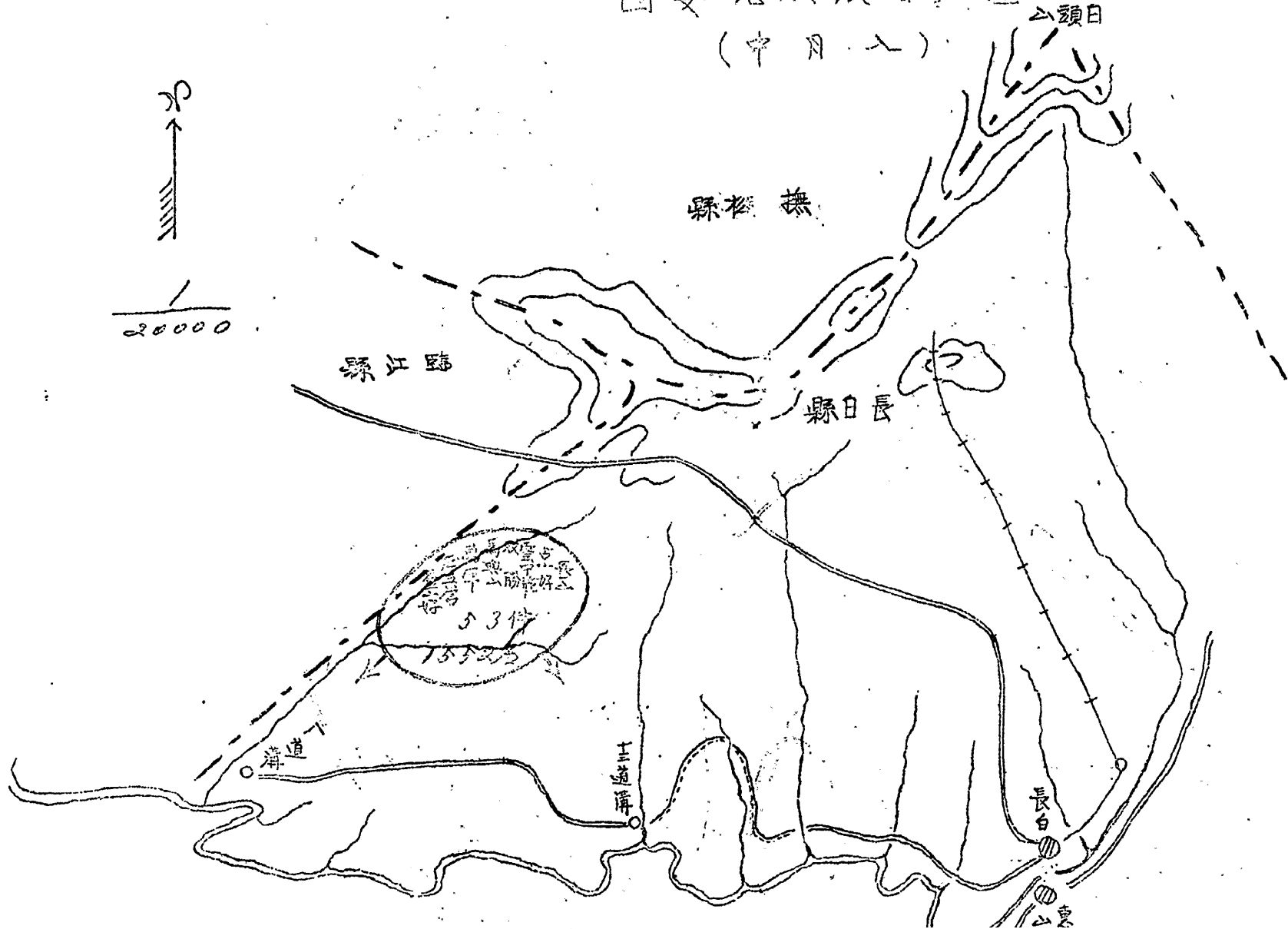
附圖第二
長白府内警備配置要圖



圖要況狀没岩賦匪

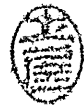
(中月入)

山頭日



1068

歩兵第七十五聯隊月報（八月）



目次

第一 警備、概要

第二 對岸治安、概況

第三 各縣匪賊、概況

第四 交通通信補給衛生

第五 常時國境警備勤務直接連絡部隊

編成

歩兵第七十五聯隊月報

第一警備ノ概況

一 警備一般

警備区域内一般ノ狀況ハ平穩ニシテ特記ス
ハキ事項ヲ認メス
直對岸附近モ比較的平穩ニシテ鮮内住民ハ
安シク其業ニ眼ニアリ

第二對岸治安ノ概況

對岸匪賊ノ跳梁依然トシテ絶トス警備機關ノ
間隙ヲ潜リ掠奪襲撃ノ致ヲ取行シ或ハ武
裝隊ヲ整備シ都市襲撃列車防害等ヲ画策スル
等アリテ尚偷安ヲ許サズモノアリ

第三各縣匪賊ノ概況

三延吉縣

一匪首新長ノ列車龍衣擊計画

七月二日午後七時三十分哈爾巴魯分遣隊ハ非常警戒中匪首新長ノ密偵ヲ逮捕セシカ其言ニ依レハ匪首新長以下三〇〇名ハ黑瞎子附近ニ蟠居中ニシテ南清冷爾巴魯部落及列車襲撃ノ企圖ヲ以テ密偵ヲ派遣シ偵察中ナリ

該部落ハ主トシテ鮮人共匪ヨリ成リ内女子五六名ヲ交ハ各有ハ銃ヲ携行シ大打拔挺子ヲ所持スルモノアリ

ニ東北抗日救國第二軍第一獨立師第一團移動東北人民革命軍(抗日救國軍)第二軍第一獨立師第一團部ハ創立以來延吉縣三道崴真地方

父山本惣太夫

平岡附近森林地帯ヲ根據地トナシ同地ニ砲
 台塹壕兵工廠監獄等ハ諸施設ヲ整備シ蟻蟻
 シアリタムカ本年四月月上旬以來ノ日本軍ノ
 討伐ト引續ク駐比トニヨリ團長林昇奎以下
 同團第五連新屬二十七名青年義勇十五名並
 群衆約五十名ハ其北方梨樹清奧地密林内ハ
 上能家地方四里ニ退避蟻蟻セシカ同地ハ谷地
 狹隘ニシテ耕作地少ク農作思フシカラサン
 為林昇奎ハ五月十五日(?)項武裝共匪二十五名
 群衆約二十五名ト共ニ同地ニ發散化察沙河
 掌延吉縣灣々清北清棒甸縣ハ養清ヲ經テ安
 圖縣後車廠溝ニ移動シ群衆ハ分散居住セシ
 ×武裝共匪ハ從來月地ニ根據中ノ第一團部
 ノ東南方約八百米ノ河畔ニ第一團部ヲ建設

二第ニ用ト行動ツ共ニシツ、アリト真相調

査中ナリ

三海龍軍頭道清ノ再襲撃ヲ止メス

海龍軍約一〇〇名十七夜頭道清ヲ再襲撃ス

ハク十七日朝根據地ヲ去リヤン旨密偵ノ急

報ニ接セリ又同地所在ノ消息モ同様ノ報アリ

リタニ就キ滿洲側ト協力爾後ノ情報ヲ蒐

集シツ、嚴重ニ警戒中ナリ

四共匪ノ阿片掠奪並ニ宣傳狀況

和龍縣守信社福洞ニ共匪十數名余末致シ

君等ニ阿片ヲ栽培セシムルハ鮮滿民族ノ

精神ヲ麻痺セシメ七國公認ヲ造ル好計ニ

シテ收穫期ニ於テハ君等直接所有ヲ奪取

セラシ一年間苦勞シテ作ツタ阿片ハ結局

日本奴ノ腹ヲ肥スト送宣傳シ「吾等ノ後收
 スルハ君等ノ誠意ニ依テ援助ヲ受ケ様ト
 スルナリト多量ノ阿片ヲ掠奪セリ
 五延吉汪清安圖縣各地ニ蟠踞シテ共匪賊聯
 合ニテ敦化縣ニ道河子及三道河子ニ阿片ヲ
 栽培シ該地ニ根柢ス
 八 裁培ニ該地ニ根柢ス
 八 情況

各地ニ横行シ没シ物資ノ掠奪人質ノ拉致
 等ノ暴行ヲ盡シアリタルカ最近一月余
 リ殆ント其影ヲ没シ僅カニ阿片掠奪ヲナ
 シアルハ匪賊ノ横行ヲ見ルニナリカ其
 原因ヲ探知スニ敦化縣ニ道河子及三道
 河子ニ約二有日ニ至ル阿片栽培ヲナシ
 目下其採汁期ニアルヲ以テ左記共匪團約

2. 共亞因集結ノ狀況

四百名ハ一切ノ行動ヲ中止シ探汁ヲナシ
 了リ本月末日迄該地ニアリ其後冬踏踞地
 = 分散越冬ニ準備ヲナシントスルモノ
 如シ

明山好	董团长	新勝軍	古勝	新順	救中原	金星隊	部隊名
五〇	六〇	三〇	三〇	一五	三〇	一〇〇	人員

蟠踞地及頭目

王德泰
 敦化縣三道河子(王春泰)
 敦化縣大王樹川
 敦化縣安圖縣境界
 (救同軍)大王樹川
 三道河子

平日軍

七〇

沙河掌

3 所見

以上ハ密偵報ニシテ直ニ真ヲ措キ難キモ
二道河子附近ニ阿片ノ栽培ヲ行ハ
事實ニシテ今後ニ於テハ彼等ノ行動ニ対
シ相嘗注意ノ要アリ

六 孔憲榮ノ救國軍兵士募集ノ宣傳ヲナス

江青縣羅子清老黒山ニ根據ヲ有スル自稱
救國軍副司令ノ孔憲榮ハ八月五日部下五
名ノ率半數依縣柳樹溝ニ移動救國軍兵士
ヲ募集スヘク宣傳シアリ

七 共匪集團鄂荊龍峽整齊ヲ計画ス

安圖縣和龍縣界ノ荒清峯ニ蟠踞シアル東
北人民革命軍第二軍第一獨立師第一團第
四

二連第三連及西首金一山ノ令流部隊約一
 ヲ名ハ遊撃部隊ヲ編成シ工作ヲナシツ
 ヲアルカ今回革命軍ノ威嚴ヲ革命分子並
 無羞階級ニ徹底セシムル為集團部隊ヲ整
 撃令減セシメ革命工作ニ対スル認識ヲ深
 メント也因シアリ

八、匪賊京園線襲撃計画

安園縣大荒清ニ蟻踞シアル匪賊梅龍軍約
 百名安園縣大甸子ニ移動シ末リタル匪首
 柴司令部下約二〇〇名ハ八月九日ノ兩
 日安園縣大荒清峯ニ集會シ會議ヲ開催京園
 線列車襲撃ヲ企圖シ準備中ナリ

九、貨物列車襲撃

八月十九日午後九時三十分頃第二九一貨

物列車ハ南滿亮兵台間三九〇新附近ニ於
テ兵力未詳（推定兵力約一五〇）ノ計畫
的運行妨害及列車襲撃ヲ受テ列車脱線轉
覆スント共ニ掠奪放火セラレタリ

被害状況

目下調査中ニシテ判明セサルモノ車掌一
名即死乗務員一名行方不明連結貨車二十一
輛ノ外全車焼失セシモノノ如ク軍用「ガン
リン」糧秣等ヲ搭載シアリシニ非スヤト
思料セラル

襲撃匪ニ關スル判断

諸情報ヲ綜合スルニ黄花甸子東方六料
附近密林内ニハ明山好久勝山海若來好平
滿軍下忍義軍故中原明好等ノ混合匪約二〇〇

五

蟠踞シアルモノノ如ク又密偵報ニ依リハ
 安圖縣後車廠清ニ在ル共匪東北抗日救國
 軍連長安鳳學ハ今回第一團長ニ昇任シ其
 初功ヲ現ス為手兵約一三〇名ヲ率ヒ十六
 日北進セシモノノ如ク今回ノ襲撃ハ共匪
 ノ使喚ニヨル共匪ノ合作行為ニ非ズヤ
 ト判断セラルルモノ目下討績キ真相偵中
 ナリ

一、現場復舊状況ト列車運行状況

今回ノ襲撃事故ニヨリ直通列車ハ不通ト
 ナリ第二〇二列車ハ明月清止リ第二〇一
 列車ハ敦化ニ止リ貨車ハ全部運休朝陽川
 圖們間輕油車ハ平常ノ如ク運行シアリ
 又脱線セシ第二二號裝甲列車ハ午後ニ修復

四 汪清縣

舊シ線路ハ徹宵工事ニヨリ二十一日午前七時復舊シ列車ノ運行平常ニ復セリ

六 聯合共匪團根據地ヲ移動ス

東北人民革命軍第二師第四團長侯國忠ノ率
ユル約六十名及東甯縣老黑山方面ニ蟠踞
スル東北義勇軍第卅營長郭部隊約四十名ヨ
リ成ル連合共匪團ハ七月二十七日汪清縣
春明郷十里坪一五島奥ニ移動シ來リ兵人先
等精築準備中ナリレカ極度ノ食糧難ト
日滿軍警ノ警戒嚴重ナリシ爲向後ノ方針
ニ就キ協議ノ結果活動地域ヲ北滿ニスヘ
シトノ協議一決シ去ル八月三日全員敦化
縣沙河方面ニ向テ移動シタリ

六

ニ共匪凉水泉子滿人街及新興洞ニ侵入シテ署員ヲト交戦ス

八月十六日午後十時十分凉水泉子滿人街ニ共匪約二十名侵入シテ人質拉致中ラ此羅中ノ自衛團員陳發(滿人)之ヲ發見シ誰何ノ際急射ヲ受テ左手首及鼻頭ニ擦過銃劍並右足首貫通銃劍ヲ受テ(生人)別條ナシ)領警ノ署ハ銃聲ニ依リ直ニ非常配置ニ就クト同時ニ江巡以下八名急據テ勤惣援ニ退却スル賊團ニ猛射ヲ浴セタムニ夜間ナルト且農作物ノ為行動意ノ如クナラス遂ニ賊影ヲ失ヒタルヲ以テ一先ツ引揚ケ當時ノ状況調査ヲ為シタリ

又同時刻頃凉水泉子東方ニ新新興洞ニ於テ

夜警団員林營善(鮮人)同地東端附近
ヲ警戒中潜伏セシ賊三名ヨリ一齊射撃ヲ
受テ胸部負傷通銃創ヲ受テ翌十七日死亡
セリ

分署員八直ニ追撃セシモ賊ハ既ニ北方高
地方向ニ引揚シタル後ナルヲ以テ狀況調
査ノ後分署ニ歸還セリ

賊ノ系統
賊ハ何シモ鮮清人混合ニ雜服ヲ着用シ各
自長銃ヲ携帯シ居リ其系統ハ最近東甯方
面ヨリ十里坪子徳村ニ移動シ來レル吳某
及獨立連林海山一派ノ混合部隊ト認メラル
三十里坪西大坡方面ニ於ケル共匪賊團ハ八九
月韓併合紀念日暴動計畫

七

汪清縣春明鄉西大坡竜浦洞ニ根據スル東北
 人民革命軍第二連長池竜哲ハ八月十八日同
 軍第一團本部ヨリ來ルハ九月十日韓併合紀念
 暴動實施方指令ニ接シ同日十里坪子德村
 方面ニ蟠踞スル匪賊團代表ヲ召集同連兵舍
 内ニ於テ臨時緊急會議ヲ開キ種々協議ノ決
 果左記事項ヲ決議シ同日午後六時酒散會シ

タリ
 決議事項

一 工作目標

都市ハ大肚川嘎呀河凉水泉子ヲ自衛團ハ
 南大洞及嘎呀河管内鳳梧洞自衛團ヲ集團
 部落ハ石頭河子集團部落ヲ工作目標トス
 二 部隊ノ編成

池童哲部隊六十三名周乃尋部隊三十一名
 林海山部隊二十名計百十四名ヲ放火隊十
 四名決死隊三十名戰鬥隊七十名ヲ三隊ニ
 分テ放火隊ヲ林海山決死隊ヲ池童哲戰鬥
 隊ヲ周乃尋之ヲ指揮ス

3. 各部隊ノ擔任工作

放火隊ハ市街地及集團部落ヲ襲撃シ際富
 豪並ニ其他建物(學校及病院)ニ放火燃焼
 セシメ決死隊ハ人質拉致要人暗殺ヲ戰鬥
 隊ハ目標地ニ於ケル各機關ヲ襲撃シ
 其進出及追撃ヲ牽制スル一方多量的金銀
 掠奪ヲ各担任工作トス

4. 戰法

大部隊ニ依ル包圍戰法ヲ用ヒ放火及決死

兩部隊ノ活動ヲ敏活ナラシメ以テ人質柱
致要人暗殺並放火金帛掠奪ヲ敢行スルコト
ハ實施期間

各地偵察員ノ歸來ヲ待テ最モ攻撃容易
ナル地点ヲ選ビ決行スヘキモ概ネ八月二
十甲日ヨリ九月三日迄ノ間トス

6. 其他

ハ此暴動工作ニ並行シテ宣傳ヨリテ撒布
シ白色群眾ノ民族革命意識活發ニ
切ムヘシ

口本計畫ハ情況ニ依リ変更又ハ中止スル
コトアルヘシ

狀況以上ノ如ク奥地方面ニ於ケル共匪賊団ハ未
ハ二三ノ紀念工作ヲ決行スヘク準備ニ居ル

形勢表行ナリト

三 平日軍海龍軍合休警戒状況

敦化縣南湖頭方面ニ蟻踞中、兵匪頭目平

日勝ハ七月二十九日手兵二十名ヲ率ヒ大

荒清ニ移動海龍軍ト連絡協議ノ結果繁茂

期日清軍討伐ハ免シ得ル狀勢ニ鑑ミ兩

軍各休シ防備強化ヲ計ル少要アルヲ以テ

部下四十名ヲ海龍軍ニ合休其指揮下ニ入

ルコトニ決シ七月三十日大荒清ニ移動海

龍軍ノ指揮下ニ入ラシメタルカ彼等ハ内

滿軍ノ大討伐ヲ痛ク懸念シ根據地附近山

上ニ整壕ヲ設ケ晝夜警戒中ニシテ海龍軍

頭目廣英豪ハ常ニ頭目等ニ對シテ若木根

據地ヲ圍滿軍ニ奪取セラントカ如キコト

九

四

八

二

九

記

念

日

暴

動

計

畫

アヲハ東滿ノ救國志士ハ自滅ノ外ナク再
 ヒ起シ能ハサルヘシ依而各位ハ部下ヲ督
 勵シ警戒ニ任シ一旦有事ノ際ハ死力ヲ盡
 シ敵ニ當ルヘシト激勵志氣ヲ鼓舞シテ
 汪清縣唐水河子ニ根據ヲ有スル中共東滿
 特委及東北抗日救國軍第二軍司令部ニ於
 テハ來ル八月二十九日、日韓併合記念日ヲ
 期シ都市集團部落ノ襲撃及鐵道破壞電線
 切断等ヲ計畫シ且各根據地ニ於テ記念大
 會ヲ開催スヘク各縣委區委及東北抗日軍
 各團部ニ指令ヲ發セリト尚彼等ハ現下食
 糧難ニ端キクアハニ鑑ミ如何ナル窮鼠
 的行動ニ出スんヤ計リ難キヲ以テ嚴重警
 戒中ナリ

五農作状況

十里坪及西大坡一帶二八約二五〇名ノ非
 武装共匪根據ニ地方自衛團長崔恭薰一
 二十名並人民革命軍第二連(西大坡ニ根據
 シ地龍指ヲ連長トス)武装共匪若干名ノ
 檢護ヲ受ケツ附近平地一帶ニ約三十萬
 坪ノ各種農作物ヲ耕作シ日下平年以上ノ
 農作ヲ豫想セラレ大麦ノ如キハ既ニ刈入
 ラ了シ其他黍稗等早生作物ヲ作付シ了ル為
 一時極度ニ困窮ニ居ルハ食糧難ニ最近漸
 次緩和セラレテ了ル状態ナルカ如ク本
 秋日滿軍ノ大討伐ヲ懸念シ收穫物ハ全部
 未乾燥ノ儘ニ避難小屋ニ運搬シ貯量ハ
 携帶口糧ヲ造リ居ルリ

八二

砂金採取状況

從來西大坡自岩頭及十里坪砂金清ニ於テ
 約二十名ノ非武装共ニ依リ之カ採取中
 一處其間採取量ノ僅少ニ依リ之ニ從事ス
 心者漸皮減少ニ現在二十名内外ナルノ
 如ク為ニ人名革命軍第二連ニ於テ依悉
 之カ採取ヲ繼續スヘク目下各方面ニ亙リ
 從業員ノ募集中ナリ

七、木材伐採計畫状況

前項人民革命軍第二連ニ於テハ八月十七
 日頃ヨリ大肚川方面ニ居住スル滿人某ト
 密議シ十里坪西大坡方面ノ木材ヲ伐採之
 ヲ大肚川方面ニ搬出セシメ經營者側ヨリ
 税金ヲ徴収シ之ニ依リ同連ノ諸經費ヲ補

フヘク計畫中ノ處八月二十二日頃雙方此
 議纏リ經營者清人某ハ人夫募集ノ為大肚
 川方面へ赴キ夕ニ由ニテ第二連ニ於テハ
 同人夫ハ入也並其際食糧品ノ提供方ヲ待
 望シ居レリ

五、安圖縣

安圖縣駐比滿洲國軍警胡蘆蔡子附近ニテ共匪ヲ急襲ス

安圖縣胡蘆蔡子附近ニ集合中ナリシ共匪ハ八月二日夜其半数ハ他方面ニ移動セシメ約ニハ依然該地ニ在ルハ情報ニ接シ安圖駐滿軍吳營長ハ此敵ヲ擊壊シ明月清ヨリ入安中ナル小川督察官一行及糧秣輸送隊ヲ掩護スルニ決シ警察隊第三中隊ヲ併セ指揮シ八月二日拂曉安圖出發胡蘆蔡子附近ニ至動シ濃霧ヲ利用シテ敵匪ヲ急襲潰走セシメ夕リ彼我ノ損害

我
十レ

敵 遺棄死体 負傷十餘名

鹵獲品 洋砲 四 同彈藥 六發

二 大荒溝附近ノ匪情

不 海龍軍ト共匪人民革命軍トノ合流

安圖縣大荒溝ニ根據ヲ有スル兵匪海龍軍

ハ七月中旬頃數回ニ亙リ頭目秘密會議ヲ

開催シタルカ其内容ハ同匪ト安圖縣後車

廠溝附近ニ蟠踞スル共匪東北人民革命軍

長蔡兆新(三道歲ニ蟠踞スルアリタル如シ)ノ指令ニヨリ海龍軍

頭目張英好ハ東北人民革命軍某旅長ニ任

命セラレ近日中ニ海龍軍部下各頭目ヲ召

集シ就任挨拶ヲナスト共ニ根據地ノ防備

中ナリ

只敦化縣沙河掌方面ヨリ平日軍ノ移動

七月二十日敦化縣沙河掌方面ヨリ兵匪平

日軍部隊約一五〇名移動シ來リ現存家屋

ニテハ收容不可能ナルヲ以テ目下兵舎ヲ

新築中ニシテ一時馬团长兵舎ニ收容シテ

ハ双盛部隊大荒溝ニ引揚

海龍軍ノ一兵双盛部隊約五〇名ニ對シテ

英好ヨリ近日中ニ大荒溝ニ引揚ヘキ命令

ヲ發セリ

ニ海龍軍ノ新山部隊合休懇願

英好ハ泉水洞真地新地方ニ根據セリ新

山部隊ノ三道清北方関門附近ノ戦斗ニ於

テ頭目ヲ失ヒ動搖シテルヲ看取スルヤ同

ニ

部隊ノ海龍軍ニ合休ヲ懲源ニツクアリ

海龍軍ノ兵力

海龍軍部隊ハ第一中隊ヨリ第七中隊マテ

編成シテんモ其詳細不明ナリ

各部隊ノ兵力

九江 五〇 平日軍 一五〇

通盛 五〇 馬 田 一五〇

王連附 五〇 計 四五〇

頭目廣英好ハ部下各隊ニ對シ大荒清根據

地ハ海龍軍ノ死活地ナリ日清軍ノ攻撃ヲ

受ケテハ之ヲ死守スヘシ此地ヲ捨ラハ

死ト因然ナリト訓ニシアリ

糧秣補給狀況

海龍軍ハ糧食豊富ナルモ平日軍ハ困窮ノ

三後車廠清附近ノ匪情

状態ニシテ之カ補給ハ細鱗河方面ヨリ求
 ムハク手配中ニシテ海龍軍ハ今後ノ糧食
 補給ノ為頭道溝及龍井ヲ襲撃スハク八月
 上旬頃密偵二名ヲ派遣シ警備機關並ニ富
 豪者ヲ調査中ナリ
 安圖縣後車廠(明月溝西南方約五十料)ニハ
 本年三月中旬旬日滿軍ノ大討伐ニヨリ延吉
 和龍縣下各地ニ分散蟠踞シアリタル共匪
 避難集結シ一時其數武裝共匪約一五〇名
 非武裝共匪約一〇〇〇ヲ算シルモ其後
 糧食難ト東滿特委ノ工作路線變更ニ伴ヒ
 非武裝共匪中老人幼兒身體虛弱ニシテ勞
 働ニ堪エザルモノヲ強制的ニ統治区域内

二解散シ或ハ食糧難ノ為飢餓ニ堪エスシ
 テ自ラ脱走スルモ等統出シタル為漸次
 其数ヲ減シ現在ニ於テハ東北人民革命軍
 第二軍第一独立師第二團第三團所屬武
 裝共匪約九〇名非武装共匪約三五〇名残
 留蟠踞シアリ而シテ武装共匪ノ給養ハ概
 シテ良好ニシテ日下約三十名同地ニ殘留
 シ赤色區域内ノ警戒ニ當ラシメ主力ヲ以
 テ間島省内各縣ニ分散シテ鑿粟栽培
 稅一收獲阿片ニテ徵收ス強收ヲナシ
 金沢糧食ノ掠奪ノ態ヲ致等ラ敢行シ
 二活動中ナルモ非武装匪側ハ農民委員會
 等リ糧食トシテ月平均一人ニ付小麦粉ニ
 斤ノ支給ヲ受クルノミニシテ松皮草類ヲ

常食シアリタル營養不良ニ陥リ飢死者毎
週四五名宛ヲ去シアリト

口農作物ノ情況

本年三月中旬後車廠溝ニ蟻集セシ約一〇〇〇
名ノ非武装装匪ハ同地ニ赤色区域トナシ武
装匪掩護ノ下ニ農業ニ專念シ以テ食糧難
ヲ打開シ其生産ヲ以テ人 民革命軍ヲ終養
スハ同区域ヲ更ニ四個ノ農民委員ノ力
ヲ建策分散蟻窟ニ安圖縣方面ヨリ農作物
子トシテ大麥十石馬薯七石粟四斗粟一
斗五升ヲ購入シ各地平地ヲ耕作シ(大麥十
十五日耕馬薯七日耕唐粟十四日耕粟十
五日耕粟粟八日耕大豆三日耕其他野菜類

一三

八日耕計七〇日耕ヲ耕作播種シタルモ其
 後前日ノ如ク食糧難ノ為非武装共匪中統
 治区域内ニ解放セラレタルモ又ハ脱走
 之者等續出シタル為其數漸次半減シ尚
 殘留共匪ヲモ其過半数ハ飢餓状態ニ陥リ
 勞動ニ堪エザル為充分ナル除草ヲ為レ得
 不農作物ノ成績極メテ不良ニシテ農民委
 買ノ秋季收穫高見積ニ依レハ大麥五十石
 馬鈴薯百石唐粟八十石阿片二百石大豆四石
 粟一五石ニシテ後車放清共匪ノ約ニテ月
 ノ食糧ニ足ラザル見込ニテ尚大麥馬鈴
 薯八月下收穫シ糧食ニ充テ嬰粟ハ採液中
 十リ
 八糧食ノ入手経路

本年三月以來糧食ノ大部ハ延吉縣倒木
 清奥地並樺甸縣大荒清附近ノ木材伐採場
 ヨリ提供セシメ或ハ購入シタルカ六月十
 一日同地木材伐採業禁止セラシタル以後
 ハ全然各地方ヨリ糧食ノ入手不可能トナ
 リタルニ尚敦化縣大石河居住清人五名ハ
 縣福里河居住清人五名安圖縣寒葱清居住
 清人三名計一三名各一ヶ月平均三回一
 回三名乃至五名宛人馬三頭宛ヲ以テ馬一
 頭ニ小麦粉三袋乃至四袋ヲ積載寒葱清經
 由車旅着赤色区域内革命軍第二團部室ニ
 来リテ一月部室ニ小麦粉一袋ニ付キ金六
 月五十錢ニ賣却シテ了リ

ニ兵工廠ノ狀況

兵工廠ハ人民革命軍第二團部室東方約三
料ノ密林中ニアリテ鐵道且テ且ハ鮮人
工夫(職工)ニ名ニシテ私製拳銃手榴彈
ノ製造及武器製造ニ任シテ修理材料ハ
牛馬車輪ノ金輪並釜ノ破損ニナルモノヲ
以テナシアリ

ホ、被服廠ノ狀況

被服廠(一名裁縫隊)室ハ兵工廠ノ附近
ニアリテ鮮人工人七名(内女六名)アリテヨミシ
ン四台ヲ以テ主トシテ革命軍制帽ヲ製造シ
アリ

ハ、児童學校ノ狀況

児童學校ハ革命軍第二團部室西方約四
米ノ山麓ニ本年五月中旬新築シタルカ目

下赤色児童約四十名集合シ毎日午前中三
 時間宛共産主義唱歌算術朝鮮語文体操等
 諸学科ヲ教授シアリテ中共青年団員解
 人金某(嘗二十一年)ナン者人校ノ教師ニ任シア
 ルカ本名ノ學歴ハ龍井大成中學一年修業
 シタルモノナリ

ト革命軍病院狀況

病院ハ兵工廠被服ト接近シアリテ武装匪
 側ハ鮮人李某(老年三十二年位)ヲ診断治療ニ
 服シ非武装匪側ニ於テハ鮮人金某(老三十
 九年位)ナン者之ニ従事ス

千歩哨配置狀況

哨ヲ除ク人民革命軍ニ於テハ一ヶ所(鏡前
 哨ヲ除ク)反回自衛團側ニ於テ一ヶ所民衆

西安圖

側ニ於テ四ヶ所
 二相所十二名ニシテ晝夜交代ニテ赤色区
 域内ノ高地ニ立哨シテ夜間歩哨ヲ夜
 哨ト謂ヒ晝間歩哨ヲ日哨ト謂ヘリ
 西安縣車廠子ニ於ケル兵共匪賊聯合大會
 車廠子一帯ヲ根據トセム兵共匪賊ハ反滿抗
 日戦線ノ統一ヲ劃策スヘク去ル六月九日
 民革命軍第二團都ニ於テ大ニ兵共匪賊部隊
 一代表會議ヲ開キ今後ニ於ケル日滿軍及鮮
 人自衛團對策ノ實質致物資掠奪主義宣傳ニ
 關スル方針等十一ノ項目ヲ討議決定セリ
 出席者
 人共匪則

東北民衆革命軍第二軍第一旅旅長
 兼第一師師長 連長 二軍第一旅旅長 師長

金明八

同第二团长

張維成

二 匪賊側

九江部隊

海軍部隊

馬田部隊

新勝軍

大百好部隊

宋玉好部隊

陳裕長部隊

二 會議ノ状況

共匪全明ノ司令ニ依リ

紹介後直ニ決議事項ニ入りタルカ各代表

共熱辯ヲ交ヘシ議案ヲ決断シタルニ午後

四時遂ニ左記十一項ヲ決定シ共匪側ノ主

王連長

錢營長

杜營附

楊老哥

大局好 (會議参加拒絶ス)

站北隊長

平溝好

一三

催ニ依リ牛三頭屠殺シ大晚餐會ヲ催シ席
上共産党學校ノ歌舞アリ列席者歡ヲ盡シ
一致團結ヲ誓ヘ解散セリト

三決議事項

一 安圖縣山林隊及革命軍ハ一致團結シテ

日本軍ヲ滿洲ヨリ驅逐ス

二 安圖縣革命軍ト共産党トハ東滿特委指

令ノ下ニ連結シ密ニ以テ目的達成ニ

努力スルコト

三 鮮人自衛団ハ滿人自衛団ト趣ヲ異ニシ

日本軍ノ先頭ニ立ケテ活躍シアルハ容

赦ナク撲殺スルコト

又安圖駐比滿軍兵營長ハ常ニ明月溝ヨリ

糧秣ヲ運搬シアシリ一致協力シ以テ之

ヲ掠奪スルト共ニ道路ヲ遮断スルコト
 都府以外ノ住民ハ之ヲ保護スルコト
 千円以上ノ財産所有者ヲ調査スルコト
 資木家營利的木材採伐及搬出ヲ嚴禁ス
 ンコト

8. 日本人ノ多キ都市ヲ襲撃シ人質ヲ致物
 品掠奪多ク敢行スルコト

9. 各部隊ハ各遊撃区内ニ於ケル民衆ヲ極
 力保護シ努メテ討伐隊ノ未襲ヲ計畫スル
 コト

10. 革命軍及山林帯ハ各地ヲ遍歴シソク反
 日思想ノ鼓吹スルコト
 非武装群衆ニハ統治區域進出ニ對シ一
 切自由ヲ與ヘルコト

六 蘇聯ノ滿洲國擾乱ノ作ト在滿匪賊ノ滿洲事

麦記念日前後三期ノ暴動惹起ノ劃策

日滿關係ノ緊迫ニ伴ヒ蘇聯ハ在滿匪賊ヲ

使喚後亦攪乱策ニ膺心シテ、アハ諸情

報ノ一致スル處ナレバ最近日本ノ對蘇態度

極態度ヲ觀察セル蘇聯ハ之ヲ具體的工作

トシテ、コニシラス、赤軍指導者ノ下ニ東北救國軍

義勇軍總司令王徳林ヲ操縦シ教化及老黑

山地方ニ蟠踞セシ故國義勇軍約ニ〇〇〇

名閉島軍城子及三道崴地方ニ根據セシ東

北人民革命軍約一〇〇〇〇名ヲ統一セシメ

之ヲ三隊ニ編成シ第一隊ハ京圖線地方

第三隊ハ圖佳線地方第三隊ハ東部國境

地方ニ配置シ九月中旬滿洲事麦記念日前

地方ニ配置シ九月中旬滿洲事麦記念日前

地方ニ配置シ九月中旬滿洲事麦記念日前

地方ニ配置シ九月中旬滿洲事麦記念日前

地方ニ配置シ九月中旬滿洲事麦記念日前

地方ニ配置シ九月中旬滿洲事麦記念日前

後ヲ期シ鐵道破壊及都市列車官公署等ノ
 襲撃ヲ決行東滿地方ノ治安ヲ攪亂スヘク
 既ニ重要ノ物ヲ冬ノ要地ニ潛入セシメ所在
 ノ反日黨分子多數ヲ利用狀況ヲ偵察機
 ヲ窺ヒツアリ

尙準備工作費トシテ蘇聯當局ヨリニ萬圓
 ヲ王徳林ニ交付シタリト

- 七、對岸匪賊ノ出没狀況附表第一ノ如シ
- 八、間島賊情要圖第一ノ如シ
- 七、延吉地区隊兵力要圖第二ノ如シ

第四 交通、通信、補給、衛生

通信
 管内有線通信網要圖第三ノ如シ
 六、補給

三 經理 順調ニ實施シアリ

確實ニ實施シアリテ良好ナル成績ニアリ

四 衛生

將校以下保健ノ状態良好ニシテ防衛勤務實
施ニ支障ナシ

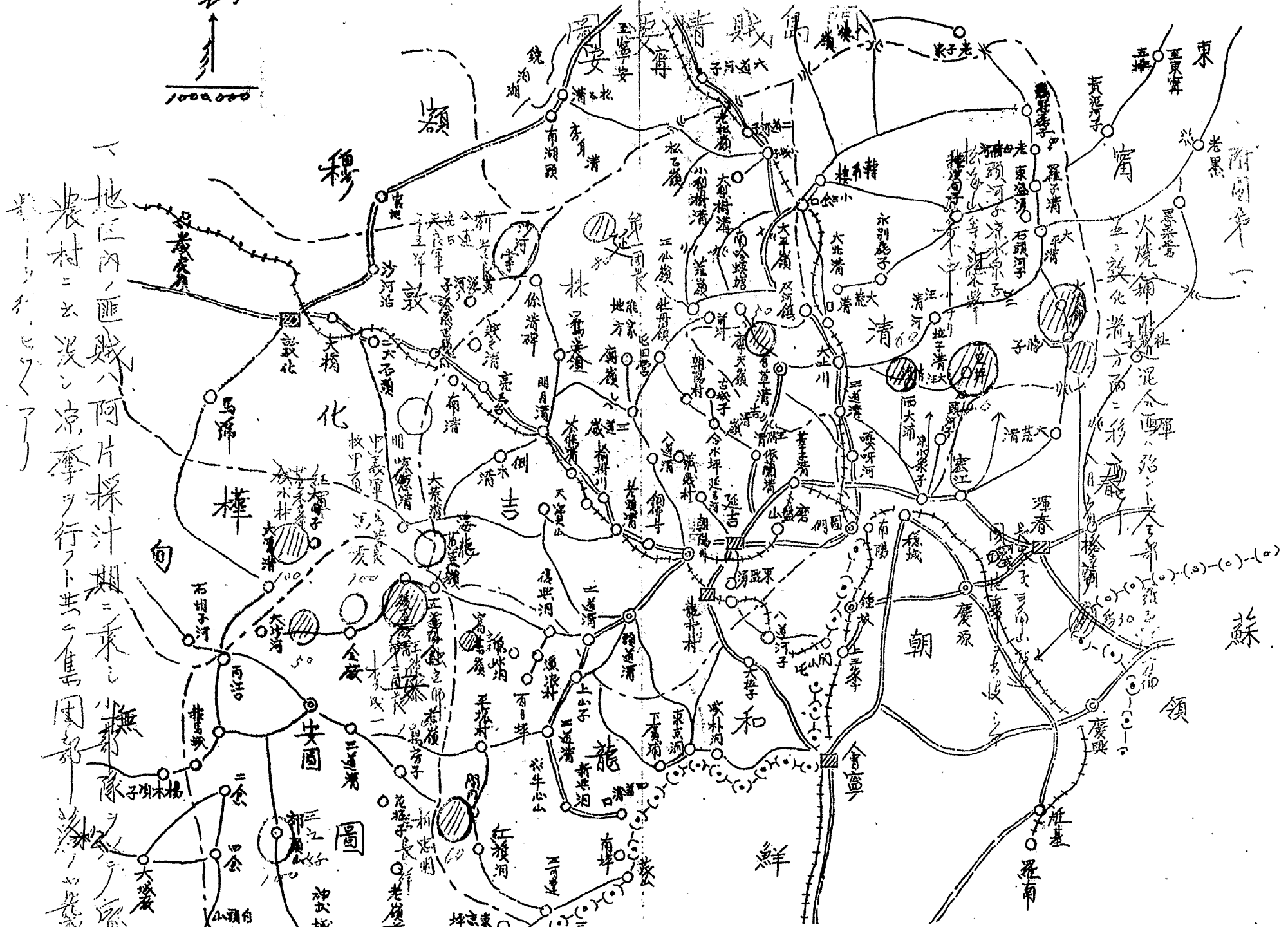
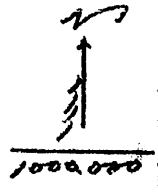
第五 編成

五 常時國境守備勤務直接充當部隊ノ編成附表
第二ノ如シ

縣 延 龍	縣 清 汪	縣 延 龍	縣 延 龍
七八	八八	七八	七八
滿蒙	西 歲 子	滿蒙	滿蒙
一 匪 賊	一 匪 賊	一 匪 賊	一 匪 賊
午前一時頃水龍渠夾皮溝溪洞ニ匪賊十數名束縛シ糧食ヲ掠奪シ去セリ	午前十時頃汪清縣西歲子河東木胡泉屯河南地方住民孟非金方ニ武裝甚匪七名(冬首長鏡勢多)龍泉末白象ヲ地下豆袋一足ヲ掠奪シ東山林地帯ニ逃入リト	午前一時頃武裝甚匪十名名草場冬ニ現出有草場守備隊之ヲ撃退ス	午前一時頃汪清縣龍泉坪在集團部落住民鮮人二名大麥收穫中冬首長鏡勢多一甚匪十名束縛シ前記ニテヲ掠奪シ去セリ

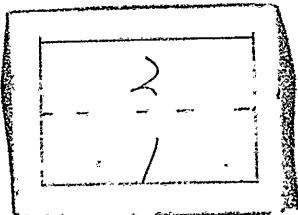

		縣去延
八	八	八、八
清丹社	如樹標	清草而
武裝匪徒	共匪	匪賊
<p>平治十一年分此丹清集團部族(百首痛 身八作)武裝者匪徒三十一名未見 元因地名遺跡ハ之ヲ東方ニ移シ居セリ 該匪八月七日百草清之、所住ニ現出セルノ 三ノ百草清年備除率百ノ討伐ニ由リ 冬附道ニ逃去ラ在國ニ入ルノ如シ</p>	<p>午後三時頃注情標標樹内ニ集團部 落見 民二名大妻何標中長鏡所 標ノ共匪五名 裝束ニ格致セルトシメニ元ニ名ハ草蘭ト云 外走セリ</p>	<p>有草清冬東北ノ約三軒ノ道路上ニ百草 清ニ連絡ノ歸途ニ大荒清湯等ハ匪賊 約四十名ト遭遇シ戦死一名重傷一名 輕傷一名ヲ云シ且湯人一名ヲ拉致セリ</p>

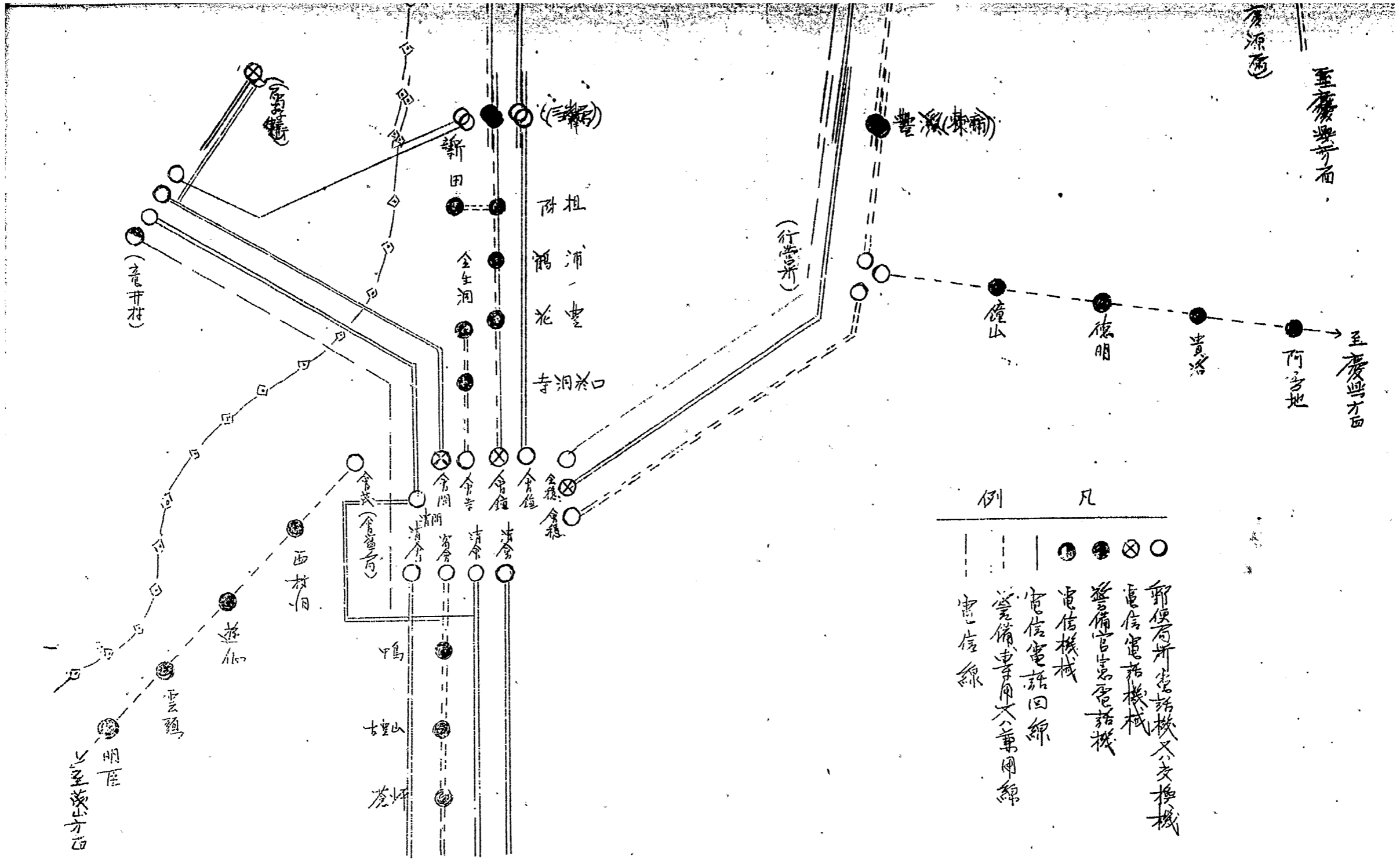
延光縣
八
系 壤 村
協 龍 界
以 柴 匠 一
二
<p>長江自鄱陽湖而下至八月十日 午可三日及皮協方并臥龍湖二到八連中 之於平壤村並方高地二格一栗樹傷谷地 出也中一人梅龍軍一旅一或共者甚區為十五 日或之下或或約四十分放ヲ如方高地村地 第一二慢亂をこメタリ</p>



一地区内ノ匪賊ハ阿片採汁期ニ乘シ小無...

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上の尺
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3 年 12 月 18 日</p> <p>主務者又は</p> <p>撮影立会者 加部東 保夫 </p>	



例 凡

○	郵便局併設電話機又は交換機
●	電信電話機
⊗	警備官署電話機
◎	電信機
—	電信電話回線
- - -	警備専用回線
—	電信線

1116

附表第二

計	編				指揮機關	小隊長	編		
	第六分隊機	第五分隊輕	第二分隊銃	第一分隊小			區分	區分	
一						一	官士	週	
二	一	一	一	一	一		(長任) 背軍		
八	四	四	六	六	三		兵等上		
一					一		兵等(一)	一	
一					一		手以刺	着	
二	五	五	七	七	二	一	兵護	着	
一							計		
<p>摘要</p> <p>一、週審士官等 勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ</p> <p>二、勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ 勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ</p> <p>三、勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ 勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ</p> <p>四、勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ 勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ</p> <p>五、勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ 勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ</p> <p>六、勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ 勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ</p> <p>七、勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ 勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ</p> <p>八、勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ 勤らしんふ事 中隊長ハ別ニ週審士官等トシテ</p>								<p>勤</p> <p>部</p> <p>隊</p> <p>編</p> <p>成</p> <p>表</p>	



歩兵第七十六聯隊國境守備隊月報

自昭和十年八月一日
至昭和十年八月三十一日

步兵第七十六聯隊國境守備隊月報目次

第一章

警備ノ概況

第一節

警備區域内全般ノ狀況

第二節

警備行軍實施ノ概況

第三節

警備施設

第二章

對岸ニ於ケル治安概況

第四節

琿春縣

第五節

汪清縣

第三章

對岸ニ於ケル馬匪賊並ニ共匪ノ狀況

第六節

兵馬匪ノ狀況

第七節

共匪ノ狀況

第四章

蘇聯邦ノ狀況

第八章

第七節

步兵第七十六聯隊國境守備隊編成裝備

第六節

衛生

第五節

生理

第七章

第四節

補給經理衛生ニ關スル事項

第三節

通信

第六章

第二章

交通

交通々信ニ關スル事項

第三節

滿洲國自衛團

第二節

滿洲國警察

第一節

滿洲國軍隊

第五章

第九章

滿洲國軍隊警察自衛團ノ狀況

第八節

其他ノ狀況

第八節

軍隊ノ狀況

第一章 警備ノ概況

第一節 警備區域内全般ノ狀況

一、警備區域内全般ノ狀況ハ比較的靜穩ニシテ特
 種事項ヲ認メス良好ノ景況ニアルモ一部未化
 思想ヲ包持スルモノナシトセス或ハ外部即チ
 蘇領ヨリスル潜行の魔手ハ依然力強ク繼續シ
 アルヲ豫想セラレ豆滿江ト一葦帶水ヲ以テス
 ル鮮滿蘇國境地帯在住民ノ善導ニ關シテハ特
 別ノ顧慮ヲ要スルモノアルヲ認ム
 對匪狀況ニ關シテハ最近新阿山對岸三角山附
 近ニ一部共匪移動シ來リ出沒徘徊スルアリ又
 穩城對岸凉水泉子附近ニ約ハ口名ノ混合匪徒
 徊シアルモ管内軍警ノ至嚴ナル警戒ニ依リ鮮

内ヲ侵スモノナク平穩ナリ
 二當守備隊ニ於テ警備行軍並水泳演習實施ノ際
 豆滿江河川偵察ヲ實施セリ
 其狀況別紙要圖第一乃至第六ノ如シ
 三警備區域内風水害狀況(豆滿江下流方面)
 八月十四日午前ニ於ケル豆滿江下流方面風水
 害ハ雄基羅津ヲ中心ニ相當ナル被害アリ其被
 害狀況左ノ如シ
 雄基ノ被害狀況
 内地人側ニハ人畜ニ被害ナシ然レ共浸水家
 屋八十一軒アリ
 鮮人側ハ死亡者五名ニシテ内生理三名アリ
 家屋流失ハ五軒ニシテ浸水家屋三百十二軒

あり
 満人側ニハ人畜ニ被害ナシ
 其他畑ノ流失ニ十四反埋没畑八十二反浸水
 畑百三十二反ニシテ其損害七百三十六圓ナ
 り
 田地ノ流失ハ八反埋没田地七十一反浸水田
 地百三十二反ニシテ邑ノ損害四百六十圓ナ
 り
 堤ノ破壊ハ三百十六米ニシテ其被害二千六
 百四十圓ナリ
 魚船ノ流失並ニ沈没三十四隻ニシテ其損害
 一萬六千圓ナリ
 2. 羅津ノ被害状況

八月二一日	月日	
隊備守城穢	部隊	
守備隊長岩井少尉以下二四名 八午前八時穢城出發豊西附近 警備行軍ヲ實施シ午後零時 三十分飯隊セリ	行 動 概 要	警備行軍實施一覽表
	摘 要	

詳細不明ナルモ知り得タル狀況左ノ如シ
 員傷二名
 浸水家屋六百九戸ナリト
 第二節 警備行軍實施ノ概況

八月二日	八月一日
新阿山守備隊	
<p>守備隊長榎本特務曹長以下一 九名八午前七時新阿山出發阿 山洞一柳貫洞一魯貫洞一新乾 洞方面ノ警備行軍竝河川偵察 ヲ實施シ午後六時餓隊セリ</p>	<p>守備隊長榎本特務曹長以下二 口名ハ降雨ヲ侵シ午前八時新 阿山出發山西洞一金致洞一守 護洞一地境洞一白顔洞附近ノ 警備行軍並河川偵察ヲ實施シ 午後五時餓隊ス</p>
<p>河川偵察ノ 狀況附圖第 四ノ如シ</p>	<p>河川偵察ノ 狀況附圖第 ニノ如シ</p>

自八月二日至八月三日								
慶興(古城)守備隊								
ス	備 行 軍 ヲ 實 施 シ 三 日 夕 刻 飯 隊	坪 一 洪 儀 洞 一 古 城 一 岩 山 ノ 警	二 一 洞 一 独 谷 嶺 一 雄 尚 一 九 龍	一 一 洞 一 雄 基 嶺 一 雄 基 雄 基	出 祭 下 汝 坪 一 長 路 洞 一 青 鶴 洞	名 ヲ 含 ム 八 月 二 日 早 朝 慶 興	名 古 城 小 隊 長 瀬 曹 長 以 下 一 二	守 備 隊 長 竹 之 内 大 尉 以 下 五 二
				稀ナリ	人馬ノ通行	峻ニシテ最近	独谷嶺ハ急	

三

一、七月月報ニ記載セシ新阿山守備隊周圍境界木
 柵工事ハ八月二十日完了セリ
 二、其他特記事項ナシ
 第三節 警備施設

第二章 對岸ニ於ケル治安概況

第四節 琿春縣

琿春縣内一般治安ノ狀況ハ逐次其基礎確立良
 好ノ景況ニ向ヒツ、アルモ接壤蘇領ヨリノ思
 慮的動向亦大ニシテ縣内警備機關ハ全力ヲ舉
 ケ匪賊ニ對シテ部落防衛ノ完壁ヲ期スルト共ニ
 之等不良分子密偵ノ侵入防止策ヲ講シツ、ア
 リ

而シテ今回琿春國境監視隊ヲ編成シ滿蘇國境
 地帯ニ配置スヘク着々準備中ニシテ昭和十一
 年一月ヨリ部署ニ就カシムル計畫ナリ
 亦集團部落ノ構成警察自衛團ノ訓練鞏化等警
 備機關ノ充實ト共ニ外部ヨリノ杞憂ハ一掃サ
 ルヘク住民亦安ンシテ生業ニ従事シ得ヘシ

第五節 汪清縣

汪清縣内一般治安ノ狀況ハ日滿軍警ノ至嚴ナ
 ル警戒ト積極的討伐ニ依リ逐次良好ノ景況ニ
 向ヒツ、アルモ匪賊ノ合流統一シ其行動尖銳
 化シ各所ニ出沒金品ノ強奪人質ノ拉致等敢行
 シアル現況ニ鑑ミ相當警戒ヲ要スルモノアリ

第三章

對岸ニ於ケル馬匪賊並共匪ノ

第六節 兵馬匪ノ狀況

一、
 琿春一 東寧縣境附近ノ狀況
 琿春一 東寧縣境密林地帯ニハ依然德義軍新起
 軍占中山隊占東洋隊等約六〇名アリテ該地附
 近山間僻地ニ出沒大ナル活動ヲ見サルモ之等
 匪賊ハ主義又ハ思想的傾向全然ナク純然タル
 強盜的賊團ト見做レ他ノ共匪トノ連絡全然ナ
 ク單獨ニ行動シ來リタル狀況ナルヲ本年五月
 中旬頃南滿ニ於テ開催サレタル階級戰線統一
 會議ニ於テ右賊團モ系統アル團體ニ編入セシ
 ムルコトニ決定シタルヲ以テ近キ將來共產主

義的色採ヲ帶ハシメ同一戰線上ニ活動セシム
ルモノ、如シ

第七節 共匪ノ狀況

一 琿春縣滿蘇國境線長嶺子附近ノ狀況

長嶺子附近滿蘇國線附近ニハ八月上旬東北人

民革命軍第二軍第二獨立師第二團第四連々長

金化(本名金恭革)以下約三〇名移動シ來リ蘇領

ヲ背景トシヨ滿軍警ノ討伐ヲ巧クニ回避シ各

所ニ出沒シアリ

而シテ該匪ハ六月初旬頃第二團長候國忠王政

治委ヲ總指揮トナリ周琿地方ノ武裝隊ヲ奧地

ヘ移動セシムルニ決スト同時ニ第四連ノミ殘

留シ 琿春縣 下河南統治區域ノ 工作命令ヲ 受ケ
 タルヲ 以テ 即時移動ノ 筈ナリシ 處ニ 滿軍警ノ
 討伐ヲ 怖レ 八月ニ 入り 漸ク 河南ニ 移動シタル
 本隊ニ 八十餘名ノ 中高抗日 青年義勇團ヲ 配
 屬セラレ オリ 全員 武装シ 萬一 日滿軍警ヲ 討伐
 スルモ 王政治 委ヨリ 引揚 命令ナキ 限り 絶對ニ
 河南 地區ヲ 死守スヘシトノ 嚴命ヲ 受ケアリ
 ニ 汪清 琿春縣 境十里 坪附近ノ 狀況
 十里 坪附近 聯合 共匪團 八月上旬 全員 敦化縣
 沙河 方面ニ 向ケ 移動シタルヲ 再ヒ 林海山ノ 率
 エル 約ニ 名並 池竜哲ノ 率ユル 約六〇名ノ 賊
 團ヲ 移動シ 來リ 凉水 泉子 北方 地區ニ 徘徊 金品
 ノ 掠奪 或ハ 警備力 少キ 自衛團等ヲ 襲撃スヘク

(1) 計畫シアリ其狀況次ノ如シ
 共匪凉水泉子滿人街及新興洞ニ侵入シ全地
 今署員之ト交戦ス
 八月十六日午後十時十分凉水泉子滿人街ニ
 共匪約ニ〇名侵入シ人質拉致中ヲ巡羅中ノ
 自衛團員之ヲ發見誰何ノ際急射ヲ受ケ負傷
 ス

(2) 領警分署ニ於テハ銃聲ニ依リ直チニ出動應
 援シタルモ夜間ノ爲ニ賊影ヲ失ス
 前項同時刻頃凉水泉子東方ニ料新興洞ニ於
 テ夜警團員林榮善ハ同地東端附近ヲ警戒中
 潛伏セル賊三名ヨリ一齊射撃ヲ受ケ胸部貫
 通翌十七日死亡ス

(3)

十里坪附近共匪ハ襲撃目標並其要領ヲ左記
如ク協議セリ

(1)

襲撃目標ニ於テ都市ハ大肚川嘎呀河涼水
泉子ヲ自衛團ハ南大洞及嘎呀河管内鳳梧
洞自衛團ヲ集團部落石頭河子集團部落
ヲ工作目標地トナス

(2)

放火隊決死隊戰鬪隊ノ三隊ニ分チ放火隊
ハ市街地及集團部落ヲ襲撃ノ際富豪並其
他建物ニ放火燃焼セシメ決死隊ハ人質拉
致要人暗殺ヲ戰鬪隊ハ目標地ニ於ケル各
警務機關ヲ襲撃シ其進出及追撃ヲ牽制ス
ル一方多量の金品掠奪ヲ各担任工作トス

(ハ) 戦法

大部隊ニ依ル包圍戦法ニ依リ放火及決死
兩部隊ノ活動ヲ敏活ナラシメ以テ人質拉
致要人暗殺並放火金品掠奪ヲ敢行スルコ

ト此暴動ニ作ニ並行シテ宣傳ビラヲ撒布シ
ト白色群衆ノ民族革命意識啓發ニ努ムルコ

三、對岸ニ於ケル兵馬共匪ノ狀況別紙要圖第七ノ
如シ

第四章 蘇聯邦ノ狀況
第八節 軍隊ノ狀況

	ポ セ ツ ト			煙 秋			
歩	砲	騎	歩	其	砲	騎	歩
兵	兵	兵	兵	他	兵	兵	兵
八〇〇	一五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	四〇〇
	計六〇〇			計二〇〇			
戰車	裝甲自動車	大砲	軍馬	戰車	大砲	軍馬	
二	一	一六	三〇〇			六〇〇	各種二五

一、南島ニ於ケル蘇軍ハ七月中ニ於テ移動シタル
 才、現在判明セル主要地ノ兵力ニ就テ各隊報ノ
 モノヲ綜合スレハ大要左ノ如シ

バ
ラ
バ
ン

ス
ラ
マ
ン
カ

砲	騎	歩	輜	工	砲	騎	歩	戰	工	化	砲	騎
			重					車		學		
兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵

二	五	一	一	二	二	三	四	一	二		二	五
五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	五	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

計
一
二
〇

計
九
〇

自 曲 逾 大
動 射 擊
車 砲 砲 砲

裝 大 戰
甲 砲 車
動 砲 車

一
〇 九 三 二 六

一
七 二 九

八

ニシコトワニ重砲兵一大隊移駐ス
 去ル七月中旬在哈第十九軍團命令ニ基キ太平
 洋第一師團所屬在チムルキン半島重砲第十三

浦 潮

ニコリスク

輜重兵	航空兵	工兵	砲兵	騎兵	歩兵	戰車兵	化學兵	工兵
一〇〇〇	三〇〇	五〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	三〇〇〇	一六〇〇	二五〇〇	三〇〇〇
▽七三〇〇				▽計二六六〇〇				

聯隊ヨリイワノプロ中佐ノ指揮スル約三〇〇名
 ノ一々大隊ハ本年シコトワ東海岸ニ新築セル煉
 瓦及木造兵舎四棟ニ八月上旬移駐シコトワ沿
 岸警備ニ任シタルカ爾來同隊ヲ單ニシコトワ
 重砲隊ト稱シアリ
 三 太平洋第一狙師所屬重砲第十三聯隊ニ最新式
 特別重砲兵聯隊ト改稱ス
 去ル八月一日在哈極東軍兵器部ヨリ第一師宛
 最新式レ式重輕戰車三口台ヲ列車輸送セラ
 レタルヲ同師ニ於テハ直チニ所屬重砲隊ニ配
 屬セシメタリ
 而シテ爾來同重砲隊固有名稱ヲ呼稱セス單ニ

特別重砲聯隊ト稱セリ
 浦潮部隊ニ化學兵器多數配屬セラル
 太平洋第一師所屬在浦東嶺毒瓦斯第四十一聯
 隊ニ最近歐露ヨリ毒瓦斯放射機並ニ細菌撒布
 機ニ十機其他化學兵器等多數配屬セラレタル
 方尚引續キ同隊幹部ノ歐露交代等アリテ極東
 化學部隊ノ充實ハ他兵科ノ充實ト相俟テ著シ
 キ速度ヲ加ヘツ、アリ
 五 蘇聯邦ハ日本海々上面警備ノ爲最近極東中心
 主義ヲ決定シ海兵ノ充實ハ勿論空軍ノ同地方
 集中ヲ断行シツ、アリ
 蘇聯邦ハ對日戰ノ全ク不可避ナルヲ叫ヒ浦潮
 中心ニ極メテ真劍ナル戰略工作ヲ實施シアル

ハ事實ナルヲ去月七月上旬日本軍攻威力ノ研
 究ト題スル秘密軍事研究會議ヲ極東軍司令部
 樓上ニ於テ開催セラレタル由ナルモ同會議ニ
 基キ謀者ノ傳フル處ニ依レハ蘇聯邦ハ現滿洲
 及朝鮮ニ駐屯スル日本陸軍ハ現極東陸軍ヲ以
 テ充分應酬シ得ラル、モ沿海々上面ヨリ來ル
 日本海軍ハ恐ラク容易ニ蘇警備圈ヲ突破シテ
 陸軍又ハ陸戰隊ヲ以テ我カ蘇領土内ヲ侵犯ス
 ルニ至ルヘシ
 此威力アル日本海軍ニ對シ現海軍兵力ハ沿海
 警備ニモ不充分ナルヲ以テ先ツ充實セル空軍
 ニ依リ日本海制海權ヲ把握スヘシト衆議一決
 シ空海軍ノ浦潮中心集主義ヲ執ル處トナリ現

一〇

在ハバロフスク以外ノ空軍主力ヲ浦潮ニコリ
 スク地方ニ集中シツ、アリ
 六、歐露ヨリ移駐セルカプロース師團イマン及ウ
 スリースク方面ニ移駐ス
 本年六月上旬歐露ヨリカプロース師團イマン
 及ウスリースク方面ニ移駐シタルオ爾來同師
 團ハ滿蘇國境各地ニ分駐在哈軍ト共同警備ニ
 任シアリ編成裝備部隊號其他詳細不明

一、煙秋一六成間ノ鉄道工事開始ス
 煙秋及煙秋東北方約十軒ノ六成間ノ鉄道敷設
 工事ヲ去ル八月十五日ヨリ開始シタリト這ハ

第九節 其他ノ状況

先般決定シタルラズドリノエヨリ分岐シバラ
 バシセゲミスラウヤンカ經由煙秋ニ至ル鉄道
 敷設ノ終點タル煙秋方面ヨリ開始シタルモノ
 如シ
 ニ沿海州マラトフスキールホルズニ於テ農民
 ノ暴動起ル
 去ル七月二十日沿海州マラトフスキール(ハバロ
 フスク東北方約四八軒)一帯ノ集團農場ニ於テ
 農民ノ暴動起リ七百餘名ノ農民ハ手ニ棍
 棒鋏等ヲ携ヘ同地農場内コルホーズ監督及共
 産黨員宿舍ヲ襲撃シ數十名ヲ殺害シタル上格
 納庫宿舎等ヲ二十棟焼却シタリト
 急報ニ依リ同地官憲ハ直チニ首謀者百十七名

ヲ逮捕シ目下ハバロフスク監獄ニ收容嚴重取
 調中ナルカ原因ハ農場監督及共產黨員等ノ苛
 酷ナル彈壓ト恰モ囚人ノ如キ酷使ニ依ル農民
 ノ不滿鬱積シ居リタルヲ白色バルチザンノ煽
 動ニ依ルモノナリト謂フ
 蘇聯當局ニ於テハ本件ノ國外洩漏ヲ恐レ嚴重
 取締中ナリト
 三、アウール驛カイホンカ驛間ニ於テ列車脱線顛
 覆ス
 ハバロフスク西方約百二十軒ノ地點アウール
 カイホンカ驛間ニ於テ去ル八月三日頃ハバロ
 フスクニ向フ列車脱線顛覆シ死傷者約四〇名
 ヲ出シタリト

原因ハ同地方居住反蘇分子ノ計畫的妨害工作ニ因ルモノ、如ク蘇聯當局ニ於テハ事件ヲ極秘ニ附シ犯人嚴探中ナリト言フモ最近同地方鉄道ニハ此種事故ノ發生頻リト起リ當局ニ於テハ犯人逮捕ニ必死ノ活動ヲ續ケ居ルモ犯人ハ何レモ反蘇分子ニシテ其出没巧妙ヲ極メ而モ同地方在住民中之等反蘇分子ト通シ裏面援助ヲ爲スモノアル等之ヲ檢舉ハ極メテ困難ノ狀況ニアリト調フ

第五章 滿洲國軍隊警察自衛團ノ狀況

第一節 滿洲國軍隊

一、滿軍配備ノ狀況ハ前月報ノ如ク討伐警備ニ

器 兵				種 類	員 数	摘 要
同	六	同	三	三八式歩兵銃	五	各自携行
右銃劍	五石那	右銃劍				
二	二	五				
五	〇					
ク	ス	シ				

從事シアリ
 分水嶺派遣排撤退シ
 分水嶺派遣排歩兵中尉李永春以下二六名(將校
 一中士一伍長三一_二等兵三)ハ八月二十六日
 午前七時揮春出發訓戎弁列車ニテ事故ナク延
 吉ニ向ヘリ
 之ヲ裝備左表ノ如シ

第二節 滿洲國警察

一、琿春縣内滿洲國警察ハ逐年良好ノ景況ニ向ヒツ、實務ニ服シアルモ警察官ノ素質上ヨリ觀察スルニ未タ其素養及能力ノ點ニ於テ充分ナラストナシ琿春地區並縣治安維持會ニ於テハ七月申ニ於テエカ訓育輩化ヲ圖リ其技倆ノ向上ヲ見タリ

藥 彈				
七星手槍彈	三八式實包	六五石那式實包	軍 刀	七 星 手 槍
一八	一〇〇七三	一〇〇〇二	一 九	一
將校携行	ク	各自携行	將校携行	梱包

ニ琿春縣對蘇國境監視隊配置計畫

滿洲國軍政部ニ於テハ滿蘇國境確保ノ爲今回
琿春縣滿蘇國境ニ國境監視隊ヲ配置ノコト、
ナリ之ヲ人員募集中ナルヲ昭和十一年一月ヨ
リ配置ニツカシムル豫定ナリ
而シテ之ヲ編成附表第一ノ如ク配置狀況別紙
要圖第八ノ如シ

第一二節 滿洲國自衛團

特記事項ナシ

第六章 交通々信ニ關スル事項

第一三節 交通

一 柳多島橋着工豫定

從來柳多島橋ハ木橋ニシテ流失スルコトニ回
ニ及ヒ慶源一揮壽トノ交通極メテ不便ニシテ
目下渡船ニ依リアルニ鑑ミ今回鉄筋コンクリ
トニテ構築スヘク目下之カ着工準備中ナリ
而シテ之ヲ構造並其他ノ事項左記ノ如シ

構造

鉄筋コンクリート

橋長

四五〇米

幅

六米

總工費

四十六萬八千圓

落札價格

二十六萬八千圓

工事請負者

大連榊谷組

工事着手月日

九月中旬起工式ノ豫定

一〇

二 訓我一電湾子橋梁工事進捗状況

訓我一電湾子間鉄橋ハ八月下旬完成ノ豫定ナ

リシモ先月ニ引續ク降雨ニ障害セラレ之ヲ完

成ハ九月下旬トナル豫定ナリ

三 豆満江渡船ノ状況

本月中殆ント降雨ノ日多ク平素水ナキ小流モ

凹地モ水ニ浸サレアルモ豆満江ノ増水ニ依ル

渡船不能ナル箇所ハ當守備管区内ニナク比較

的圓滑ニ實施セラレアリ

四 管内道路ノ景況

管内道路ノ景況ハ先月ニ引續ク降雨ニ依リ甚

タシク破損或ハ泥濘シアリ

新阿山附近五龍川橋ハ破損ノ爲交通不能トナ

リ目下一本橋ニ依リ交通シアル狀況ニシテ車
 輒ノ通過不能
 亦慶興下流方面ニ於テ中旬降雨ニ依リ一時交
 通杜絶セシ個所アリタルモ日ナラスシテ復旧
 セリ
 其他ニ於テハ交通ニ支障ヲ來シタル個所ナシ

第四節 通信

一 軍用電話線
 新阿山一慶興間軍用電話線ハ先月以來ノ降雨
 ニ依リ障害多ク通話不能トナリ居タルモ遮信
 局ニ依リ保線ノ結果八月二十五日ヨリ通話シ
 得ルニ至レリ

其他全般通話 = 支障ナシ

ニ警備用電話線

管内全般 = 支障ナシ

三鳩訓練

當隊鳩訓練ハ概ネ良好ノ景況ニアリテ所期ノ

目的ヲ達成シツ、通信距離ノ擴大ニ勉メツ、

アリ

第七章 補給經理衛生ニ關スル事項

第五節 補給

一 羅南支庫ヨリノ補給及現地調辨共ニ圓滑ニ實

施セラレアリ

第六節 經理

一 慶源及各分屯隊各所修繕工事請負決定近ク實施スヘキ旨經理部ヨリ通牒アリタリ

二 當隊經理業務ハ全般的ニ良好ニ實施セラレアリ

第七節 衛生

一 本月中衛生一般ノ狀況ハ良好ニシテ体重ニ於テモ先月ニ比シ一人平均約一匹三四ノ増加ヲ示セリ

第八章

歩兵第七十六聯隊國境守備隊編成裝備

一 編成裝備附表第二ノ如シ

附表第一

琿春縣對蘇國境監視隊編成表

職別	本 部										中 隊 (ケ三)			備 考					
	隊 長	副 官	附 官	軍 需 尉 官	軍 醫	書 記	士 兵	自 動 車 運 轉 手	本 部 用 乘 馬	計	中 隊 長	中 隊 長	給 與 司 務		司 務 上 司	給 與 司 務	中 隊 長	士 兵	中 隊 用 乘 馬
階級	上(中)校	上(中)尉	少校(上尉)	尉 官	々	軍 士	中(少)士	兵	二	二	上 尉	中(少)尉	中(少)尉	上 司	中 司	中(少)尉			四七六
人員	一	一	二	一	一	三	二	一六	二	二九	一(三)	四(三)	四(三)	一(三)	一(三)	二(六)	二(三)	一三(三五)	一〇五
乘馬	一	一	二						五	九	一(三)	四(三)	四(三)			二(六)		三五(七五)	
摘 要			内一名ハ四系ノ憲兵出身者					全 右								内ハ憲兵出身者トス	内四六分隊長	五分ノ一ハ上等兵	

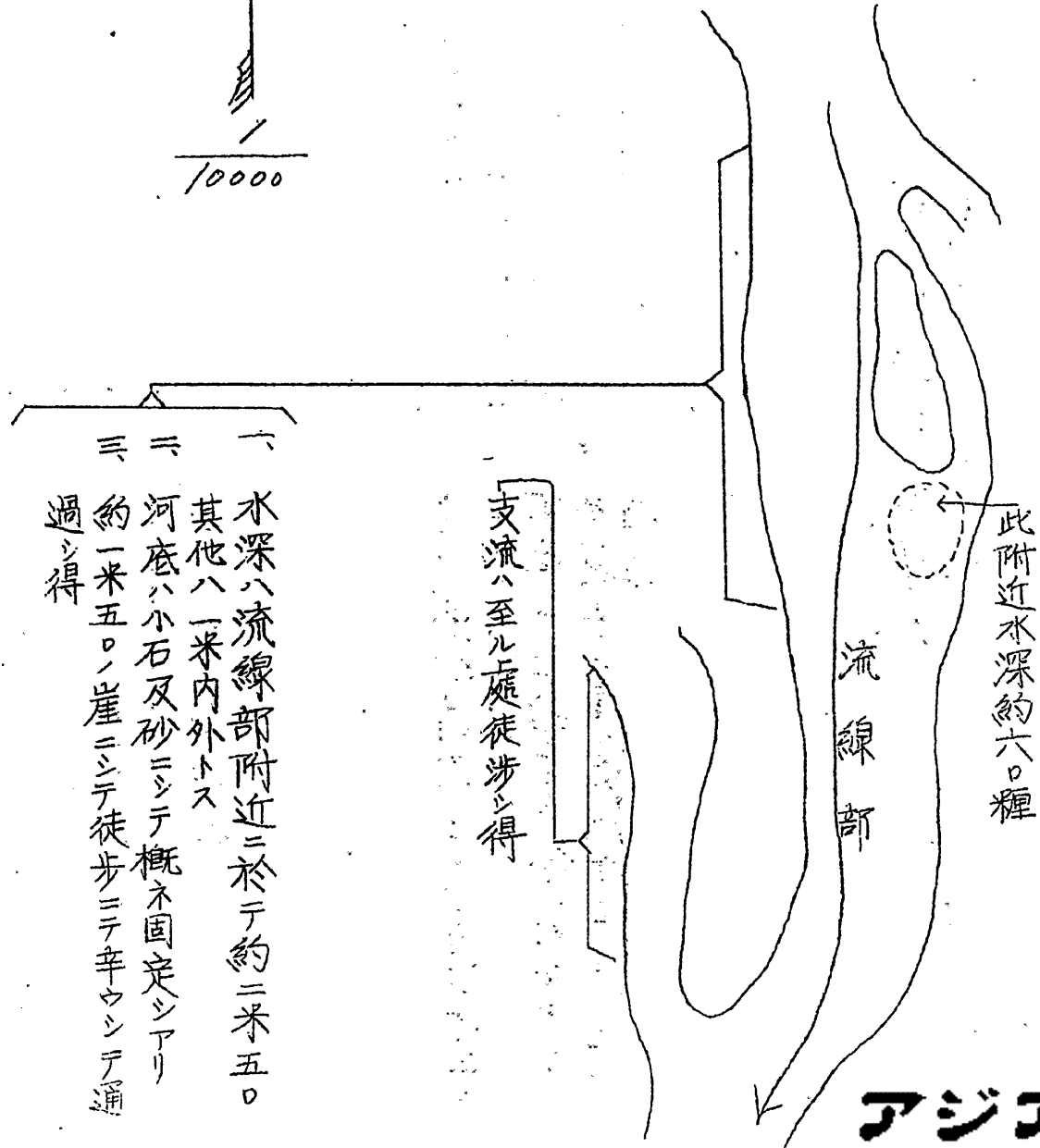
一 本表中()内数字ハ三ヶ中隊分ノ人馬ノ数ヲ示ス
 二 本表ノ外本部要員トシテ鮮語通譯ヲ十五名ヲ置クコトヲ得

步兵第七十六聯隊 編成裝備一覽表 昭和十年八月三十一日調

備考	區分								編成人員	合馬匹	裝備	職員表摘要					
	計	古城小隊	穩城小隊	新阿山小隊	第三中隊 (古城小隊欠)	第二中隊 (穩城小隊欠)	第一中隊 (新阿山小隊欠)	本國境守備隊					隊別				
一、本表中「レ」ヲ附セルハ特種輕機ヲ示ス 二、摘要欄人員ハ本表外トス 三、編成定員ニ對スル不足人員 大尉一兵一看護兵九	1						1	佐中	銚主計軍看縫工靴 計手医長兵長 計計軍看縫工靴 計	乘馬 計	重輕重輕 機機擲擲	長谷川 敏之助 步兵中佐					
	4				1	1	1	1					佐尉	馬			
	5	1	1		1	1	1						尉小				
	7			1	2	2	2						曹				
	7	1	1	1	1	1	1	1					長伍				
	26	2	2	2	6	6	6	2					兵等上				
	51	5	5	5	12	12	12						兵等二				
	339	28	28	28	85	85	85						兵等一				
	440	37	37	37	108	108	108	5					計				
	1							1					長工				
	1							1					計主				
	3				1			2					手計				
	2				1			1					医軍				
	4	1	1	1				1	長ゴ								
	9	1	1	1	2	2	2		兵ゴ								
	1							1	長工								
	1							1	長工								
	22	2	2	2	4	2	2	8	計								
	462	39	39	39	112	110	110	13	計								
	2							2	馬								
2							2	馬									
8	1	1	1	2	1	2		機									
11/2	1/1	1/1	1/1	1/3	1/3	1/3		機									
3				1	1	1		擲									
12		1	1	3	3	3		擲									
	高野 佳雄	岩井 徳三	步兵少尉	榎本 武男	步兵大尉	山崎 義男	永田 敏夫	長谷川 敏之助									
入院兵三					入院兵一		入院兵一										

1154

柳多島上流附近河川偵察要圖
(八月八日)

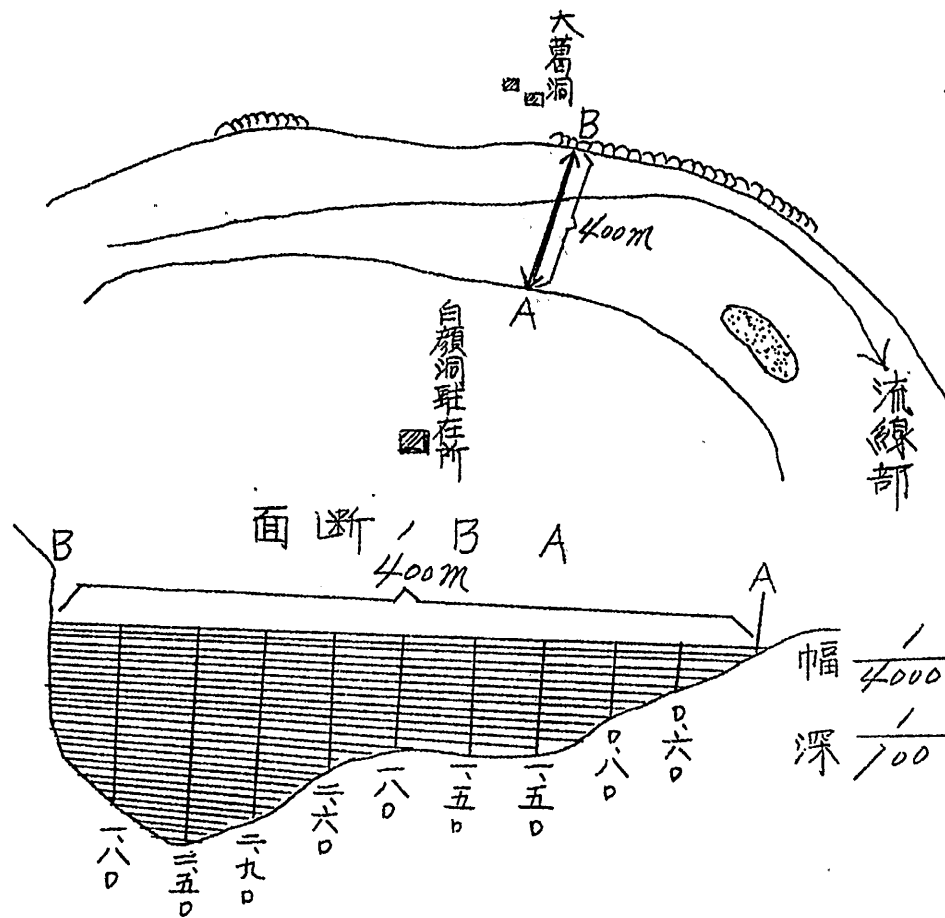


備考
本偵察地域ハ柳多島ヨリ約二千米上流トス

白顔洞渡船場河川偵察要圖

(八月一十九日)

別紙要圖第二



備考

一、兩岸ノ景況
 A 點附近ハ砂原ナリ B 點附近ハ斷崖(岩崖)ニ果
 砂崖一米五〇

二、河底ノ景況 砂地

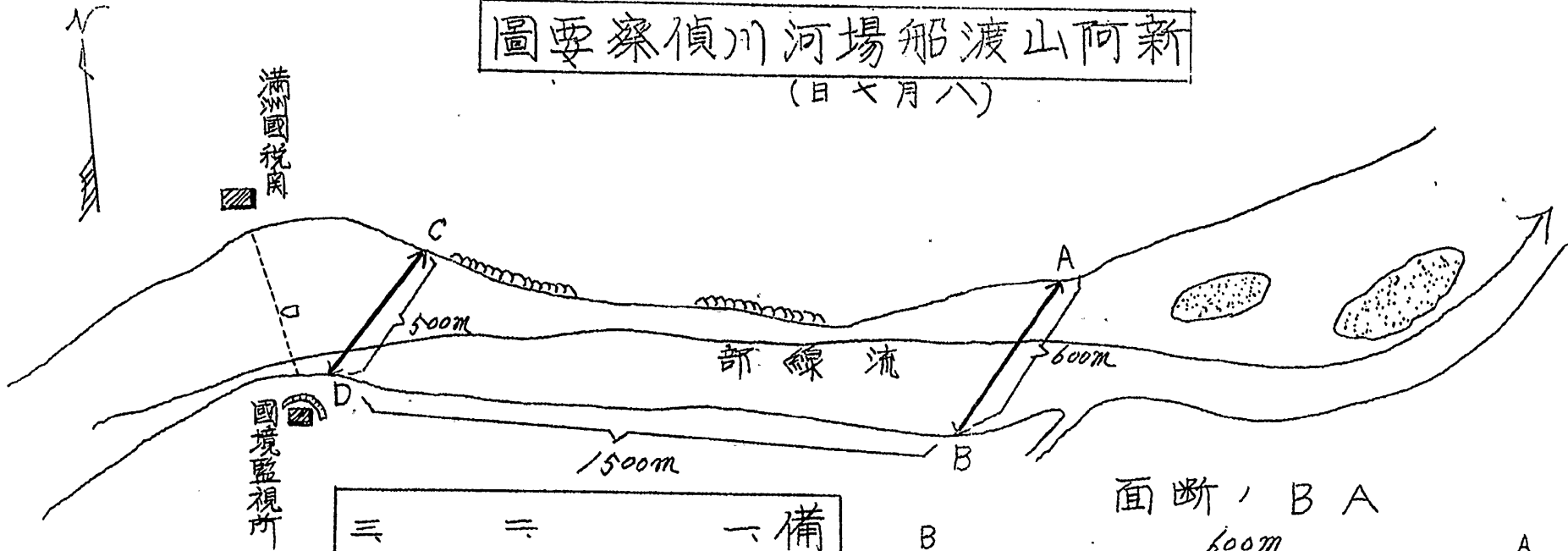
三、流速一米

幅	4000
深	100

新阿山渡船場河川偵察要圖

(八月七日)

別紙要圖第三



備考

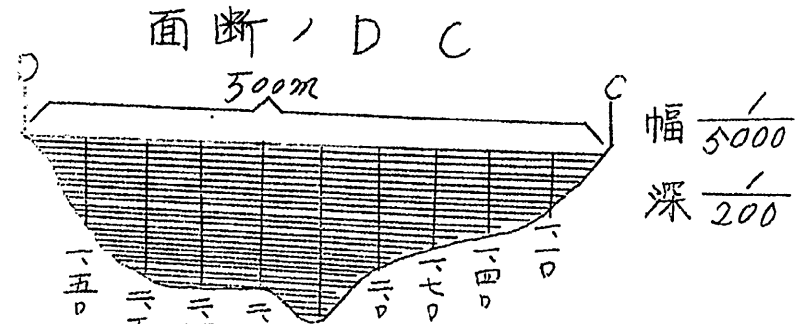
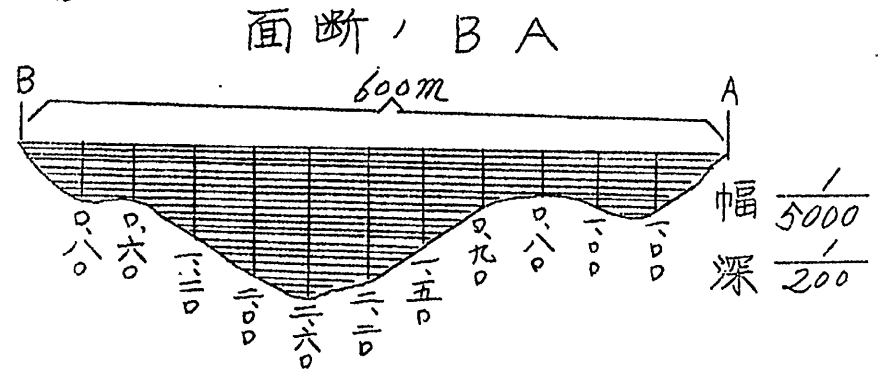
一、兩岸ノ景況

A 點附近ハ砂崖ニシテ高サ一
 C 點附近ハ土砂ニシテ着舟乗陸可能
 B D 點ハ砂原ナリ

二、河底ノ景況

泥砂
 所々ニ泥土アリテ四〇糎位泥濘ス

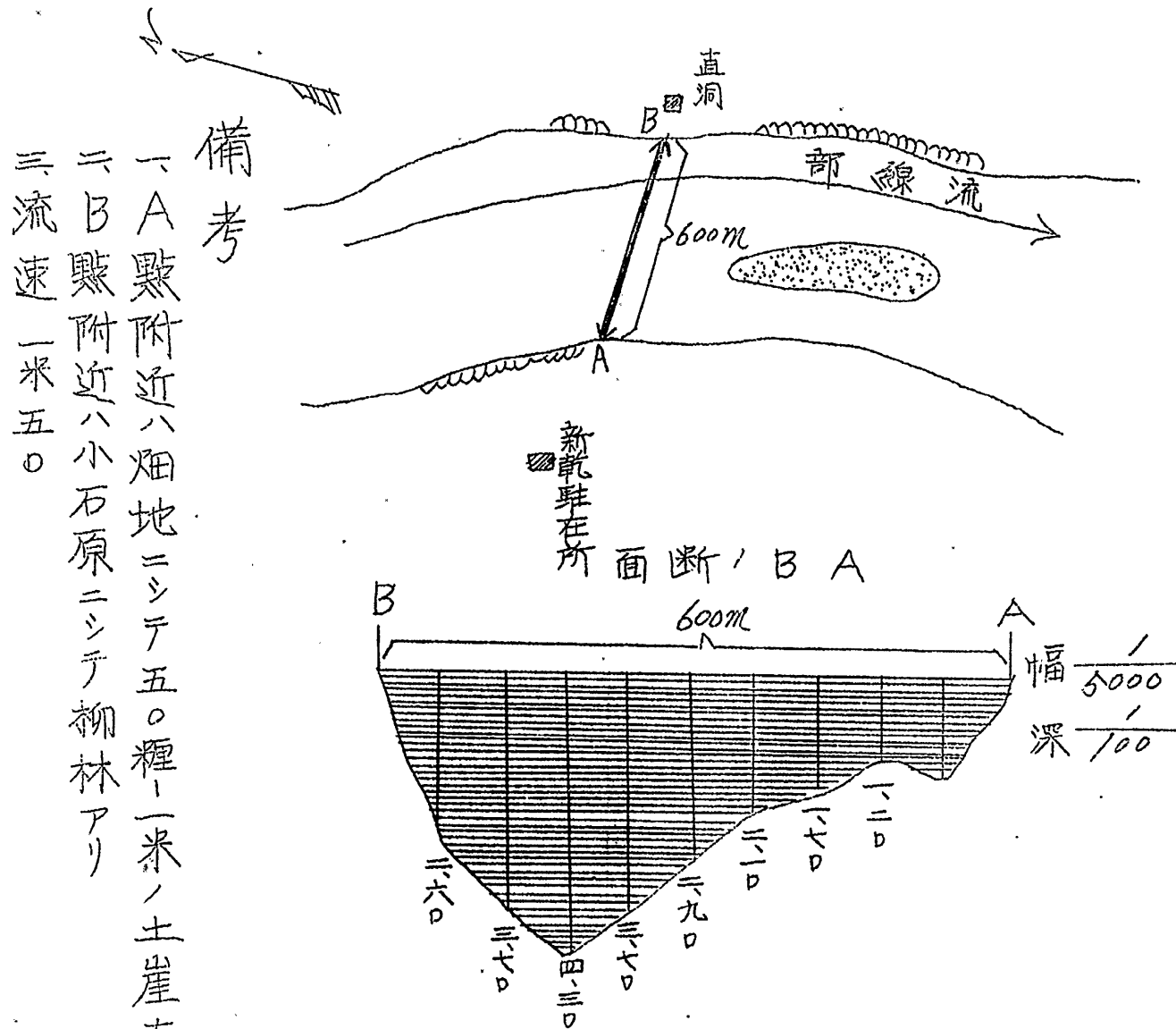
三、流速 一米五〇



新乾附近渡船場河川偵察要圖

(八月二日)

別紙要圖第四

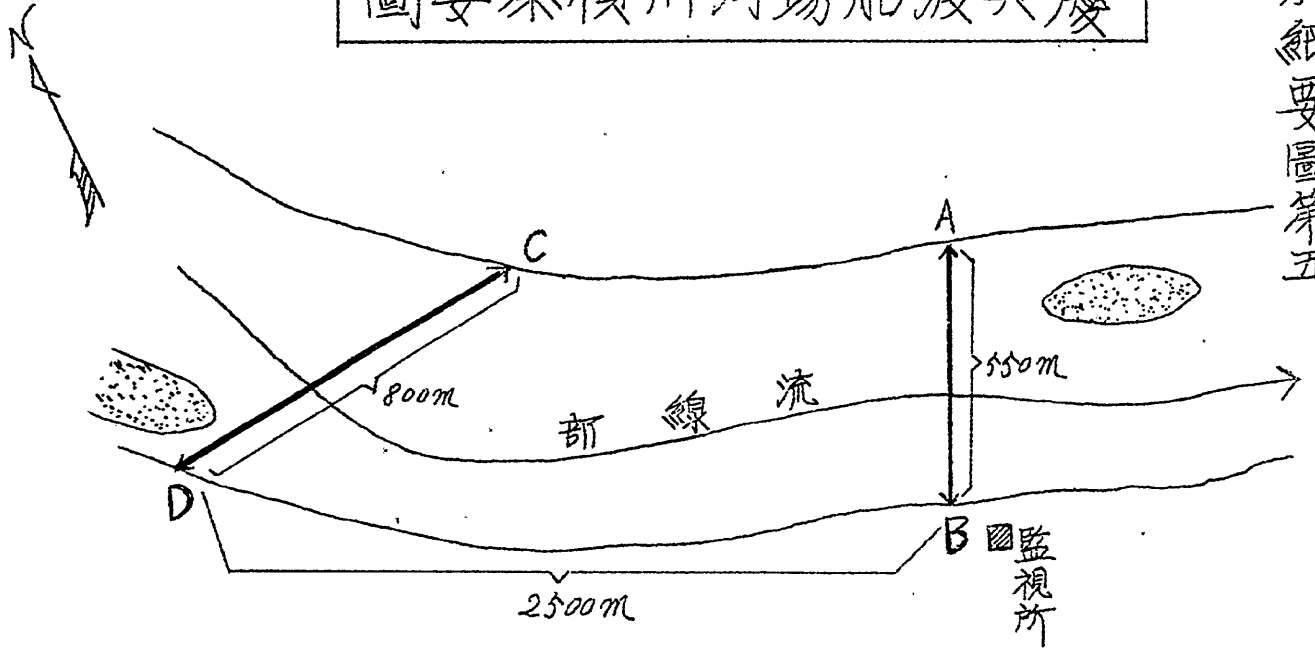


備考

- 一 A 點附近ハ畑地ニシテ五〇糶ノ土崖ナリ
- 二 B 點附近ハ小石原ニシテ柳林アリ
- 三 流速一米五〇

慶興渡船場河川偵察要圖

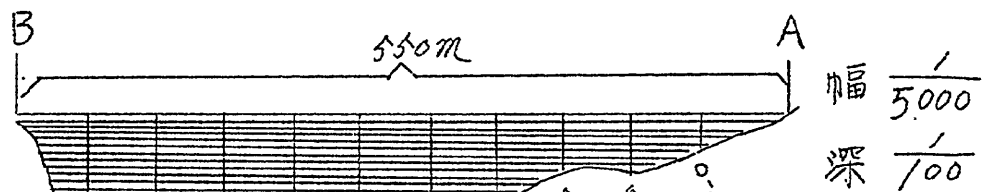
別紙要圖第五



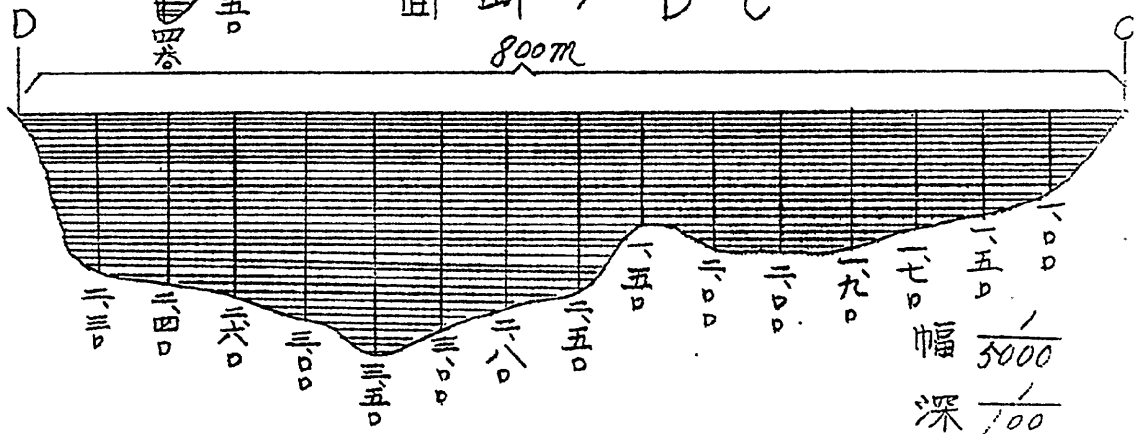
備考

- 一 河底ハ砂
- 二 兩岸ノ景況
 - A點附近ハ砂原ナリ
 - B點附近ハ二米内外ノ砂崖ナリ
 - C DハA點ニ同シ
- 三 流速一米五〇

面断、B A



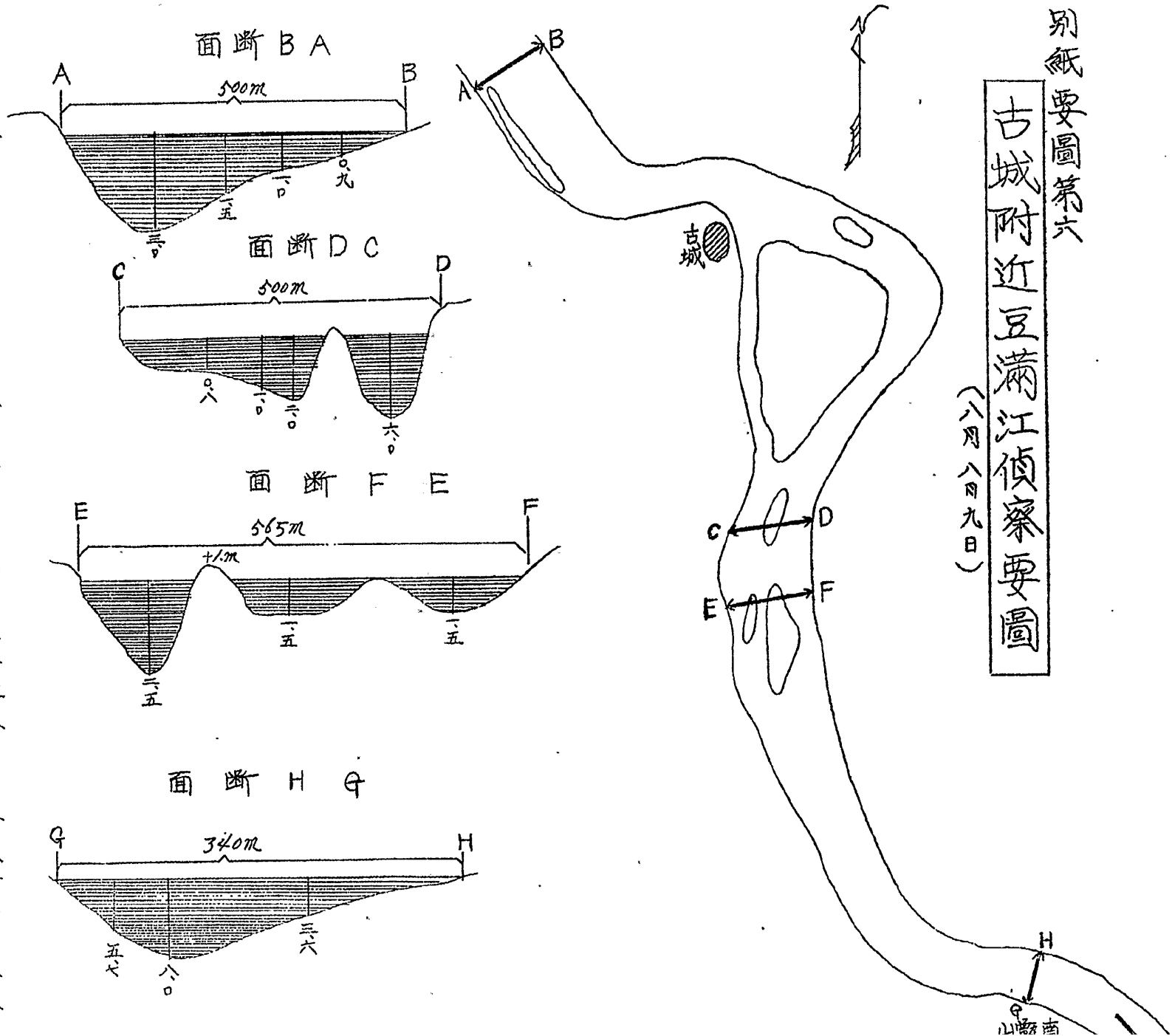
面断、D C



別紙要圖第六

古城附近豆満江偵察要圖

(八月八日九日)



備考 一 G H ヲ除ク外ハ漕渡場及浮游橋架設ニハ河幅及水深ノ關係上適當ナラス

二 河底ハ一般ニ細砂上面(ニミロ糧)ノ粘土ニシテ錨ノ固定ハ困難ナラス

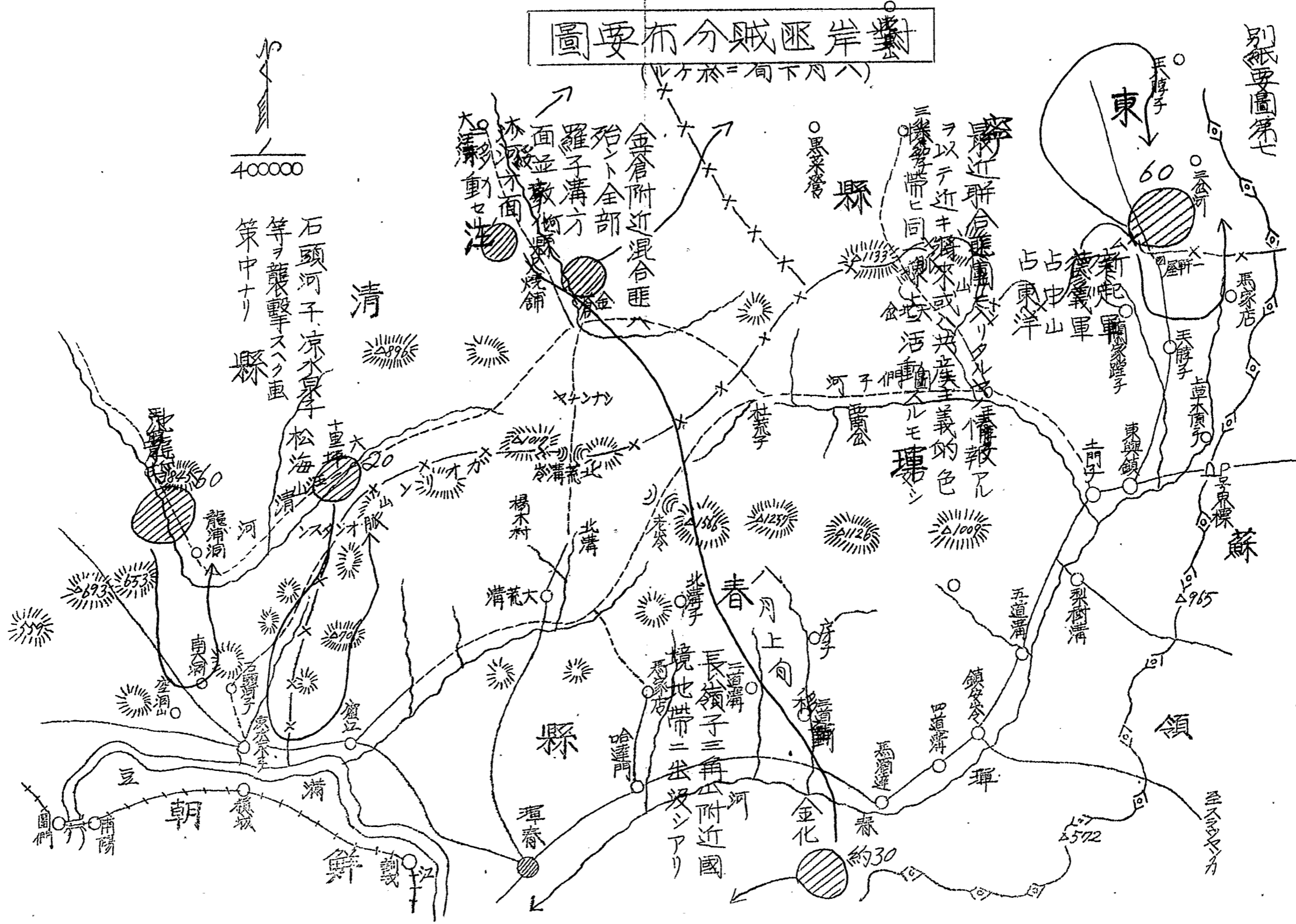
三 河岸ノ断崖ハ細砂出ニシテ工事ハ容易ナリ

三 河岸ノ断崖ハ細砂出ニシテ工事ハ容易ナリ

對岸匪賊分佈要圖

(八月下旬ニ於テ)

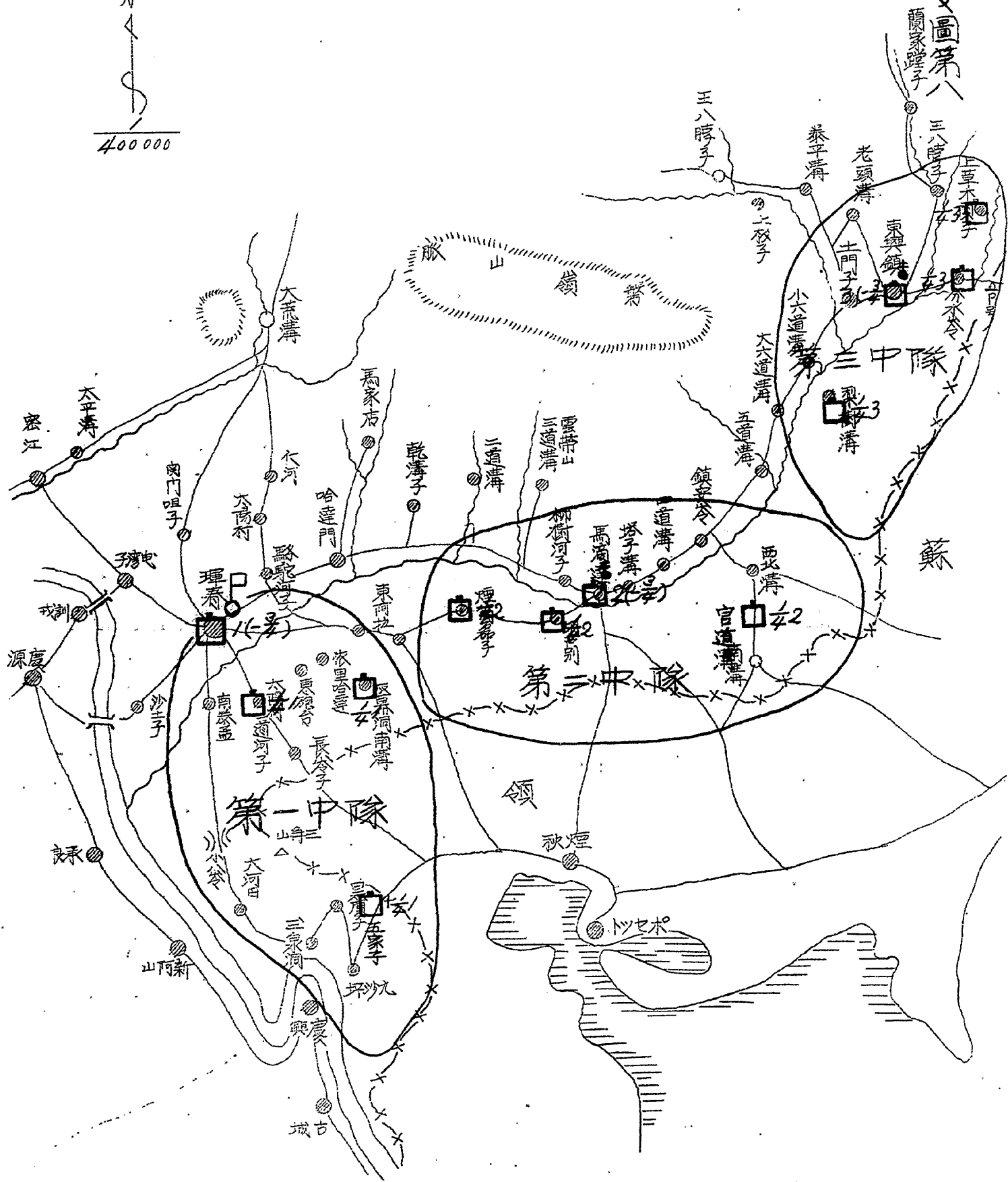
別圖第七



畫計置配隊視監境國蘇對縣春理

別紙要圖第八

400 000



116211

歩兵守備隊第三五號

歩兵第十七聯隊國境守備隊月報(自六月至八月)

昭和三十二年八月二十七日
歩兵第十七聯隊國境守備隊



目次

- 一、警備討伐ノ概況
- 二、對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況
- 三、交通通信補給經理衛生ノ概況
- 四、編成裝備一覽表

發送先

軍師旅聯隸下各隊

一 警備討伐ノ概況

一 隅見山守備隊

ノ警備ノ為出動

最近ニ道清流域ニ蠢動スル匪賊ハ流筏時期ニ入ルヤ其活動頻ニ殆氣ヲ足シニ道清流域ニ於ケル各作業場ニ対シ金品提供ヲ脅迫シ其事業ヲ沮害スルノミナラス附近住民ニ対シ勢カラ不安ノ脅威ヲ共ニツツアル現況ニ鑑ミ縣警務局ニ於テハ該流域ノ治安警備ニ任セシムル傍ラ採木公司事業保護ノ目的ヲ以テ縣警察隊一分隊ヲ派遣シアルモ尚執拗ナル小匪ノ横行熄マズ八月一日ニ道清三八脖子(縣城東北)約

七折) = 於テ警戒中ノ縣警察隊第一中隊第一分隊長以下十五名ハ双江第二隊約五〇名ト遭遇交戦約一時間ニシテ賊ヲ撃退セ

リ
右情況 = 基キ帽兒山守備隊ハ二道清流域ノ匪賊ヲ掃蕩スルニ次ス

2. 日時

八月二日午前七時帽兒山兵營出發同日午後四時三十分收營

3. 人員

高橋隊長以下四二名(含憲兵一、通譯一)

4. 行動ノ概況

附首第一ノ如シ
尚中五鎮守備隊長田中火尉ハ討伐指導中

地形偵察ノタメ隨行セリ

5. 成果 屢次ノ出勤ニ依リ縣城附近ニ出没

スル匪賊及通匪者ニ對シ皇軍ノ直接出勤

ニ依リ勦カラス脅威ヲ與ヘタルト共ニ佐

民ニ對シ皇軍ノ威武ニ親炙セシメ臨江縣

ニ於テ實施中ノ宣撫工作ヲ容易ナラシメ

タリ

非常特別警備實施

入動機 七月中旬以來ノ豪雨ノ爲鴨綠江ハ

逐次氾濫シ七月廿八日頃ニ四米増水シ対岸鮮

側トノ交通ハ全ク杜絶シ七月廿八日午前十時五分

頃上流ヨリ帆柱ヲ植立セル高瀬船漂流シ来リ帽

兒山中江鎮間唯一ノ連絡線タル電話線ヲ切断シ加

フルニ中ノ島、大屯柱ヲ折損シ通信全ク絶タルニ

至レリ當時密偵ノ報告ニ依レハ頭ニ道積流域ノ各匪團ハ合流シテ帽兒山兵營北側地区ノ范盛ヲ待テ帽兒山襲撃決行ノ情報頻々トシテ到着シ縣城内ノ人心極度ニ動搖シ圍境警備上將又帽兒山守備隊自衛上特別警備ヲ要スルニ至レリ此カ爲帽兒山守備隊長ハ七月二十九日午前十時ヨリ警備會議ヲ決催シ特別非常警備ヲナスニ決ス

2. 日時 七月二十九日ヨリ三日間

3. 人員 帽兒山守備隊長以下全員

4. 行動ノ概要

- (1) 守備隊全員出動ノ態勢ヲ採ル
- (2) 晝夜共ニ主トシテ兵營ヨリ頭道積ニ至ル間ニ巡察ヲ派遣シ巖窟ニ警戒ス
- (3) 夜間各哨所共歩哨ヲ倍加シ四周ヲ動哨セシメ

二 通商守備隊

人動機

附近ヲ嚴戒シ後崗哨所トノ連絡ニ特ニ注意ス
 五 成果 七月三十日頭道溝附近ニ匪賊ノ潛
 入セル情報アリテ守備不穩ノ一群アリシ
 天守備隊ノ特別警備ノ極メテ嚴ナリシト
 断乎タル處置トニ依リ縣城ハ襲撃ヲ免レ
 國境警備上半穩無事ナルヲ得タリ

七月二十六日來ノ豪雨ニ依リ崩壊流失セ
 山道路偵察ヲ兼テ土匪ノ出没頻繁ナル大
 荒溝尖皮溝附近ノ搜索示威ノタメ出動ス
 二 日 時

八月三日午前五時通商出張今日午後二時
 三十分歟還ス

3. 人員

佐々木大尉以下三十八名(倉庫兵二名通訳一)

4. 行動ノ概要

主力ハ土口子峯尖波藩ヲ經テ大荒藩ニ前進シ更ニ小荒藩干家藩ヲ經テ土口子峯ニ到著乘馬自転車候ヲ合シ縣ヨリ差向ケタル自転車ニ依リ無事飯遠ス

乘馬偵察隊(三輪特務曹長以下三名)ハ大荒藩ヨリ更ニ大荒藩門ニ進出シ黄柏甸子ニ通スル道路ヲ偵察ノ上尖波藩ヲ至テ土口子ニ至リ主力ニ合ス

自転車候(田中軍曹以下五名)ハ國道ヲ小荒藩ニ前進シ道路及附近ノ状況ヲ偵察ノ

上小荒清ヲ正回シ出口子卷ニ於テ主力ニ
合ス

成果

水災ニ依リ交通困難トナリ孤立無援ノ状
態ニ陥リ不安ニ駆ラレアル大荒清附近ノ
民心ヲ安定シ出沒頻繁ナリシ小匪ヲ威嚇
セルハ任務達成上大ナル効果アリタルモ
ノト信ス

三、鮮内部隊

厚昌守備隊

警備行軍

目的

厚昌郡對岸長白縣下ノ鴨綠江岸ニ近ク小
匪出現ニ爲メニ鮮例江岸附近ノ民心不安

- ニ駆ラレツツアリレヲ以テ警備並ニ示威ノ目的ヲ以テ行軍ス
2. 同時
七月二十六日ヨリ同月二十九日ニ至ル四日間
3. 人員
守備隊長以下一四名
4. 行動ノ概要
屯営ヨリ葡洞ヲ至テ東興ニ至リ細竹洞ヲ經テ歸隊ス途中警備ノ目的ヲ以テ空包射撃及演習ヲ実施シ東興ニ於テハ警察官ト對抗演習ヲ實施シ示威行動ヲ行ヒタリ
5. 成果
四日間ニ互ル警備行軍ヲ實施シ且以途中

45

演習ヲナシ殊ニ東興ニ於テハ地方警察官
 小村抗演習ヲ実施セシタメ民心ヲ安定シ
 対岸匪賊ニ対シ示威ノ目的ヲ達シ成果ヲ
 収メタルモノト認ム

演習ノ実施ニ當リテハ地方警察官
 小村抗演習ヲ実施セシタメ民心ヲ安定シ
 対岸匪賊ニ対シ示威ノ目的ヲ達シ成果ヲ
 収メタルモノト認ム

演習ヲナシ殊ニ東興ニ於テハ地方警察官
 小村抗演習ヲ実施セシタメ民心ヲ安定シ
 対岸匪賊ニ対シ示威ノ目的ヲ達シ成果ヲ
 収メタルモノト認ム

一 政情

臨江縣

二 政情 治安ノ概況

一 本年五月初旬臨江縣長劉維清ハ渭沙河警察署長麻振宇ニ職務停止ヲ命シタル上不法監禁罪ノ名称ニテ拘引留置セル事件ニ付奉天高等檢察庁檢察官ヨリ莫相調査ヲ安東憲兵分隊長ニ囑託アリタルニ付七月二十一日同憲兵分隊ヨリ松野曹長來臨莫相調査ヲ三日間ニ亘リ實施シタルカ其結果縣長ノ非行明瞭トナリタルヲ以テ松野曹長ハ麻署長及吉田正憲ヲ証人トシテ同行七月二十四日飯安セリ

乙 縣警務局長温定泉ハ昭和九年未頃省當局

指令ニ依リ詳表ヲ提出セルカ其後安東
 省新設ニ依リ省内ノ人事ニ其依トナリ一
 時留任ノ状態ニアリタルカ斯ノ如キ状態
 ヲ繼續セシムル時ハ部下統制ニ其志氣
 ニ天影響シ又最近統出シアル諸事ノ不祥
 事件ノ一遠因トナリ憂慮スヘキ状態ニ
 アルヲ以テ今回省長ヨリ辭職認可ノ復命
 アリタリ
 而シテ其後任者ノ任命アル迄ハ劉縣長之
 ヲ兼任スルコトナレリ
 3. 閩省曰下峒見山守備隊配屬憲兵ニ於テ檢
 察中ノ木柵把頭通匪者謝維馨外六名ハ檢
 安維持上ニモ亦賊界ニ天相當大ナル影響
 ヲ及ホスモノアルヲ以テ此際亦業者ノ後

採 = 肉 的 確 ナル 規定ヲ 設ケ 將來 匪 賊 =
 金 呂 提 供 等 ノ 不 祥 事 ヲ 根 絶 セ シ ム ル 如 ク
 地 区 治 安 維 持 会 長 = 上 申 方 決 定 ス ル ト 共
 = 現 在 檢 挙 中 ノ 者 = 対 ス ル 處 分 方 法 毛 協
 議 穴 ル 処 ア リ タ ル カ 之 カ 處 分 ハ 當 分 保 留
 ス ル コ ト ト セ リ

輯安縣

ノ 七 月 二 十 三 日 通 化 守 備 隊 長 井 上 大 尉 ハ 治
 安 維 持 会 顧 問 ト シ テ 警 備 指 導 並 狀 況 視 察
 ノ 夕 ヲ 飛 行 機 = テ 來 輯 縣 公 署 = 於 テ 縣 長
 以 下 ヲ 指 導 ノ 上 同 日 飯 還 セ リ
 乙 八 月 十 四 日 午 后 一 時 ヲ 縣 會 議 室 = 於 テ
 縣 復 興 委 員 会 ヲ 開 催 左 記 事 項 ヲ 決 議 ノ 上
 同 三 時 散 会 セ リ

左記

① 集團部落建設貸付金振當ノ件
② 警備道路改修ノ件

③ 復興工作ニ基ク峯後方面ノ集團部落建設
七月十八日ヨリ約ニ週間ニ亘リ折田參事
官劉警務局長堀江指導官等ノ現地指導ニ
依リ著シク進捗セシカ水災ニ依リ積土崩
壊等相當ノ被害ヲ蒙リ寺崎甲斐指導官峯
後ニ出勤シセカ復旧ニ努メタル結果頭道
歳子横路台上ノ集團部落ヲ完成シ引続キ
高力河子青溝子久財源子霸王朝ノ集團部
落建設中ナリ
④ 縣公署ハ從來縣長以下狹隘ナル事務室一
所ニ於テ執務シ來レル關係上統制ヲ缺キ

且其他ノ建物ハ官吏ノ宿舍ニ充当シ使用
 人薪炭等ノ如キモ縣至費ヲ以テ負担スル
 等公私混淆シ來レル悪弊ヲ打破シ事務ノ
 刷新肅正ヲ計リ冗費節約ノタメ從來ノ宿
 舎ヲ改造シ内務警務財務ニ区劃シ指揮統
 制ヲ明瞭ナラシメ官有建物ヲ宿舍ニ充當
 シアル者ニ對シテハ家賃ヲ徵收シ且家庭
 ニ於テ使用スル人夫薪炭其他一切ヲ何人
 負担トシ逼迫セル縣財政復興ノ一助トス
 ルコトニ決シ目下之カ實現ヲ急キツツア
 リ

二、治安

臨江縣

本期間ハ恰モ阿片採取期ナリシヲ以テ縣
 下各地ニ蟠居中ノ匪賊ハ或ハ長白縣八道
 溝ニ或ハ臨撫臨濛金縣境ニ移動シ專ラ阿
 片採取ニ專念シタル夕メ前期ノ如キ大集
 團匪ニ依ル都邑ノ襲撃等ヲ見サリシモ尚
 小匪ハ各地ニ横行シ高粱繁茂期ヲ利用シ
 人質拉置致殺傷脅迫等ノ不逞行為ヲ敢行
 シ其事件枚挙ニ遑アラズ高河川共ニ流筏
 ノ高沙ニアルヲ以テ之等ニ対スル策動熾
 烈ヲ極メ木業者ヲ脅迫シテ膏血ヲ絞り莫
 大ナル金額ヲ提供セシメ否サル者ニ対シ
 テハ木材ヲ燒却シ或ハ作業場ヲ襲撃スル

等惡辣ナル行為ハ全ク言語ニ絶ス
 而シテ最近阿片ノ採取ヲ死ト終ラセシマ
 以テ各匪ヲ漸次原根據地ニ引拳ケ其一部
 ハ江岸進出ノ形勢ニ在リテ阿片採取ヲ終
 ラハ如何ナル行動ニ出スルヤモ團リ難ク
 嚴ニ警戒ヲ要スルモノアリテ縣内ノ治安
 ハ全ク偷安ヲ許ササル狀況ニ在リ
 然レ共滿軍混成第三旅歩兵第三團ノ赴鳳
 二依リ一時警備兵力ノ手筈トナリタル縣
 下ニ其後交代部隊タル第六旅第七團及第
 一旅第一營ノ到着ヲ見既ニ第七團八嶺西
 地区ノ配備ヲ完了シ又嶺西地区ノ配備地
 区決定シ八月十五日六道溝駐屯部隊ハ任
 地ニ向ヒタルカ近ク全部ノ配備完了ノ予

〃

定ナルヲ以テ之カ完了ノ曉ニハ縣内ノ治安ハ小康ヲ得ルモノト思料サレ今後獨軍警ノ活動ハ一般ニ期待セラレアリ

臨江縣附近ニ於ケル匪賊分布狀況附番第二ノ如シ

輯安縣

通化縣第三区ヲ根據地トセル王鳳崗ノ一味尚魏胡萬等ノ匪團約二百ハ屢天橋清砦蟻河附近ニ侵入シ占林占滿洲中山好得局好保安小白竜等三十名内外ノ匪團ハ分散離合シテ西部桓仁縣境ニ近接セル地帯ニ出現シ乾中保安匪ハ第二三区方面ヲ横行シ鴨綠江ヲ下航スル船舶ヲ襲奪糧食ヲ掠奪シ或ハ民家ニ放火シ或ハ拉去セル人質

殺害スル等其被害ハ鮮人ニ及ビ暴威ヲ
 逞フシアリ
 東部臨通縣境ニハ紅土崖附近ヲ根據地ト
 スル九州匪ノ一味約百ヲ始メ人質拉去ヲ
 業トスル占山好金尙金山好天下好上山好
 等ノ小匪團ハ屢鴨綠江岸ニ出没シアリ
 崧后寶圍ヲ中心ニ飯順ヲ表明セル石秀峯
 青山全軍上江好救國軍等ハ武裝ノ休行動
 シ兎角ノ風評ヲ醸シアリ嚴ニ監視ヲ要ス
 ル状態ナリ
 鮮匪モ亦勢力挽回ニ躍動シ軍資金入手ニ
 狂奔シアル等治安ハ尙嚴戒ヲ要スル狀況
 ニ在リ
 輯安附近ニ於ケル匪賊ノ分布狀況附圖第

2)

三ノ如シ
 通化縣
 東南地区ニ玉鳳閣ノ一味約三百北部地区
 = 紅軍匪約二百及佔山東辺好谷局好大局
 好長山好等約五六十名宛ノ匪團蠢動シ輯
 安縣境附近ニ愛國軍西北軍西来好等約百
 名ノ匪團横行ス叢樹繁茂ノ度ヲ加フルト
 共ニ逆睹シ雜キ状況ニ在リ
 然レ共閩東軍ニ於テハ夏季討伐ニ引続キ
 縣下主要地ニ分散配置シ紅軍匪ノ徹底的
 討伐ヲ期スルト共ニ飯農工作ヲ實施中ニ
 シテ也カ成功セハ治安上相當ノ効果ヲ納
 ムルモノトス

第四警備機關

閩東軍

臨江縣方面

閩東軍ノ東邊道夏季討伐終了ニ基キ山城

鎮第五大隊第一中隊中山討伐隊主力ハ六

月二日原隊ニ返還シタルカ尙坪田特務曹

長以下三〇名ヲ八道江ニ駐屯セシメ專ラ

八道江ノ警備ニ任シアル外嶺西地ニノ匪

情ノ蒐集ニ努メ秋季討伐ノ準備工作ニ任

シアリ

輯安方面

係留守第五大隊ニ於テハ引續キ第二大隊ノ

二々中隊及第三大隊ノ一々中隊ヲ指揮下ニ入

レ夏季討伐打切後ニ於ケル剿匪工作ヲ實

施中 = アルカ各中隊ハ努メテ分^隊配置ノ區
定化ヲ避ケ積極的計代 = 努メ飯農工作制
匪工作ノ徹底ヲ期シ特 = 左ノ諸項 = 肉シ
情報ヲ蒐集シ且ツ之カ対策 = 遺憾ナキヲ
期シアリ

左記

1. 山通線確保ト重要都市確保ノタメ必要
ナル情報

2. 特 = 通化輯安線方面 = 於ケル灰色土賊
ノ動靜

3. 鮮匪ノ動靜特 = 共濟行作業

4. 紅軍匪ノ動靜特 = 老龍崗山脈及龍崗山

脈附近 = 於ケル稽行作業就中其地盤獲
得ノタメ細腕組織ノ拡張作業重要通信

2)

四) 七月二十三日通化守備隊長井上大尉ハ輯

交通線及都市ニ對スル襲撃企圖
 5. 繁茂期後半期ニ於テハ特ニ將來大隊防
 衛地区東部方面ニ作戰スヘキ場合ヲ考
 慮シテ地要地誌ノ蒐集
 6. 近ク通化—梅河口間ニ於ケル新線ノ
 測量ヲ開始スヘキヲ考慮シ該方面ノ情
 報蒐集並清掃(本件ニ関シテハ更ニ別ニ
 指示ス)
 7. 復興工作ノ進捗トモニ對スル妨害
 8. 露匪(紅軍等)ヲ指導シツ、アルモノノ狀
 況
 9. 事變記念日前後ニ於ケル不逞分子ノ策
 動

安縣迄安維持會顧問トシテ安指導並迄
 安情況視察ノ夕々午前十一時満鉄連絡飛
 行機=便乗來輯シ正午通化=飯還セリ
 (い)六月五日満鉄測量隊掩護ノ夕々來輯東崗
 =位置セル独守第三大隊未田中隊ハ教育
 訓練ノ夕々駐屯地大石橋=飯還スルコト
 トナリ之カ交代トシテ左記混成中隊ハ十
 九日午後一時鮮内(井義洲)満浦鎮)經由自
 動車ヲ以テ東崗=到著シ未田中隊ハ八月
 =十一日午前六時三十分出發鮮側經由飯
 還セリ

左記

將	校	准士官	下士官	兵	計
山本中尉		二	五	七二	八〇

備考

一 独守第三大隊第一中隊(鞍山)第二中隊

不(大石橋)第四中隊(瓦房店)ノ混成部隊ト

二 下士官中ニハ省護長一ヲ含ム

三 交代終了ト同時ニ第五大隊長ノ指揮
下ニ入レルモノトス

滿軍

臨江縣方面

ノ七月二十一日夕刻匪首雲中飛東勝等ノ合

流匪約二〇〇名ハ第五区三岔子北方約三

軒陳家堡子ニ移動蟠居何事カ畫策中ナリ

シヲ以テ三岔子駐屯ノ衛軍騎兵第七團第

二連(及)三連及警察署負協力嚴戒ニ努メアリ

夕ルカ翌二十一日午前三時頃突如該匪團
 ハ三念子ヲ襲撃セシモ荷軍警防戦ニ努メ
 外ル結果交戦約三十分ヲシテ賊ヲ陳家堡
 子方面ニ撃退セリ

乙混成第三旅歩兵第三團赴鳳ニ依ル交代部
 隊混成第一旅歩兵第一團長歩兵上尉松島
 弟以下四連(日系軍官歩兵中尉松岡憲夫ハ
 八月二日午後七時臨ニ到着セリ

混成第三旅歩兵第三團殘留部隊ハ第六
 連及第五連一々排一一二名ノ第三次輸送部
 隊ハ歩兵上尉李山ノ指揮ニ依リ八月七日
 午前九時高瀬船六隻ニ分乘鳳凰城ニ向ヒ
 出発ス

又混成第三旅配備與動ニ基キ蘇下各兩地区

一 鑿屯中ノ騎兵第六團八步兵第七團到着
 一 依リ混成第三旅騎兵第六團騎兵少尉板
 齊光典以下三連(三一六)名ハ八月七日午前
 九時臨江ニ引揚タリ
 5 混成第三旅日系軍官庄司中尉ノ卒エル騎
 兵連一三〇名ハ八月十日臨江出發三道溝
 上流大羊倉附近ニ於テ阿片採取中ノ匪首
 占中原ノ一味約一〇〇名ヲ討伐スヘクニ
 道溝ヨリ第二區臨撫縣境西南倉ヲ經テ大
 羊倉方面ニ出動セリ
 6 八月十五日前九時日系軍官上村中尉ノ
 卒エル歩兵一連及騎兵一連ハ同月十五日
 三道溝大羊倉方面ニ出動セル庄司討伐隊
 一 策广ノ為三道溝ヲ經テ大羊倉ニ向ケ出

勤セリ
 縣内ニ於ケル騎軍ノ配備耐面カ四ノ如シ
 輯安縣方面
 一 騎軍第一警備軍戸於テハ冬季討伐以來通
 化ニ行營司令部ヲ置キ混成第二三旅及第
 五六旅ノ一部ヲ以テ東辺地区ノ剿匪ニ任
 シアリシカ今回各旅ノ配備変更ニ伴ヒ在
 通化第五旅新展部隊ハ七月ニ十二月迄ニ
 奉天及小城鎮ニ販還シ第二旅ノ配備ヲ別
 表ノ通り変更シ七月十八日迄ニ其配備ヲ
 完了セリ

三、警察

臨江縣方面

1. 七月十八日午後二時頃第一区大粟子溝西北方約一邨里ニ匪首平末ノ一味約七〇名現ハレ鴨綠江航行中ノ高瀬船ヲ襲撃スヘク計原中ヲ帽兒山守備隊長ノ命ニ依リ隊遊撃隊三〇名出動シタルニ賊ハ之ヲ深知逃走ス

2. 七月二十一日大道溝警察署秋警長以下一〇名第三区老人沟(大道溝西北方約五料)地方ニ出動匪首中央軍義合軍文明軍ノ合流匪約三〇名ト衝突交戦ノ結果賊ニ名ヲ殲シ人質二名ヲ奪還ス

3. 七月二十六日奉天代参事官及青木指導方規

典土作指導ノ夕人ニ道清園枝溝方面ニ於
 張途中王八時附近ニ於テ匪首古山東順ノ
 一味約一〇名下ルヲ發見直午ニ護衛隊五
 警長以下一〇名ヲ以テ之ヲ攻撃セシメ交
 戰約三〇分ニシテ擊退賊二名ヲ殲シ拳銃
 二挺ヲ鹵獲後ニ損害ナシ
 又同下採木公司臨江分局ニ於テハニ道清上
 流王八脖子ニ於テ流筏作業ヲ實施中ナル
 カニ道清流域ニ横行スル匪賊ハ該作業場
 ニ對シ常ニ金品ノ提供方ヲ脅迫シ之カ為
 採木公司事業ヲ阻害シアルハ勿論同地附
 近住民ニ對シ勦カラス脅威ヲ與ヘツツア
 ル狀況ニ鑑ミ縣警務局ニ於テハ七月二十
 八日ヨリ流筏期間臨時警察隊一〇名ヲ派

遠附近警備ニ當ラシメアリ

六縣警務局ニ於テハ警察方充實ノ為ク員警
士千五名ヲ募集シ山林警備団員五名ヲ合
セ八月一日ヨリ敎習ニ着手セリ其敎習ハ三
月ノ予定ナリ

六縣警察隊第一中隊第一分隊長以下一五名
ハ八月十日午前八時城內出發警戒ノ為ニ
道清王八時半對リタルニ午前十時頃匪首
双三第二隊五〇名ヲ遭遇交戦約一時間ニ
シテ賊ヲ擊退セリ

八月三日午後二時頃首^匪双勝ノ一味約一〇
名ハ第二百六道溝外ニ現ル同地住民一名
ヲ拉致逃走セルカ急報ニ接シタル六道溝
警察署員八直ニ出動追撃シ三道羊念附近

於て交戦一時間ニシテ賊ヲ撃退人質一名ヲ奪還セリ

八月十七日四道清警察署永警長以下九名八四道清高力沟方面ニ出動匪首上山好ノ一味約三〇名トニ時間ニ亘ル交戦ノ結果賊一名ヲ殲シ槍一本ヲ鹵獲人質鮮人二名ヲ奪還ス

八月七日珍珠門警察分駐所長以下十三名ハ珍珠門東方約四軒概名松岑附近ニ於テ匪首紅勝軍ノ部下八名ト遭遇交戦三〇分ノ後賊ヲ撃退賊一名ヲ殲シ人質二名ヲ奪還セリ

以テ清警ノ兵力並ニ配置ハ前期間ト同様ナリ
本期間特ニ異動アリタルハ錯草項子分駐所

ヲ復旧四〇名ヲ駐在セシメタル結果六道溝
 警察署八一三名減少セリ
 輯安縣方面

人集團部落ノ保護徹底ヲ期スル爲メ八月七
 日縣治安維持会ノ決議ニ基キ警察定員ノ
 増員ヲ省公署ニ申請中ニアルカ差シマカ
 實現不可能ノ場合ハ請願警士ヲ採用ノ方
 針ニアルカ目下採用シアル請願警士九ノ
 如シ

- 第一区通溝城内 十五名
 - 第二区富有街 十五名
 - 第四区三道溝 三十名
 - 第六区花甸子 十五名
2. 八月十七日縣警察ノ南正警化ヲ期シ事務

刷新ヲ圖ルヘク左記ノ通り署長以下異動
任免ヲ發令セリ

左記

新任職別	姓名	前任職別	摘要
頭道崑子警察署長	孟希孔	久賊源子警察署長	
久賊源子	修輔臣	良民甸子	
良民甸子	攻子文	榆樹林子	
榆樹林子	郭維東	頭道崑子	
台上警察署々員	王克天	双岔河分駐所長	
熱鬧街分駐所長	崔宝生	高力河	
太陽岔	李明遠	台上警察署警長	
太平溝	藥鎮山	榆樹林子警察署警士	
双岔河	張志漢	元外岔警察署長	新採用
通渭警察署敬言長	張保漢	通渭警察署警士	

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

1198 ~ 1199

3年 12月 18日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



高口可分駐所長	第三中隊二級警長	第二中隊一級分隊長	警署第二中隊長	花岡子請願二級警長	警務局一級督察員	台上警察署	三級	三級警長	良民岡子警察二級警長	榆樹林子請願二級警長	輯安縣公署服務
徐鵬崗太陽會分駐所長	遲福林第三中隊警士	辛樹槐第三中隊警士	叢樹乾	趙玉亭第二中隊一級分隊長	郭文林久勝源子警察署警士	徐恒志台上警察署警士	馬遇山	姜鴻鈞榆樹林子警察署	金東一良民岡子警察署	王玉萃榆樹林子警察署	吳用伯極精警察署

3. 来ル九月九日冷爾英枚花江ニ於テ荷洲国
 皇帝陛下御親臨ノ基ニ大奥親艦式ヲ奉行
 引續キ地方ヲ行幸アラセラルルニ付警衛
 警備ニ遺憾ナキヲ期スル爲省公署警務方
 長ノ指令ニ基キ警衛警備計更ヲ樹立シ警
 務局内ニ本部ヲ署キ期間ヲ二期ニ分ケ第
 一期ヲ八月一日ヨリ同月二十日迄第二
 期ヲ八月三十一日ヨリ九月十一日迄トシ
 首席指導官ノ指揮下ニ日暮各警備機内ト
 密接ナル連絡ヲ保持シ特別警戒ヲ實施中

四山林警備團

臨江縣方面

八月七日午前二時頃頭目不祥ノ匪賊約ニ
 。名(内半数ハ長銃他ハ新調ノ槍ヲ携行スハ
 突如第三正五道溝裡悦末機ヲ襲撃シ同地駐
 在ノ山林警備團第二分団高永川以下三。名
 ハ防戦ニ努メタル結果支戦約四時了ニシテ
 賊ヲ撃退シ賊九名ヲ殲シ槍九本大刀ニ振ヲ
 函獲負傷者ヲ二。名ヲ下ラサル見込ニ我ニ
 警士戦死一員傷三名山林警備團ノ配置及其
 兵力ハ左表ノ如シ

左表

臨	地	名	兵力	地	名	兵力	摘要
江	江	望	江	樓	一		

蜻	悦	亢	坡	三
午	來	室	口	道
丙	棧	頂		清
四	三	子	八	明
二	〇	五		六
	西	吳	齒	三
	小	家	頭	道
	均	營		清
	齒	一	一	明
	四	〇	〇	五
			計一七四名	

三、交通通信復舊給衛生之概況

一、交通通信

臨江縣方面

七月下旬ヨリ引続ク豪雨ニ依リ鴨綠江並
各支流ハ頓ニ増水七月二十八日午前十時
鴨綠江ノ増水最高十八尺ニ及ヒ各江岸ハ
一時危険ニ頻シ縣城外トノ交通通信全ク
杜絶シタルモ天候ノ回復ト共ニ各河川撤
水シ遂次回復シタルカ其狀況ノ如シ

臨江縣方面

電話線

臨江 | 撫松間、臨江 | 長白間、臨江 |
通化間ノ各線ハ八月十三日迄ニ復旧ス

乙 電 報

臨江一 通化間ハ八月五日迄ニ復旧ス

3. 臨江一 撫板及臨江一 通化間ノ道路ハ橋

梁ノ流失破損ニ依リ人馬漸ク通行可能

ナルヲ諸車ノ通行不能ニシテ其ノ復旧

期日未定ナリ

4. 城内道路ハ從來屢ニ改修ヲ施シ事変高

時ニ比シ其面目ヲ一新シツ、アルヲ高

遺憾ノ点多クアルヲ以テ今回城内道路

ヲ徹底的ニ改修スルコトトシ七月二十

八月ヨリ改修ニ着手セルカ其状況次ノ

如シ

縣内住民ノ賦役ニ依リ七月二十八日

ヨリ八月二日迄ニ小石ヲ以テ道路ヲ

七寸ニ埋立八月三日ヨリ同月十日迄
 ニ其上ニ砂ヲ敷キ同月十五日縣當局
 ニ於テ検査ヲ實施尚居住日鮮人々其
 一部ヲ負担スルコトトシ目下寄附金
 募集中ナリ

輯安縣方面

ノ七月ニ十六日來ノ豪雨ニ依リ鴨綠江ノ
 増水最高七米五(七月十九日午五時)ニ達シ鮮
 内トノ渡船ハ勿論各河川ニ氾濫ニ依リ橋
 梁流失シニ十八日ヨリ交通ハ全ク杜絶
 セルカ八月一日天候ノ回復ト共ニ漸次
 減水シ八月二日午後ヨリ鴨綠江ノ渡船
 及通溝——羊魚頭間ノ自動車運行ヲ開始
 シ其他ノ道路ニ徒歩交通遂次復旧セリ

乙 輯安——通化間國道ハ國道局監督ノ下
 ニ吉川組ニヨリ昨年九月起工齋來工事
 中ナリシカ目下水害其他ニ依ル午直シ
 工事ヲ除ク外殆ント完竣シ八月六日ヨ
 リ自動車ノ運行ヲ許スニ至レリ
 但路面軟弱ニシテ通溝ヨリ頭道歳子迄
 約四時間ヲ要ス
 3 小通溝飛行場ハ水災ニ依リ一部河底下
 シ復田圃雜トナリ且附近ノ地形上火型
 飛行機ノ着陸ニ適セザリシヲ以テ在東
 崗滿鉄調査隊ニ於テハ新京建設事務所
 間ノ定期飛行ノ夕メ東崗東方民間耕地
 ヲ備上々八月五日起工賦役八百五十余
 名ヲ使役シ同月八日完竣セリ

通信(輯安縣方面)

電信電話線ハ七月二十六日來、洪雨ニ依
リ電柱ノ倒壊流矢ノ爲通信ハ軍用及通清
羊魚頭ノ電話線ヲ除ク外ハ全ク杜絶セル
カ縣内警備電話線ハ八月十五日迄ニ復旧
シ通化——輯安縣電話線ハ同月十六日復
旧シ電報事務ヲ開始セリ

六 補給經理

特記事項 ナシ

三 衛生

臨江縣 特記事項 ナシ

輯安縣 特記事項 ナシ

左記

洪水災後ニ於ケル傳染病予防ノ爲通清警察

署長以下ヲ勸勵シ八月六日通溝城外ノ清
 潔検査ヲ施行セシム
 凶隊内ニ細菌赤痢患者ニ名發生シ即時ヨリ
 第三期防疫ヲ實施中ノ虞患者終熄セルヲ
 以テ八月十二日防疫ヲ解除セリ

四編成裝備別紙ノ如シ

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

3年 12月 18日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



編成裝備一覽表

昭和十年八月三日現在
歩兵第七十七聯隊團境守備隊

備考	合	隊部内鮮						隊部境越		分		兵	器	編	科	成	馬	匹	人	員	馬				
		鎮南	鎮中	隊部	隊部	隊部	隊部	隊部	隊部	隊部	隊部														
公ハ無要要三員 官兵ヲ二小	計	藤崎第一	田中義一	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人	高城義人			
	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...	第...			
	20	3	3	2	2	3	2		3	2	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高		
	12	2	2	1	1	2	2		2	2	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高		
	7	2	1			1			1	2	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高		
	1										高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
	3	1	1							1	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
	1								1		高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	4	1	1			1	1				高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	2				1			1			高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	5		1	1		1	1		1	1	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	8	2	2			1	1		1	1	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	9	1	1	1	1	2	1	1	1	1	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	7	4	5	1	1	4	2	12	2	4	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	7	2	1			1	1			2	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	93	9	13	3	3	7	6		7	9	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	376	77	107	12	10	65	4		40	53	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	492	90	119	18	18	82	6	5	52	19	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	3	1	1					1			高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
	3	1	1					1			高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
5			1	1			1	1	1	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
10	1	1	1	1	2	2		1	1	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
3							3			高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
15	3	3	2	2	2	3		2	2	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
2	九	10	二	二	八	六	一	五	七	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
1	三	13	〇	〇	六	八	二	四	一	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
2										高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
11	11	11						1	11	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
16	2	3	1	1	2	3		1	1	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
8	2	2			1	1		1	1	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
50	8	8	3	2	7	3	8	7	5	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
440	21	21	12	12	11	6		23	22	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
517	73	73	20	20	56	69	112	54	71	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
	11	11						1	11	高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
										高	野	北	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	

摘要

秘

歩七八守常第三六號

歩兵第七十八聯隊國境守備隊月報
至八月二十一日

歩兵第七十八聯隊國境守備隊

1213





- 一、警備(討伐)ノ概況
- 二、政情(治安)ノ概況
- 三、關東(滿軍)警察隊ノ狀況
- 四、交通(通信)衛生ニ關スル事項
- 五、編成(裝備)表

報告通報先

一、師步三旅、步七八、步七七守隸下各守

警備(討伐)ノ概況

(一) 外 盆 溝 守 備 隊

被拉去者鮮人ノ言ニ依リ匪首都世信(六月ニ
 十日外盆溝守備隊ニ於テ射殺シタルモノ
 ノ部下一味六七名ハ巢窟タル孟某ノ住宅ハ
 輯安縣第三區大古馬嶺(外盆溝西北方十二
 料)一東南方山谷ニ在ル旨探知セル外盆溝守
 備隊ハ之カ包圍殲滅シ目的ヲ以テ八月六日
 午前一時被拉去者鮮人李承浩ヲ道案内トシ
 テ同行ノ上守備隊長以下三十二名ハ七個頂
 子(大古馬嶺東南方タル目的地ニ前進同日
 早朝現地ニ到着包圍態勢ヲ整ヘタルモ濃霧
 ノ為展望不能ニ陥リタルヲ以テ濃霧ノ晴レ
 ルヲ待テテ午前十時四十分若干ノ誘出射撃

(二)
 月十日ノ如キ同地ニ於テ牛一頭ヲ屠殺ノ上
 住民ヨリ糧食ノ提供ヲ為サシメアルノ外八
 約七八十名ハ石青溝附近ニ移動シ來リ附近
 密偵ノ報告ニ依レハ匪首占林中山好ノ部下
 後五時無事販隊セリ
 索シツツ途中要所ニ於テ威嚇射撃ヲ實施午
 守備隊ハ爾後大小古馬嶺一大陽岔附近ヲ搜
 縄入質拉去用若干ヲ發見押收シ夕リ
 殺セリ而シテ附近搜索ノ結果布製彈帶一捕
 ル際又モヤ逃走セントスル賊一名ヲ逮捕刺
 射殺匪賊ノ携帶品検査等ヲ實施セントシ夕
 備隊ハ引續キ包圍態勢ノ儘前進家宅搜索竝
 梁島ニ逃走シ夕ル際機ヲ逸セス射殺シ守
 ヲ浴セ夕ルニ狼敗セル賊一名ハ家屋前方高

喫食セント準備中ナリトノ確報ヲ得タル外
 倉溝守備隊ハ賊ノ潜伏箇所ヲ夜襲以テ撃滅
 スヘク八月十日午後十一時守備隊長以下三
 十六名ハ外倉溝出發大陽倉ト横路溝ト倒髮
 溝ト凉水泉子附近ニ警備行陣實施シ極力賊
 情搜索ニ努メタルモ賊ハ既ニ十日夕刻第三
 區肥寶山及桓仁縣境方面ニ移動シタリトテ
 得ル所ナカリキ然レト又賊逃走後ナリト雖
 匪賊ニ大ナル脅威ヲ與ヘタルト沿道住民ヲ
 安定セシメタル効果ハ大ナルモノアリト信
 ス

小鋪石河守備隊
 寛甸縣第五六區方面ニ燔居シアリタル約三
 百名ノ大匪團ハ食糧ノ缺乏ト頻繁ナル討伐

隊ノ行動ニ甚カラス衝動ヲ感シタルモノ
 如ク本旬ニ入り小部隊一分散シ放火拉去掠
 奪等ノ暴威ヲ振ヒテ一般民心ハ戦々競
 ヲトシテ安東及ハ鋪石河等ニ避難スル者續
 出シツツヤルノ状況ニ鑑ミ滿洲國警備機
 ヲ督勵シ治安維持ニ全カヲ傾注シ七月二十
 二日隊長以下二十二名第四五區方面跳梁匪
 賊ノ掃蕩並賊情搜索ノ夕メ午前五時出發殷
 家堡子一六庫倉滿一大白菜地一小荒溝一白
 菜地一頭道溝ヲ経テ午後八時飯隊セリ
 渭原守備隊
 一匪賊鴨綠江上航中ノ高瀨舟ヲ襲撃シ渭原
 守備隊現場ニ出動ス
 出動ノ動機

八月十四日午後一時十分頃渭原憲兵分駐所ヨリ左ノ通報ヲ受ク
管内舎長里(渭原邑内ト流六軒)ニ於テ今日ヨリ約二時間半前匪賊ノ為高瀬舟襲撃セラレタリト

渭原守備隊ノ處置

右ノ情報ニ基キ渭原守備隊長以下十五名賊情搜索ノ為午後一時三十分兵營出發午後三時三十分頃現地ニ到着シ舎長里警察官出張所ニ於テ左ノ襲撃情況ヲ知得シ越境ノ必要ヲ認メサルヲ以テ同日午後六時四十分一同無事歸隊セリ

匪賊襲撃状況

八月十四日午前九時三十分頃舎長里對岸

井橋(黒溝)ニ通スル江岸ニ系統不明ノ満匪
 十三名現ハレ上航中ノ高瀬舟ヲ襲ヒメリ
 ケン粉玉蜀黍其他衣類ヲ掠奪シ尚船夫頭
 揚永尤外五名ヲ拉去黒溝方面ニ逃走シ其
 途中万車子對岸井橋裏山頂上ニ於テ八名
 ヲ釋放セリ其後ノ賊ノ逃走経路ハ不明ナ
 リ

政情 茲治安ノ概況
政情(輯安縣)

七月二十一日新定教科書ニ依ル教授法指導
 茲之力改正資料蒐集ノ為來縣中ノ安東省
 教育廳視學官荊百斛ハ翌七月二十二日ヨ
 リ二日間縣公會堂ニ於テ縣下學校教員百
 二十九名ヲ召集毎日午前八時ヨリ正午迄
 指導ヲ實施二十四日下航アハラ船ニテ
 歸還セリ
 之、前旬ニ引續キ縣公署ニ於テハ參事官以下
 各指導官總出ニテ嶺後第五六七八區内ニ
 於ケル復興工作ニ基ク保護部落建設指導
 督勵茲宣撫工作ノ為出張ニツツアリ
 而シテ一行中ノ折田參事官及堀江指導官

以下縣警察隊員三十五名八月一日嶺後
 第五區双岔河ヨリ榆樹林子ヲ經テ午後七
 時外岔溝ニ到著外岔溝迄大陽岔榆樹林子
 二於ケル保護部落建設ニ伴フ實地踏査茲
 之カ指導ン為八月二三日ノ兩日ニ互リ外
 岔溝ニ於ケル豫定ノ指導ヲ了シ八月四日
 鮮側楚山經由(行田參事官及堀江指導官警
 務局長)警察隊員ハ陸路縣城ニ向ケ出發セリ

(二) 治安ノ概況
 輯安縣

七月末ニ於ケル未曾有ノ水害ヲ蒙リタル外
 岔溝附近ハ爾來各村擧ツテ復旧ニ努メアル
 モ依然道路網及通信網ノ恢復ニ至ラス警備
 上遺憾ノ點尠カラス此機ニ乘シ動モスレハ
 匪賊ハ輿地集團部落ノ襲撃或ハ外岔溝附近
 ニ進出ヲ企圖シアルヲ以テ守備隊ハ警備ヲ
 至嚴ニシ極力匪禍ノ防遏ニ努メタルヲ以テ
 系統不明ノ小匪ノ出没ハ免レサルモ集團匪
 ノ横行ヲ見ス輯安縣西部縣境ヲ通シテ比較
 的治安靜肅化スルヲ得タリ
 然レ共八月十八日ノ如キ外岔溝警察署警士
 以下三名ノ匪賊豹変者ヲ出シタルカ爲之ヲ

知得セル一般附近住民ハ外金溝附近ノ情況
 ニ精通セル關係上集團匪ヲ誘導市街襲撃ヲ
 敢行スルニアラサルヤト不安ノ念ニ驅ラレ
 アル等ハ相當注意ヲ要スル所ナリ
 之寬甸縣
 八月初旬米匪首以下二百名縣内ニ潛入以來
 各匪團共活氣ヲ呈シ殊ニ鮮匪團ノ主義宣傳
 ニ共鳴シ朱匪首ノ傘下ニ蝟集シ或ハ之ト脈
 絡ヲ通シ其數又ハ統制戰略等ニ於テ又從來
 ヲリ優勢且巧妙トナリ從ツテ之カ討伐ハ益
 困難トナリ尚彼等ノ蠢動ハ奧地方面物資ノ
 缺乏茲討伐等ノ關係ヨリ漸次江岸地區ニ
 伸展シツツ主要村落襲撃ヲ敢行スル等繁茂
 期ニ當リ嚴戒ヲ要スルノ情勢ニ在リ

尚又縣内一般農民ノ疲弊及匪禍ニ依ル窮乏
 ハ逐日深刻化シ加フルニ當縣ノ救劑策ニ未
 タ徹底セサル為一般民ハ信倚ノ念ヲ怨嗟ニ
 替へ半ハ自棄的トナリ農耕地ヲ捨テ山東方
 面又ハ鮮内ニ引攀クル者或ハ匪團ニ殺スル
 者等漸次増加ノ傾向ニアリ之ヲ奇貨トセル
 朱匪首ノ傘下ニ在ル縣内有力匪賊東北軍天
 義勝軍海蛟訪友等ハ各村ヲ襲撃シツツ勢力
 ヲ得タル下ニ宣傳シ相當民心ニ動搖ヲ來サ
 シメアルヲ窺ハレ寸時ノ偷安ヲモ許ササル
 情勢ニアリ
 3. 桓仁縣
 日滿軍警ノ間断ナキ討伐ニ依リ四散逃走セ
 ル縣下潜在匪團力最近ニ至リ農村ノ疲弊其

極ニ達シ求メトスル食糧ニ乏窮ニアル彼等ハ捨身の行動ヲ取り各主要村落ニ侵入暴威ノ限リヲ盡ス等全ク素乱セル情勢ニシテ今後ノ警備方策刷新改革ノ要アリ

三、關東軍迄滿軍警察隊ノ狀況

獨立守備歩兵第四大隊下村中隊ハ七月末來桓仁縣沙尖子附近ニ進出同地附近ノ警備ニ任シアリタルカ八月三日上流通化縣ヨリ船舶綫ノ護衛ヲ兼ネテ下航ニ來リシ滿軍第二旅王營長以下約八十名一協力船後ヲ無事下航セシメタルト共ニ渾江奧地ニ蠢動シツツアリタル匪首大善人匪ノ討伐ヲ又敢行シタルカ如シ

乙、滿軍第二旅配置變更ス

混成第二旅部										旅別
通化										駐屯地
騎兵第五團部					步兵第二團部					團別
于溝子					熱水河子					駐屯地
第一連					第一營					營別
第二連					第二營					駐屯地
第三連					第三營					連別
第四連					第四營					駐屯地
第五連					第五營					連別
第六連					第六營					駐屯地
第七連					第七營					連別
第八連					第八營					駐屯地
第九連					第九營					連別
第十連					第十營					駐屯地
同										摘要
輯安縣第八區三道崴子					通化縣第八區小荒溝					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					
通化縣第七區于溝子					通化縣第五區富爾江口					

在通化滿軍第二旅配置表 昭和十年七月十五日現在

滿軍第一警備軍ニ於テハ冬期討伐以來通化ニ行
 營司令部ヲ置キ混成第二三旅及第五六旅ノ
 一部ヲ以テ東邊道地區ノ剿匪ニ任セアリシ
 力今同各旅ノ配置變更ニ伴ヒ在通化第五旅
 所屬部隊ハ七月二十二日迄ニ奉天及山城鎮
 ニ販還シ第二旅ノ配置ヲ左表ノ通變更シ七
 月十八日迄ニ其配備ヲ完了セリ
 因ニ其配置狀況ヨリ察スルニ第二旅ノ警備
 担任區域ハ通化輯安ニシテ討匪ノ重點ヲ通
 化北方地區ニ置キ一部ヲ以テ渾江上下船舶
 掩護ニ任スルモノ如シ

四、交通々信其他参考事項

七月末ノ豪雨ニ依リ鮮内國境自動車道路各
 所ニ崩壞シ一時交通々信杜絶ニアリシモ現
 在ニテハ略復旧セリ
 滿洲國側主要道路亦各所不通トナリ今尚復
 旧スルニ至ラス

五、編成裝飾表別表ノ如シ

編成裝備一覽表 八月二十日調 步兵第七十八聯隊國境守備隊

備考	合	隊部内鮮					隊部境越		分區			裝 備	編	成	
		城昌	潼碧	山楚	原渭	州義新	何鋪小	溝金外	地北駐	隊					
		萩原雅男	步兵中尉 中川甚太郎	步兵大尉 片山佳美	步兵中尉 植田新兵衛	稻川中佐	步兵中佐	永淵重文	步兵特務曹長 土岡崇太郎	長	別				分
18	2	2	2	2	6	2	2	筒	彈	擲					
10	1	1	1	1	2	2	2	銃	關	機	輕				
8	2		2		2		1	銃	關	機	重				
1					1			砲	兵	步					
1	1							砲	山						
4	1		1		1	1		佐	中	大	兵				
2		1		1				尉	中	少					
3					1			尉	中	少					
7	2		2		2	1		官	士	准					
7	1	1	1	1	2	1		長	曹	曹					
27 25	5	1	5	1	5	2	15 3	長	曹	曹					
3					2			長	曹	曹					
27 50	7	4	9	4	19		15 3	兵	等	上					
27 347	56	14	57	14	135		31	兵	等	二					
27 449	72	21	76	21	187	6	2 39	計							
1						1		計	主	總					
4	1		1		2			手	計	總					
3	1		1		1			醫	軍	醫					
5		1		1				長	護	護					
8	1	1	1	1	4			兵	護	護					
3					3			長	工	諸					
24	3	2	3	2	4	8	1	計							
27 473	75	23	79	23	171	14	2 39	計							
2						2		馬	乘	物					
5	1	1	1	1		1		馬	品						
7	1	1	1	1		3		計							
(3)	(1)		(1)		(1)			救	將	定					
								管	准	人					
27 (8)	(1)	(1)	(1)	(1)	27 (4)			官	下	員					
27 (3)	(2)	(1)	(2)	(1)	27 (5)			官	兵	員					
								計		員					
								匹		馬					
	減二八省護兵一將校 一兵員	減一八省護兵	減二八省護兵一將校 一兵員	減一八省護兵	減二八省護兵一將校 一兵員	減一八省護兵	減一八省護兵	減一八省護兵	減一八省護兵	減一八省護兵	減一八省護兵	減一八省護兵	減一八省護兵	減一八省護兵	減一八省護兵

一ケハ憲兵ヲ粗ハ粗擊砲ヲ無ハ兵線電信所員ヲ人馬ノ増減欄中ノ内ハ減ヲ示ス
二分派遣及入院ハ本表ニ含マズ

人馬増減
理由及人
員動狀

減一八省傷死

步兵第七十八聯隊國境守備隊對岸匪賊分布圖
八月月中旬

